

T-ACT

つくばアクションプロジェクト 活動報告書

2016.June



筑波大学
University of Tsukuba

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

目次 -T-ACT 活動報告書-

はしがき

アクション / プラン

UNICO ～星空から笑顔の輪を vol2～ (14053A)	1
松美池アヒルボート「博士号」の運用 Part 2 (14059A)	3
筑波大学「学生 YOSAKOI」企画チーム “No NAmE.” (14061A)	6
CoMed つくば (14062A)	8
学生生活に立ち止まった人に一なごみの居場所製作委員会—ver.2 (14063A)	10
Tsukuba for 3.11 第8弾 (14068A)	11
全学的映画制作プロジェクト scene2 (14071A)	13
松美池清掃プロジェクト (14073A)	14
みんなで宇宙芸術—人工衛星に映ろう！— (14074A)	16
筑波大学写真コンテスト—私が見る筑波、君が見る筑波 (14075A)	18
UNICO ～星空から笑顔の輪を vol3～ (14082A)	20
Omochi Language Club 2015 spring (14083A)	21
Astro Cafe2015 (14084A)	23
筑波大学ビッグバンドプロジェクト (15001A)	25
Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) (15003A)	28
サイエンス・コミュニケーショントレーニング2 (15004P)	29
Young Americans つくばスペシャル2015に参加しよう！ (15005A)	30
IDAHO 記念にじひろピクニック (15006A)	33
就活大逆転セミナー～最短で内定を獲得するために今から行うべき全手法～ (15007A) ..	34
プレゼンひろば2015 (15008A)	35
テコンドーを試してみませんか？ (15009A)	37
パンフェス (15010A)	38
ホンモノ体験～つくばの食を味わう～ (15011A)	39
1000000人のキャンドルナイト2015—でんきを消してスローな夜を。— (15012A)	40
みんなで作る筑波大学産昆虫目録 (15013A)	42
学生プレゼンバトル2015 (15015A)	45
盆踊りプロジェクト —文明開化と交流— (15016A)	47
あなたの小説が読みたい！ —第八回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集— (15017A)	50
つくバグ2015 野外における自然体験教室 (15018A)	52
T1グランプリ2015 (15019A)	53
野外 DJ イベント 『Vivid impulse!』 (15020A)	55
筑波で吹奏楽！誰でもコンサート 2015 (15022A)	57
アカペラとダンス～みんなの人生を一つの作品に～ (15024A)	60
BiVi つくばで駅前キャンパス！ (15025A)	62

ゆめ花火プロジェクト2015 (15026A).....	64
話したくても話せない… ～「場面緘黙」と向き合って～ (15028A)	67
Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) volume 2 (15029A)	69
Omochi language club 2015 fall (15030A)	71
投票所設置プロジェクト (15031A)	73
UNICO ～星空から笑顔の輪を vol4～ (15032A)	75
書き損じハガキで国際貢献をしよう！ (15033A)	76
LGBT 基礎知識講座2015 (15036A)	78
えがお咲く！春のつくしま交流会2016 (15040A).....	80
ボランティア	
知的障がい者サッカークラブ (20150001V)	82
「ボードゲームの広場」(20150002V).....	83
足柄サポーター募集！ (20150003V)	84
阿見町立実穀小学校での合唱指導サポート (20150007V)	85
茨城県警察大学生サポーター (20150010V、20150036V)	86
霞ヶ浦環境科学センター 環境月間イベント (20150011V)	87
つくば市立九重小学校での授業、行事等サポート (20150012V)	88
「学びの広場」学習支援ボランティア (20150013V)	89
サイエンスツアーイベントのサポート (20150015V)	90
つくば小中学生将棋大会 (20150023V)	91
「冬の学びの広場」学習支援ボランティア募集 (20150028V)	93
生活科「校外学習ボランティア」～私のまちはっけん～ (20150029V)	94
栗原スポーツ鬼ごっこクラブの活動支援 (20150032V)	95
映画「みんなの学校」自主上映会 (1/24) 運営ボランティア (20150033V)	96
悩める高校生救助隊～あなたの合格体験記を語りませんか～ (20150034V)	97
つくばに住む外国人と交流しよう。(20150037V)	98
栗原スポーツ鬼ごっこクラブ 感謝祭 (餅つき大会)(20150039V)	99
2015年度実施状況報告	100
編集後記	

※報告書内にある学生の学年は活動終了時のものです。

はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(2016年6月発行)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に採択された「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」にはじまります。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生生活の中で学生が「やりたい」と考える健全で多様な活動を大学として支援することを目標としています。

学生支援GPは平成23年度末で終了となりましたが、本企画の成果が認められ、その翌年からは筑波大学における人間力育成支援事業の一環として継承されています。したがって、T-ACTが学生支援GPとしてスタートしてから今年で8年になります。T-ACTには、学生が主体となって企画するT-ACTアクションと、教職員が主体となって企画するT-ACTプランがありますが、平成25年度からは、学生による主体的なボランティア活動を支援するT-ACTボランティアという枠が設立されています。学外から各種のボランティア情報を収集して、その情報を参考に学生が自ら主体的にボランティア活動を企画するプロジェクト型にすることで、学生の「やりたい」という活力を、学内に留まらず学外にも展開させています。社会に出て学外の人とふれあい、様々な経験を積んでもらうことにより、社会貢献・地域貢献を通して学生の成長を支援するものです。

T-ACTにおいて大学公認の活動として承認された企画の総数は、この8年間で600件を超えました。本報告書には、主に昨年度に実施された企画のうち、活動報告が提出された企画について掲載されています。本年度も文字通り多種多様な活動が実施されました。その中で特に印象に残った企画は、特別賞を受賞した「盆LIVE」という盆踊りプロジェクトです。これは研究学園駅前公園を利用し、祭りのやぐらに提灯を四方に張り巡らし、地域の人たちを取り込んで盆踊りをしようという企画です。開発が著しい研究学園に芽生えたT-ACTによる祭りの企画は、今後拡大しながら継承され、恒例の年間行事として地域社会に根づくものと期待します。はじめは、学生間で学内での開催を想定して企画したものが、多くの苦難を乗り越えて、地域社会を取り込んだ大型企画に発展しました。学生達の「やりたい」という思いが濃縮されていて、高く評価されました。ちょうど本学の宿舍祭「ヤドカリ祭」が42年前に初めて企画されたときのことを思い起こします。

また、秋に開催された公開シンポジウムでは、「繋がる力・広がる絆」をテーマに、東京工業大学、明治大学、法政大学の3つの大学の関係者をお招きして、学生支援GP以降のそれぞれの大学での活動を紹介していただきました。ボランティア活動の在り方も含め、各大学の取り組みには大変参考になるものがありました。本プロジェクトの継続・発展のためにご尽力いただいた学内外の皆様、それから、活動を大いに盛り上げることにより、プロジェクトの高評価をもたらしてくれた学生および関係者の皆さんにお礼を申し上げます。

本プロジェクトは、平成26年度からT-ACT推進室へと発展的に改組されました。今後は、ボランティア関連の機能強化や国際化対応を図りながら、本学独自の注目企画としてさらに展開していくことでしょう。皆様のこれまで以上のご支援とご助力をお願いいたします。

平成28年6月

T-ACT推進室長

田中 博

UNICO ～星空から笑顔の輪を vol2～ (14053A)

T-ACT プランナー 高村 有加 (医学群看護学類4年)

活動内容

活動内容と目的

本企画では、地域社会に暮らす人々を対象に、「宇宙」を通じて「やすらぎ」「きづき」「つながり」を提供する活動を行う。

筑波大学附属病院にて、患者さん、その家族、医療従事者に対し観望会や宇宙イベントを行い、癒しの空間、楽しい空間をつくる活動を行う。地域の子供達に対しては小中学校などにおいて、宇宙を通して豊かな心の育成を育めるような「宇宙授業」の教材を芸術系と協力して開発・実践する。

企画立案の経緯

申請者が臨床で働いていた時、夜何もすることがなくて暇を持て余す患者、ベッド上安静のため一日中真っ白な天井を見上げ、外の景色を見ることができない患者に出会うことが多くあった。

病院は本来癒しの空間であるはずだが、ナースコールの音や夜間の足音、医療機器の光等、普段の日常とちがった環境のため不眠になることも少なくない。また患者自身が能動的に時間や季節を感じる機会が少なく、患者同士、患者と医療従事者が交流する機会は少ない。

そこで、病院内で普段見ることのできない星空を天井に投影することで、参加者がリラックスした時間を過ごせ、星や宇宙の不思議、楽しさを体験でき、同じ時間と空間を共有することによって、患者、家族、医療従事者の間に、新たなコミュニケーションが生まれる空間を提供する。また、地域の小中学校や児童養護施設などに交渉をし、宇宙をテーマとした宇宙授業を行う事で、普段あまり学ぶことのない宇宙の魅力を学んでもらうだけでなく、それを通して豊かな心の育成を実践し、またそのための教材開発を行う。

vol 1 では筑波大学附属病院や近隣の学校等において、様々な方々を対象に星空観望会や七夕まつり、宇宙教育を行い、大変好評を得た。引き続き地域に住む方を対象とした魅力あふれる企画を計画、実施していく。

活動計画

- 10月 筑波大学附属病院外来 3連モニターの映像上映
 - 11月 筑波大学附属病院において星空観望会の実施
 - 12月 筑波大学附属病院においてプラネタリウム上映と星の話
 - 2月 星空観望会
- 他、近隣学校や医療施設での観望会やワークショップも計画中

活動期間

平成26年10月20日～27年 3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：平野勝大 (数理物質科学研究科)、金奈由 (国際総合学類)、鈴木裕行 (数理物質科学研究科)、篠倉彩佳 (芸術専門学群)、竹森聖 (工学システム学類)、朝倉健 (数理物質科学研究科)

P：村上史明 (芸術系)

活動報告

活動成果

◎◎アートミーツケア学会への参加、発表

日時：11月15日～16日

場所：デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO

目的：UNICO にて行っている諸活動を、同様な目的をもつ方々とシェアして、意見交換をする。

実施経過：ツールはアートといえど、病院にて活動している方に様々な視点からアドバイスを頂き、今後の活動の糧になった。

◎◎病院観望会

日時：12月3日

場所：筑波大学附属病院12階展望ラウンジ、11階病棟

目的：天体望遠鏡を院内に持ち込み、天体観望会を行う。病院という現実からかけ離れた「宇宙」に触れてもらうことで癒しを提供する事を目的とする。

来場者数：約50人～60人

実施経過：今回は、以前に行った「職員向け天体観望会」と同時並行で、患者さん向けの天体観測会も実施した。患者さんたちは外にできることが出来ないので、11階の病棟に望遠鏡を持って行き、プレイルームの窓越しに月を見てもらった。

事前調査が甘く、窓の中にうまく月が入らず、車いすの患者さんたちに無理な体制でみてもらうことになってしまったことが反省。見てもらった患者さんや職員さんからは、今後も続けてほしいとのコメントを頂いた。

◎◎病院イベント

日時：2月18日

場所：筑波大学附属病院12階展望ラウンジ

目的：4次元宇宙ビューワー「mitaka」を用いて、宇宙のお話とともに、病院という現実からかけ離れた「宇宙」に触れてもらうことで癒しを提供する事を目的とする。

来場者数：約30人～40人

実施経過：今回は実際に観望会をするのではなく、宇宙のお話や、宇宙ビューワーを通して宇宙に触れてもらった。宇宙の時間や長さのスケールは実は誤解していることが多く、実際に天体や距離を過小評価している（小さいと思っている）。その誤解をわかりやすいように説明することで、新たな発見や驚きを提供し、壮大な宇宙に触れて癒やしに転換して頂けたかと思う。尚、今活動は、常陽新聞様に取材されて、記事になった。

◎◎児童養護施設での天体観望会 & 宇宙イベント

児童養護施設において、様々なバックグラウンドや事情を持つ施設の子供達や多忙を極める職員の方に対して、宇宙を通して楽しさや心の休息の機会を提供できないかと思い、イベントを計画。生憎の天候主順で、中止となってしまった。雨天時の代替案を用意しておくべきであった。また、相手先とのコンタクトがうまくできなかったことが反省である。

今後の課題

今後は、活動を継続し、また、新しい場所や新しいイベントにも挑戦していく予定である。人数不足から、活動を各地で幅広く行うことは不可能に近いので、活動が普及することを念頭に置いて、今は、モデルケースの作成やノウハウ構築をする段階だと判断している。それらの活動を同時に、メンバーを増やす活動も行っていきたい。

経験者からのメッセージ

我々のグループは、宇宙に関する専門知識などはあまり必要でなく、様々な分野からの学生と一緒に活動しています。様々なバックグラウンドをもつ学生から多角的な視点から意見をもらえているので、とても充実した活動ができています。

T-ACTでも様々な活動があると思いますが、人選に垣根を持たず、様々な人と交流することをおすすめします。それは自身の成長にも繋がると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

日々積極的になっている。もう少し人数がほしいというのが本音である。

T-ACT に関する感想

特になし



● 松美池アヒルボート「博士号」の運用 Part 2 (14059A)

T-ACT プランナー 登 大遊 (システム情報工学研究科 D3)

活動内容

【背景】

筑波大学の第一エリアにある松美池は、南側に森林を有する、長さ約180m、水深約50cmの中規模の貯水池である。筑波大学の施設・環境計画(1982年4月)によると、本学キャンパスにおいて土地利用を犠牲にしてまでこれらの大きな池を設置した建設当時の理由は「ボートやヨット、魚釣りや水遊びなど多角的な利用ができる」ようにするためであったと明記されている。

しかしながら、現在、松美池にはボートやヨット、魚釣りや水遊びなど多角的な利用を行う者はほとんどいない。これは非常にもったいないことである。松美池についてより多くの人々が関心をもち、将来的には松美池が一大レジャー・センターとして脚光を浴びるようになれば、松美池の潜在的価値を生かすことができ、本学の魅力もうなぎ登りとなることは間違いない。

松美池の活用方法のための最初のステップとしては、まずはアヒルボート遊び程度の小規模のものが妥当である。

【目的】

本企画は、松美池においてボートを浮かべ、安全に配慮した管理を行ないつつ、当該ボートに希望者が乗船し湖面を航行することができるようにすることを目的とする。ボートの管理やメンテナンス等は、本企画メンバーによって行う。松美池は水深が浅い比較的 안전한人工池であるため、ボートには何時誰でも乗ることができる状態が理想的であるが、当初は安全のため、ボートは常時施錠管理し、見張りの者(本企画関係者)が立ち会っている状態でのみ、第三者が乗ることができることにする。

なお、本アヒルボートのある松美池は第一エリア H 棟 1F・2F の講義室から目視されやすい場所にあることから、これらの 2 個の講義室で授業が行われている最中にアヒルボートが突然に動き出すと、多くの学生が、熱心にアヒルの方向を注視して落ち着かない表情を露出することとなるおそれがある。そうすると授業に差し支えが生じる可能性も考えられるため、当初は、本アヒルボートはできる限り休み時間および第一エリア H 棟 1F・2F の講義室で授業が行われていない時間に限り運用することを原則とする(第一エリア H 棟 1F・2F の講義室で授業が行われていない時間帯は、「筑波大学 教育課程編成支援システム」から確認することができる)。やむを得ずこれら以外の時間帯に運用する場合にあっては、講義室の窓から見えにくく音も聞こえないような場所のみに限り行うようにし、苦情の出ることのないように十分注意をする。

【目標】

本企画が実現すれば、休み時間・放課後・休日および受講すべき授業のない自由時間帯に、学生や教職員等が気分転換のために安全かつ気軽にボートに乗ることができるようになる。これにより、短期的な利点として、ボートの搭乗者およびそれを周辺から眺める人々が楽しみを得ることができ、よって学問や研究のための気力が引き起こされる。また、ボートを漕ぐ際の体力消費は、日頃の運動不足を解消する効用もある。さらに、大学内の池においてボートを安全に管理運用するための知見を得ることができる。長期的には、ボートが日常的に浮かび、また航行している松美池の情景が学内外に浸透し、本学のイメージのさらなる向上の実現につながることを期待できる。

【前プロジェクト14010Aの経緯】

本企画は、企画番号14010A(期間:2014/05/09から2014/11/08まで)のT-ACT企画の後継にあたる。これまでの経緯は以下のとおりである。

・2014年5月

「T-ACT 松美池アヒルボート「博士号」の運用 計画書」を作成した。

・2014年6月

T-ACTの顧問弁護士の井上先生と法律相談を行った。井上先生からは、机上で議論可能な法的リスクはすべて想定しているように見え、今のところ深刻な問題点は見当たらないので、今後運用を開始してみて新たなリスクが発見されたときは適宜計画を修正しながら進めるのが良いのではないかというコメントをいただいた。

・2014年9月

猛暑が和らいだため、アヒルボートを洗車した。また、アヒルボートを実際に足漕ぎし、池のヘドロの状況を確認した。

ヘドロの近くでは、水の流れが悪く、抵抗力が増え、アヒルボートを前進させるために足漕ぎのみではかなりの労力を要する。

そこで、今後運用を開始する場合においては、当初はできるだけ岸壁の近くの安全地帯でのみ利用するとい

うルールを設けるべきであると考えた。

・2014年10月

台風18号の大雨のため、松美池が大幅に増水し、水深は150cmを超えた。この状態でアヒルボートを足漕ぎしてみたところ、9月の実験の際にヘドロが溜まっていた部分でも問題無く航行できた。このことから、やはり平常時はヘドロが航行の妨げになることは間違いないことが分かった。

今後、ヘドロの位置は移動することがあるのかどうかの観察を時々行ない、もしヘドロの位置が大幅に移動しないと思われる場合においては、ヘドロの位置を示したマップ等を作成し、乗船希望者に呈示してヘドロの近くへは行かないように注意することが必要であると考えられる。

以下のドキュメントも作成した。

- －アヒルポート T-ACT ポスター
- －アヒルボートの安全な乗船方法に関する注意事項

活動計画

2014年11月頃から 学生生活課と協議の上、運用を開始する。

アヒルボートは、見張り付きで動かす場合を除き、常時施錠しておく。

本件 T-ACT 企画のメンバーの有志は、日中、自己の授業がない放課後等に松美池の湖畔のコンクリート乗り場のような場所で見張りをする。

第三者がアヒルボートに乗りたいと申し出た場合は、注意事項および免責事項を説明した上で、アヒルボートに乗って松美池の内部を周遊することを認める。

この場合において、見張りの者はいつでも池の中に入っていくことができるように胴付長靴を用意しておき、緊急時やボートが座礁した場合などは池の中に入り脱出の手助けをする。

アヒルボートの乗り場の付近には、営業中は小型の折り畳み机およびパイプ椅子を設置し、見張りに当たっている者が座って休憩することができるようにする。また、注意事項、松美池の地図、標準ルート、危険箇所（ごみ等が堆積しており座礁する可能性がある場所）の表示、松美池の歴史資料などを掲載する。

アヒルボートの乗り場の付近には、第一エリアからの学内無線 LAN が届く。小型の折り畳み机およびパイプ椅子の設置は、見張りの者が長時間そこで待機中に読書、ノートパソコンによるコンピュータ・プログラミングまたは数学問題を解くなどの暇つぶしを行うために是非とも必要であるほか、注意事項などの注意書きを乗船者に説明する際にも必要である。

アヒルボートの乗り場付近がよく見える場所（屋内）に Web カメラを設置させていただき、当該 Web カメラの映像を一定期間保存しておくことを検討する。また、最新の撮影データを Web サイトなどでリアルタイムで見られるようにする。これは、無人のときに誰かが勝手にアヒルボートの施錠を破壊するなどして動かすような事件を抑止するために必要である。

冬期 博士号はアヒルボートであり寒さが苦手である。松美池に凍てつく寒さが到来する冬期においては、ほとんど活動しなくなる。

活動期間

平成26年11月9日～27年4月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：根本晃輔（情報科学類）、山口芽衣（生命環境科学研究科）、小西伶児（社会工学類）

P：新城靖（システム情報系）

活動報告

活動成果

・2014年11月～12月

水曜日第3限目に合計4回運航を行った。

非常に好評であり、30名程度の学生および教職員に乗船いただいた。

乗船された方々からは、今後も引き続き乗船できるよう続けて欲しいといった好意的な感想をいただいた。

・2015年1月～4月

寒冷であるため運航が困難であり、自粛をしていた。

今後の課題

また船底（船体の内側）に少しずつ水が溜ってきた。

いずれ再度陸揚げして排水をしなければならない。
乗船上の注意などの用紙、乗船者名簿などが強風で飛びそうになる。
松美池のヘドロの深みがさらに増したようである。頻繁に座礁する。

経験者からのメッセージ

このような大学内の自然と触れ合うことができる T-ACT の企画には大変な醍醐味があります。



筑波大学「学生 YOSAKOI」企画チーム “No NAmE.” (14061A)

T-ACT プランナー 佐伯 瞭真 (理工学群社会工学類4年)

活動内容

「自分を表現したい」「大学生っぽいことをしてみたい」という学生は多くいますが、それを実現する場が少ないのが現状です。

そこで、そのような場をつくり、学生のエネルギーを爆発させよう！というのが今回の企画の目的です。

私はつくばのYOSAKOIソーランチームに所属し、日本各地のYOSAKOI祭りで様々なチームを見て刺激を受けてきました。同じような経験をする学生の声も多く聞き、「自分達もオリジナルのYOSAKOIをやりたい！」という気持ちが日に日に強くなりました。「このような想いを持っている学生はたくさんいるのではないか？」「もっと学生の良さを活かすことができないか？」と考え、今回の企画立案に至りました。

なにもかも自分たちで創造し表現する場として、YOSAKOIの舞台は最適な場だと考えられます。なぜなら曲・衣装・コンセプトなどすべて自分たちで考え、創り、身体全体で表現することができるからです。

つくばにはYOSAKOIのチームはありますが、学生の有り余るエネルギー・高い創作意欲と運動能力・大人数という特徴を押し出して活動している、いわゆる“学生YOSAKOI”のチームはありません。

大学生活・YOSAKOI生活の集大成として、最終的にはメンバーを100人集め、迫力の大演舞を披露したいと思っています。

活動計画

2014年

11月25日～ オリエンテーションのピラ配り

12月5日 第1回オリエンテーション

12月18日 第2回オリエンテーション

※曲・衣装・振付の制作、メンバー集めは随時

12月20日～ 練習開始

2015年

3月14日 「ふるさとつくば ゆいまつり」にて演舞

活動期間

平成26年11月19日～27年3月15日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：志村愛（比較文化学類）、後坊健太（工学システム学類）、木下明美（物理学類）、上野智宥（工学システム学類）、三木彩加（工学システム学類）

P：橋本昭洋（システム情報系）

活動報告

活動成果

・活動内容

2014年

11月19日 T-ACT 承認

11月 オリエンテーションポスター作成

12月 オリジナル楽曲制作

12月5日 オリエンテーション実施

2015年

1月8日 練習開始 @1C306

以降、毎週火・木に踊り練習 @ 中央体育館

それ以外にも自主練習を行い、本番まで計25回練習を実施。

1月 踊り子募集用 ポスター・ピラ・プロモーションビデオ作成

2月6日 ラジオつくば収録

2月14日 ラジオつくば放送

2月17日 常陽新聞 取材

2月23日 常陽新聞 「ひと」コーナー掲載

2月11日～3月10日 筑波フューチャーファンディングで資金提供を募る（目標金達成）

振付は練習時に随時行い、2月17日に完成。3月6日に一部変更。

3月14日 ふるさとつくば ゆいまつり当日 踊り子26名で演舞（総踊りには専属カメラマンの竹内くんと、MCの伊藤くんも踊りに参加し、NoNAmE.からは総勢28名で参加）

・目標達成度

120%

念願の学生 YOSAKOI を筑波大の学生で行えたこと。

「踊りたい！」という想いを持つ仲間と一緒に全力で表現できたこと。

思いっきり青春を味わえたこと。新たな出会いがたくさんあったこと。

踊り子100人という目標は未来に受け継がれることとなりましたが、やりたかったことが全部出来ました!!

新たな風をつくばの地に吹かせることができたのではないかと思います。

今後の課題

資金面の調達で TFF の協力がなければ実現困難だったかと思っています。

今回は楽曲制作もほぼ無償でやっていただけたことも助けになりました。

メンバーも思うようには集まらなかったのですが、今回出場したイベントには最適な人数だったのではないかと思います。

経験者からのメッセージ

あなたと同じ想いを持った人がこの広いキャンパスのどこかにきっといるはずです!

困ったときは T-ACT の先生方がアドバイスをくれます!

T-ACT に行けば、目をキラキラさせて物事に取り組む学生と出会えるかもしれません!

頑張ってください!!

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者一人ひとりが、この企画に参加するかどうか心の中で葛藤があったかと思っています。本番の演舞が終わったあと、多くのメンバーから「本当に参加してよかった!」という声をもらいました。

この企画を通して、生き生きとした自分を再発見できたメンバーがたくさんいると思っています。

T-ACT に関する感想

オーガナイザーやパーティシパントなどの登録区分を変更できるようにして欲しいです。今回途中で変更ができなかったのです。



● CoMed つくば (14062A)

T-ACT プランナー 申間 琢郎 (医学群医学類4年)

活動内容

みなさんは心肺蘇生法の方法を知っていますか？AEDを使えますか？

私たちは、いつケガや病気におそわれるかわかりません。その中でも最も危険で緊急を要するのは、心臓や呼吸が止まってしまったときです。

傷病者が心停止してから現場に救急車が駆けつけるまでの約8分の間に、生存率は急激に下がります。

そのときに、そばにいる人が命を救う方法を「一次救命処置 (BLS)」といいます。

しかしながら、市民によるBLSの普及率は決して高いとはいえません。

H24年の統計では市民によるBLSがなされなかった傷病者の1か月生存率は約27%です。

知ることで救われる命がある。

そこで、この活動では市民に対してBLSの講習会を行い、「命を救う喜びをみんなで共有すること」を目標とします。

活動計画

11月 活動立ち上げ、筑西市と日時の打ち合わせ

12月～1月 講習会の練習

2月 講習会の実施

3月以降に関しては、活動を継続する方針ですが、内容は未定です。

活動期間

平成26年11月1日～27年5月1日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：海老原賢治 (医学類)、加藤久貴 (医学類)、山下雄斗 (医学類)、重光章鈞 (医学類)、木村仁美 (医学類)

P：水谷太郎 (医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

10月16日 心肺蘇生法の勉強会、BLSの練習

11月6日 ミーティング

11月13日 ミーティング

11月26日 筑西市担当者と打ち合わせ

12月18日 先生と打ち合わせ

12月22日 ミーティング

1月5日 ミーティング

1月7日 ミーティング

1月22日 ミーティング

1月23日 先生と打ち合わせ

1月29日 ミーティング

2月1日 筑西市筑西おやじの会「お父さんと遊ぼう！」における「人命レスキュー大作戦～心肺蘇生法を学ぼう～」の実施

2月6日 第1回企画の反省会

2月20日 筑西市担当者と打ち合わせ

3月6日 先生と打ち合わせ

3月16日 ミーティング

3月18日 先生と打ち合わせ

3月26日 第4回筑西健康パーク「BLS講習会」の実施

・目標達成度

80%

「お父さんと遊ぼう」での実施は小学生・未就学児とその保護者、「筑西健康パーク」での実施は40代以上の中高年を対象に実施した。

それぞれ、年齢や会場場所に応じた企画の準備を行い分かりやすいプレゼンテーション、実技指導になるよう心掛けた。

実施当日は予想しているよりも多くの参加者となった。また、アンケートでは「分かりやすかった」「次回も

参加したい」との声を多くいただいた。

・得られた成果

BLS 講習会を2回実施したことで、実施計画、準備、当日、反省会の流れが分かったこと。
参加者の感想が実施に対して概ね好意的であったこと。
市の担当者からも信頼を得ており、バックアップ体制ができたこと。

今後の課題

- ・実施において予想とは違う流れになった部分が当日になって発生したので、前日までに十分なシミュレーションをしておくことと、当日に予想外の事態に対して臨機応変な対応をすること。
- ・第2弾を実施するにあたり、新たなパーティシパントの確保

経験者からのメッセージ

企画を成功させるために頑張ることは当然かと思いますが、万が一うまくいかなかったとしても大きなものを失うことはないと思うので「とりあえずやってみる」くらい気軽に取り組んでみてはいかがでしょうか。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・BLS に対する知識が身についた。人に教えるということにより深い知識を得られたと思う。
- ・何度もプレゼンテーションや実技指導の練習を行うことで、それらのスキルが向上した。

T-ACT に関する感想

T-ACT でのバックアップ体制が充実しており、それらを上手く活用させていただいて今回の企画を円滑に行うことができました。ありがとうございました。

第2弾以降もお世話になると思いますのでよろしくお願いします。



● 学生生活に立ち止まった人に一なごみの居場所製作委員会—ver.2 (14063A)

T-ACT プランナー 皆吉 智之 (人間総合科学研究科 M2)

活動内容

目的：学生生活に高いハードルを感じ、留年、休学をしている仲間が集まって、なごめる居場所作りや楽しめる集いを開きます。

留年や休学をしていると、一人で問題を解決しようとするのも多いかもしれませんが、焦りを感じ、周りの人に理解されないこともありますね。こんなとき、多くの仲間と一緒に話し、気分転換の活動をする、きっと前進できます。留年、休学をしているあなたに向けた居場所を、一緒に作っていきませんか。

活動計画

- 12月～1月 高野山合宿準備
- 2月 高野山合宿
- 3月 26年度内の振り返り及び新年度の活動内容策定
- 4月～5月 新入生歓迎・フレッシュマンセミナー

活動期間

平成26年12月1日～27年5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：鈴木宏之 (人間総合科学研究科)
- P：石川正憲 (医学医療系)、太刀川弘和 (医学医療系)

活動報告

活動成果

・活動内容

2014年

- 12月2日 なごみ HP 作成ミーティング @ 体バチ
- 12月11日 HP 作成ミーティング @ 体バチ
- 12月17日 ヨガ教室 @ 春日キャンパス

2015年

- 1月20日 ヨガ教室 @ 春日キャンパス
- 1月27日 ヨガ教室 @ 春日キャンパス
- 2月27日～2月28日 和歌山大学共催高野山合宿
- 3月10日 合宿振り返りミーティング

・目標達成度

Ver.1より引き続き行われていた高野山合宿の準備から実施まで滞りなくできた。現地のバスの手配及び高野山での宿泊先や高野山内の研修の手配を和歌山大学保健管理センターの山本先生、高野山大学の森崎先生の両先生のご助力で、無事開催できた。

参加者は引率のパートナーの石川先生・太刀川先生、メンバーの鈴木・牟田・渡邊・皆吉の計6名。

ヨガ教室は2月～4月までは年度末と新年度の処務の為、お休みした。

・得られた成果

高野山合宿は参加者からは好評であった。

和歌山大学の学生（主に休学生）との交流、高野山大学での阿字観体験など、観光とは違い、他大学との共催でなければできない合宿内容であった。

今後の課題（アクション／プラン実施の際に生じた問題や困難、課題など）

ヨガ教室の参加メンバーも固定化されつつある。卒業メンバーも数人いるので、Ver.3ではヨガ教室のメンバー募集を中心に行っていきたい

経験者からのメッセージ（未来の T-ACT プランナーにアドバイスを！）

プロジェクトを継続していくには、期間毎に何かしらの目標（私共ですと、高野山合宿、ヨガ教室開催など）ひとつひとつ目標を達成していくと、次の目標の手がかりになったり、経験として蓄積されていくと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者は ver.1からの固定メンバーが多いので、大きな変化は見られなかった。

Tsukuba for 3.11 第8弾 (14068A)

T-ACT プランナー 霜島 太一 (人文・文化学群人文学類2年)

活動内容

東日本大震災から3年半が経過し、甚大な被害を受けた東北地方においては、未だ復興の道半ばであり、長期的且つ持続可能な支援が必要である。また、ここつくば市においては、原発事故による被害を受け、およそ500名が福島県より避難しており、未だ事態の収拾のめどが立たないなかで、つくばでの生活をいかに支援していくかは大きな問題であると言える。

本活動においては、学生だからこそ出来る復興支援をテーマに、「Tsukuba for 3.11」「Tsukuba for 3.11 第2～7弾」にて行ってきた活動をベースに行う。これまでに形成されたつながりを生かした幅広い活動を行う。岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、福島県いわき市においては、現地で活動する支援団体や地元住民と連携し、ニーズとマッチしたボランティア活動や、聞き取り事業を行う。つくば市においては、避難者を対象にコミュニティ新聞の発行や交流会を開催し、つくば市内でのコミュニティ形成に貢献する。

また、近頃ニュースなどでの震災の報道が少なくなり、関心喚起を促すことが重要であるといえることから、学内においては、学生の関心を喚起するために報告会や写真展を企画する。

HP : <http://tsukubafor311.jimdo.com>

Facebook : <https://www.facebook.com/tsukubafor311>

Twitter : Tsukuba for 3.11

ブログ : <http://ameblo.jp/tsukubafor311/>

活動計画

- 12月 活動開始
- 1月 ダルマ市手伝い
- 2月 交流会「ココロもカラダもぽっかぽか！～つくば×福島大芋煮会～」開催
コミュニティ新聞「つくしま」冬号発刊
- 3月 心のあかりプロジェクト
- 4月 新たな参加者募集
つくしま 4月号発刊
- 5月 やどかり祭出店
活動終了、活動報告書をまとめる

活動期間

平成26年12月8日～27年6月1日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : 恩田怜 (図書館情報メディア研究科)、上林直人 (社会学類)、大原光代 (社会工学類)、木村奈那子 (看護学類)、小池ちはる (比較文化学類)、椎名智弘 (生物資源学類)、祖天琳、立川哲之 (生物資源学類)、福井俊介 (生物資源学類)、松本一平 (社会工学類)、内海亜紀子 (芸術専門学群)、下田梢 (看護学類)、藤田朋花 (比較文化学類)、脇阪未来 (社会学類)、オン碧 (生物資源学類)、黒田枝里 (生物資源学類)、瀧田深吾 (生物資源学類)、室井紬 (生物資源学類)

P : 長谷川聖修 (体育系)

備考

Tsukuba for 3.11では、つくば市内はもちろん、福島県いわき市などで、地元の人たちと活動をしています。一緒に、学生の間にしか出来ない経験をしましょう。興味のある方、連絡待っています！

活動報告

活動成果

- ・活動内容
 - 2月1日 芋煮会
 - 4月21日 活動報告会
 - 4月28日 活動報告会
 - 5月24日 勿来スタディツアー
- ・目標達成度

活動報告会では、被災地の現状を来場者に伝えると共に、「復興とは何か」「自分に出来ることは何か」ということを考える機会を提供することが出来た。また今までの活動を振り返ることができ、今後の方針を考える良い機会とすることが出来た。

- ・得られた成果
新メンバーが8名入ってくれた。

今後の課題

被災した方々を「被災者」として活動するのではなく、「復興者」として人々のニーズに合わせた活動を展開していくこと。具体的に、今まで自分たちが見てきたものをこれから未来を担う中学生や高校生といった世代に伝えるといったような活動を展開する。

経験者からのメッセージ

長期的な活動を展開する場合、活動方針を変えていく必要性があり、それに合わせた活動を行うことが大切です。活動方針を変えていく理由は、社会が日々変化するとともに人々が求めるものも変化していくからです。自ら人々の声をきこうとする姿勢が求められると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

東日本大震災を直接的・間接的に経験して、「自分に出来ることをしたい」という志を持った人が震災から数年経過した現在も存在し、参加している。自ら関わろうとする意志を持った人が、その活動場所を求めて本団体に参加してくれている。

T-ACT に関する感想

特にありません。

全学的映画制作プロジェクト scene2 (14071A)

T-ACT プランナー 稲福 和史 (情報学群知識情報・図書館学類2年)

活動内容

2014年夏から活動していた全学的映画制作プロジェクトの第2弾です。

第2弾では、撮影・編集を行います。

全学的映画制作プロジェクトでは、既存の映画サークルの枠にとらわれず、多くの才能を多くの場所から集めて映画を作りたいと考えています。

いわゆる“映画サークル”に入る人は、映画を作りたい人が主です。

しかし、映画は総合芸術です。シナリオが必要であり、音楽が必要であり、役者が必要です。

しかし多くの場合、面白いシナリオが書ける人は文芸サークルに、良い音楽が作れる人は音楽サークルに、いい演技ができる人は演劇サークルにいます。

これらの専門分野に秀でた人々を、サークルという枠を超えて、今までになかった形での映画製作を行いたいと考えています。

第1弾ではシナリオ・撮影準備までを行いました。

また、劇団サークルさんや放送サークルさんの協力も得られ、いよいよ“全学的”になってきました。

最終的には、様々なコンペティションに出すことを目的に、映画作りにチャレンジしたいと思います。

活動計画

2月中旬 本撮影
3月 ポストプロダクション

活動期間

平成27年2月1日～27年7月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：三枝陽介 (情報メディア創成学類)、城山龍太郎 (情報メディア創成学類)、太田宙輝 (人文学類)

P：村上史明 (芸術系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
4月～7月 ポストプロダクション (アフレコ・映像編集)
- ・目標達成度
75% (残り作業としてアフレコと仕上げ)

今後の課題

課題として春学期が始まってしまったことや、プランナー多忙のため制作がほぼ中断してしまっています。これについて夏休み中に再起動を図り、まずは完成を急ぎたいと思います。

経験者からのメッセージ

映画制作のようにまとまった時間が必要なものは長期休み中にケリをつけましょう。

学期が始まると作業時間が取れず、また他メンバーとの日程も合いづらくプロジェクトが難航します。

現在難航しています。とてもつらい。

プランナーのモチベーションが消えたらプロジェクトは頓挫してしまいます。どれだけつらくてもプランナーだけはがんばりきるという覚悟と気合も必要です。僕も頑張ります。

運営者側から見たパーティシパントの変化

みんな多少なりとも、映像・映画について興味を持ち、作り手の目を持ってくれたのではないかと思います。映画制作を楽しんでいると思ってもらえたら、と感じます。

● 松美池清掃プロジェクト (14073A)

T-ACT プランナー 小宮 歩 (情報学群情報メディア創成学類4年)

活動内容

突然のアヒルボートの出現で、一躍有名になった松美池。
学園祭など、様々な場面で利用される松美池ですが、お世辞にも綺麗とは言えません。
とても広い松美池ですので、掃除をして綺麗にすればもっと有効に活用できるはず！筑波大の名所にもなるはず！？と考え、この企画を提案しました。
広いからこそ少人数ではできないので、大人数で盛大な清掃プロジェクトをする予定です。
「筑波大生が誇れる松美池」を目指します。

活動計画

4月上旬 活動開始
4月～6月 メンバー集め、話し合いなど
7月 実施
8月 反省やまとめ、活動報告書作成

企画のメインは松美池内の掃除ですが、池の周りの草などの清掃も行いたいと考えている。池の中の掃除は多くのパーティシパントを集める必要があるが、池の周りの草の掃除などはオーガナイザーと少数のパーティシパントで行おうと考えている。

また、松美池はとても広い上に多くの生物がいるため、相談するべき人と相談しながら、最善の注意を払いながら清掃を行う。

活動期間

平成27年 4月 1日～27年 8月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：林佑志郎 (医学類)、藤井啓太 (工学システム学類)、山田怜奈 (国際総合学類)、海東志保 (日本語・日本文化学類)、山崎志帆 (芸術専門学群)、村上僚 (社会工学類)、芳之内貴将 (教育研究科)、石橋亮汰 (社会学類)

P：石岡利江子 (施設部)

活動報告

活動成果

・活動内容

2月9日 施設部の方と打ち合わせ
2月11日 『天の川クリーンプロジェクト』プランナーの藤井さんとミーティング。
2月16日 オーガナイザー顔合わせ & 第一回ミーティング
4月16日 ベンチの設置
4～7月 ミーティング、環境調査、池の周りの枝切り

・目標達成度

2～3割。
実際に池の内部の清掃をすることは人手や予算的な面で困難であった。
しかし、それらの問題が解決すれば、池の内部清掃に取り掛かることができると分かった。
環境整備として、ベンチを設置した。

・得られた成果

松美池の現状の把握。
周辺の枝切りによって、見通しが良くなった。
ベンチを設置した。

今後の課題

メンバー一人一人が多忙であったため、スケジュール調整が困難を極めた。
予算的な面で、不可能なことが多かった。

経験者からのメッセージ

達成できなくても見えてくるものはあるし、得られるものはあるので、とりあえず第一歩を踏み出してみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントが参加する機会がなかったため、未回答。

T-ACT に関する感想

色々なサポートをして下さってありがとうございました。

思うような結果を出すことができなくて申し訳ないです。

また、時間的に余裕ができたなら第二弾を企画するので、その時はよろしくお願いします。

ここから歴史を始めよう。
松美池清掃プロジェクト

以下、募集しています。

① オーガナイザー
(運営スタッフ)

② パーティシパント
(当日清掃スタッフ)

企画番号: 14073A プランナー: 小宮歩 (s1211421@u.tsukuba.ac.jp)

T-ACT

● みんなで宇宙芸術—人工衛星に映ろう！— (14074A)

T-ACT プランナー 鈴木 裕行 (数理物質科学研究科 D1)

活動内容

昨年、種子島から日本の人工衛星「だいち2号」が打ち上がった。この人工衛星は陸域観測技術衛星と呼ばれ、簡単にいえば、「地球を観測する衛星」である。

だいち2号は様々なミッションがあるが、その中で、「だいちの星座プロジェクト」というものがある。これは人工衛星を利用して大地をキャンバスとして星座を描くプロジェクトであり、金沢美術工芸大学の鈴木浩之先生が中心に宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 第一衛星利用ミッション本部の協力を得ながら展開する事業である。

このプロジェクトはすでに種子島において、「たねがしま座」という形で昨年12月に行われたが、今回、つくば市、守谷市でも行われることになった。

「宇宙」や「アート」と聞いてその言葉を知らない人はいないと思われるが、天体観望会や科学館、美術館などに足を運ばない限り、案外一般の方が宇宙やアートを身近に感じる機会はとても少ないと思われる。

そこで、この活動では、「だいちの星座プロジェクト つくば座・もりや座」に参加し、多くの人に、宇宙やアートを身近に感じてもらえる事を目的とする。

すでにプロジェクトの中心となっている鈴木先生、つくば座・もりや座のワークショップなどを取り仕切っているアーカススタジオとも連携をとっており、準備は整っている。

本活動ではより参加者を集め、みんなでどのような形で人工衛星に映り込もうか考え、みんなで宇宙芸術を楽しむ。

この企画は、宇宙が好きな学生や芸術系の学生はもちろん、普段全く関係のない勉強をしている方も一緒に楽しめる企画であるので、対象者は学生全体である。

また、宇宙からの撮像に映りこむという、おそらく人生で一度しか無い経験をより多くの人と共有し、同時に、他分野の学生との交流も図る。

だいち2号の詳細はこちら

<http://www.jaxa.jp/projects/sat/alos2/>

だいちの星空 HP

<http://daichinoseiza.jimdo.com/>

つくば座・もりや座について：アーカススタジオ

http://www.arcus-project.com/jp/event/2014/ev_jp141219102823.html

※すでに登録が済んであるので、こちらには登録しないでください。

活動計画

活動承認以降	メンバー集め。
2月7日	つくば座ワークショップ@つくば宇宙センター
2月8日	もりや座ワークショップ
2月9日～2月20日	※ワークショップを踏まえて、どのように映り込むかのアイデアを出す。 撮像の準備
2月21日	つくば座 撮像当日
3月7日	もりや座 撮像当日

活動期間

平成27年1月14日～27年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：木立佳里 (数理物質科学研究科)、竹森聖 (工学システム学類)、平野勝大 (数理物質科学研究科)、篠倉彩佳 (芸術専門学群)

P：村上史明 (芸術系)

活動報告

活動成果

○内容

- 2月7日 つくば座ワークショップ@つくば宇宙センター
筑波宇宙センターにて開催されたワークショップにてだいちの星座メンバーと共にワークショップの運営を行った。
- 2月8日 もりや座ワークショップ
守谷市の体育館にて実際にコーナーリフレクターを参加者と作成するとともに、その作成の補佐を行った。

- 2月13日 コーナーリフレクター作成
自分たちのチームのコーナーリフレクター作成と、撮像場所のアイデア出しを行った。
- 2月21日 つくば座 撮像当日
実際の撮像は我々のチームは虹の広場にて行った。

○結果

天体観測等の宇宙イベントは日本全国様々な人達が行っているが、このように、宇宙と実際につながっている実感を得るようなイベントは例がなく、あまり体験できない事をチーム全員で体験することができた。

実際に作成された星座等の詳細はこちら

<http://daichinosciza.jimdo.com/>

今後の課題

今回のアクションは、純粋に宇宙を楽しむ事を目的の一つとしていたため、宇宙好きな学生を集めることにはそんなに苦勞をしなかった。T-ACTのシステムを用いたり仲間内でメンバーを集めて、プロジェクトの運営のお手伝いを楽しむことができた。

経験者からのメッセージ

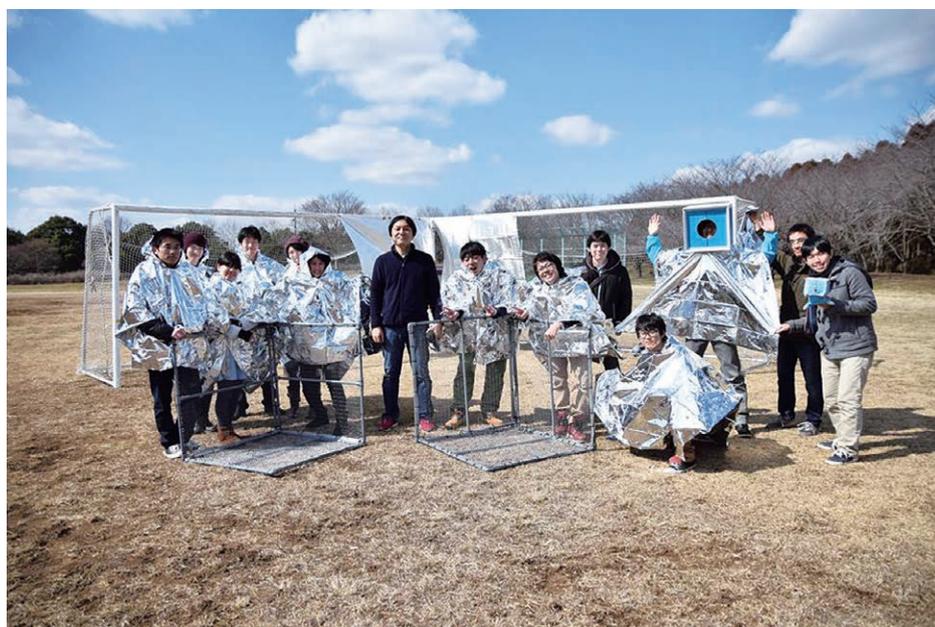
純粋に自分が「したい!」、「感じてもらいたい!」というものを様々な形で実行することがT-ACTアクションです。まずは自分がしたいことを探しましょう。探せない場合は、まず様々なアクションにパーティシパントやオーガナイザーとして参加してみましょう。まずは一歩踏み出すことからです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

最初よりも日にちがたつにつれて積極的に参加するようになった気がした。

T-ACT に関する感想

特になし



筑波大学写真コンテスト—私が見る筑波、君が見る筑波 (14075A)

T-ACT プランナー 竹内 秀希 (生命環境学群地球学類4年)

活動内容

今日、スマホやデジタルカメラ、SNS普及により、日常的に写真を撮ったり公開したりする機会が増えている。その中で生まれる写真は筑波大学生の日常や視点として作品にできると自分は考えた。今回の企画はその作品を集め、発信・共有する場とすることを目的とする。

また、趣味として写真を撮る人は多いが、一般で開催されている写真コンテストは敷居が高く感じ、自分の作品を持って余している学生は多い。そういった学生に対して、自分の作品を出す場を提供することを目的とする。

作品を集めてコンテストを行い、最終的には展示会をすることで上記の目的を達成することが目標である。

活動計画

- 1月 ・ 広報ポスターの作成
・ 企画広報用の SNS (Twitter, Facebook) の運用の開始
・ 広報活動の開始
- 2月 ・ 作品募集の開始
- 5月 ・ 作品募集の締切
・ 優秀作品の選定
- 6月 ・ 授賞式などの開催
・ 展示会

活動期間

平成27年 1月29日～27年 7月15日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小西怜児 (社会工学類)、高原祥樹 (地球学類)、沼田歩実 (芸術専門学群)、村上侑 (社会学類)、種崎智貴 (物理学類)、宮内優衣 (人文学類)、森下夢子 (日本語・日本文化学類)

P：村上史明 (芸術系)

活動報告

活動成果

・活動内容

2014年

- 10月中 企画書作成
- 11月11日 芸術系 村上先生と打ち合わせ
- 11月18日 芸術系 木村先生と打ち合わせ
- 11月25日 運営メンバーミーティング
- 12月1日 運営メンバーミーティング
- 12月2日 運営メンバーミーティング
- 12月4日 写真家 青山裕企さんと打ち合わせ
- 12月16日 運営メンバーミーティング
- 12月19日 紫峰会と打ち合わせ

2015年

- 1月14日 T-ACT 写真ワークショップでの宣伝
運営メンバーミーティング
- 1月28日 T-ACT 企画承認
- 2月1日 Twitter, Facebook での広報開始
作品募集の開始
- 2月5日 運営メンバーミーティング
- 2月17日 紫峰会と打ち合わせ
ポスター完成、掲示開始
- 3月5日 ラジオサークル roots の収録
- 4月16日 ビラ配布
- 5月8日 作品募集締め切り
- 5月22日 運営ミーティング
- 5月25日 村上先生と打ち合わせ
- 5月27日 永田学長に挨拶、学長賞の選考

	各審査員への選考の依頼
5月31日	運営ミーティング
6月8日	賞の選考の終了
6月12日～14日	展示作品の印刷・準備
6月15日	写真展の開始
	写真家・青山裕企トークイベント開催
6月19日	写真展の終了

今後の課題

- ・運営メンバーのモチベーション維持
- ・長期計画のフロー作りをより詳細にする
- ・広報活動の徹底

経験者からのメッセージ

どんなことでも「とりあえずやってみる！」「話してみる！」ことが大切だと思います。

最初は自分一人でも、やっていくうちに、話していくうちにメンバーが集まり、イベントが企画できると思います。

運営の途中で行き詰っても、相談したりしていくうちに解決しちゃいます。

1つのものを1から作り上げるのは大変ですが、その達成感は格別です！

運営者側から見たパーティシパントの変化

写真を印刷する魅力、写真を撮る楽しさを分かってもらえたと思います。

筑波大学にこんなところがあったんだ！こんなきれいな景色が見れるんだ！こんな場面が！いろんな気づきを得ることができたと思います。

T-ACT に関する感想

ポスターの貼れる場所とか、広報手段・媒体・量がもう少しあればひとつひとつの活動の規模や認知度も上がると思います。

ちょっと、内輪感があるような気がします。



UNICO ～星空から笑顔の輪を vol3～ (14082A)

T-ACT プランナー 高村 有加 (人間総合科学研究科 M1)

活動内容

UNICO は宇宙、芸術、医学などの学生を中心に、宇宙を使って人々に笑顔を届ける活動を2014年から行っています。vol1、vol2では、筑波大学附属病院での患者さん、職員さん向けの観望会やMIKATA (宇宙観測ソフト) を使った宇宙の話、地域の学校で観望会等を実施し、参加者から大変好評を得ました。vol3では引き続き観望会などの企画を実施するとともに、地域の病院や学校等において更なる活動の場を広げ、より多くの方に宇宙を楽しんでもらおうと考えています

活動計画

- 4月 学生向け大学内観望会
- 5月 附属病院にて患者さん向け観望会
- 7月 附属病院にて七夕ほしまつり
- 8月 附属病院にてMIKATA を使った宇宙の話
地域の学校にて学童向けの観望会
- 9月 附属病院にて職員さん向け観望会

活動期間

平成27年 3月28日～27年 9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：鈴木裕行 (数理物質科学研究科)、竹森聖 (工学システム学類)、朝倉健 (数理物質科学研究科)、平野勝大 (数理物質科学研究科)、梅里文 (人文学類)、鈴木綾乃 (医学類)
P：村上史明 (芸術系)

備考

現在の参加者は宇宙系、医療、芸術など多岐にわたっています。宇宙の事がまったくわからなくても大丈夫です。気軽にご連絡ください。

活動報告

活動成果

・活動内容

- 6月18日～7月 8日 中央図書館にて活動内容等のポスターを掲示した。
- 7月23日 筑波大学附属病院にて患者さんや家族、職員の方々を対象とした七夕星祭りを開催した。
内容は宇宙観測ソフトを用いた宇宙のお話、プラネタリウム上映、月観測、ワークショップ、ボディペイント等多数のコンテンツを実施した。
来場者数は50人ほどで多くの方に「楽しかった」「また来年もやってほしい」という感想が寄せられた。
七夕星祭ではオーガナイザー以外にも学群生、院生が多く参加し、「楽しかった」という声が聞かれた。

今後の課題

昨年開催した七夕星まつりに加え、自分たちの活動を多くの学生、大学関係者に知ってもらおうと、図書館で広報できた。
今後も活動を継続するとともに、より多くの方に活動を知って頂けるよう、広報活動にも力を入れていきたい

経験者からのメッセージ

「やってみたい」と思った事があれば、躊躇せずにT-ACTに投げかけてみましょう。きっと他にも「やってみたい」と思っている学生がいます。
まずは行動してみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

活動を通して、宇宙の感動を人々に提供する楽しさを実感した。
また、他分野の学生と活動をともにすることで、自身の専門性を高め、他分野への興味、関心を高めることとなった。

Omochi Language Club 2015 spring (14083A)

T-ACT プランナー 杉崎 愛 (人文・文化学群比較文化学類3年)

活動内容

留学生と日本人で互いの言語を教えあい、最終的には双方の交流を深めてもらうことが第一の目的です。
特に、筑波大学には他大学と比べて遥かに留学生の数が多いですが、なかなか日本人と交流したくてもできずに帰国してしまう方がたくさんいます。
また、日本人の側も留学生と話してみたくてもなかなかきっかけがつかめないという人もたくさんいます。
Omochi の活動を通して最終的に言語や国を超えて友人を作ってもらえたら嬉しいです。
もちろん日本人同士や留学生同士の友達の輪も広がったらよいと思います。

活動計画

4月～9月 毎週金曜日18:30より、5C 棟で活動を始める。
定期的な活動以外にも、七夕などの日本の行事の時など折に触れて日本の文化を紹介し、不定期に集まって Omochi の運動会などのような交流会をできたらよいと思っている。

活動期間

平成27年 4月 3日～27年 9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 村田明穂 (比較文化学類)

P: 宮本陽一郎 (人文社会系)

活動報告

活動成果

- 4月10日 第一回 Omochi・Omochi の説明
- 4月17日 第二回 Omochi
- 4月24日 第三回 Omochi
- 5月1日 第四回 Omochi
- 5月8日 第五回 Omochi
- 5月15日 第六回 Omochi

今後の課題

自分の用事が多くて、当初やろうと思っていたピクニックやスポーツ大会、映画鑑賞まで手が回らなかったの、あらかじめ日を決めておけばよかった。
ご飯のオーガナイズでいつもあたふたして、予約や座席、支払でいつも手間取ってしまった。ご飯に関しては予約のいい方法が結局分からなかった。
プランナーとして、全員の名前を覚えることが目標だったけれど、半分も覚えられなかった。
もっとおりにふれて日本の行事を紹介できたらよかった。

経験者からのメッセージ

このイベントだけに限らず、何かを運営するというのは気持ちの面でも体力やスケジュール的にも負担がかかることだと思います。
特に、知らない人とコミュニケーションをとるのは本当に大変だと思います。
でも、「どうしたら簡潔に意図を伝えられるか」「みんなが楽しむにはどうしたらいいか」などを考えることは、運営者にしか経験できないことだし、それを通して、「人と関わる」ということを学べたと思います。
もともとわりと引っ込み思案な方だったので、Omochi の運営を一人でやるのはかなり不安でしたが、やってみると意外と助けてくれる人がたくさんいました。
やろう、という意味がみんなに伝われば、きっとみんなもサポートしようと思ってくれると思うので、「きっとできないしやめよう」と思わずに、まずは思ったことを行動に移してみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

<友達>

最初は新しく入ってきた留学生も多く、ぎこちない感じだったのですが、次第にみんな友達を作ってそれぞれ楽しんでるように思います。
言語を学ぶだけでなく、ただしゃべりに来てくれる留学生、日本人もいて、言語交換を超えた友情づくりが実現できたかな、と思います。
また、休憩時間には、自分の言語以外の言語の友人のところや、別の教室に向かいおしゃべりをしたりと、

輪が広がっていました。

Omochi で出会った友達とどこかへ出かけたという話もよく聞きました。

最初は日本人同士、留学生同士かたまっていました。最後の方はその境がなくなっていました。

また、参加者が新しい参加者を連れてきてくれるので、来たばかりでさみしい思いをしている留学生が友達を作るいいきっかけになったと思います。

<言語・文化>

言語交換だけでなく、違う文化で育ったお互いの考え方を知ることができ、おしゃべりを通して知らないうちに今までの固定観念がとれたという人がたくさんいました。

たとえば、イスラム教の国についてのイメージがマイナスからプラスに変わった、など、その国の人とかわることで、自分の考え方の幅が広がったと言ってくれた人もいました。

また、「お国柄」ももちろんあるけれど、結局人の考え方や行動の違いは「国」ではなく「性格」の違いだと気づいたと言ってくれる人もいました。

T-ACT に関する感想

いろいろサポートしてくださり、ありがとうございました。

T-ACT なくして Omochi はないと思っているので、大変感謝しております。

Astro Cafe2015 (14084A)

T-ACT プランナー 竹森 聖 (理工学群工学システム学類2年)

活動内容

主に新入生に向けて、宇宙に興味を持ってもらうための宇宙系サイエンスカフェを開催する。新入生だけではなく、様々な学生を対象としている。色々な人たちと一緒に、天文学や宇宙工学など幅広く宇宙について楽しみながら学べる場を提供したい。

活動計画

- 3月 活動開始
ポスターを作成し、学内掲示板や SNS で 1回目 AstroCafe の広報
オーガナイザーを集める
- 4月 1回目 AstroCafe 開催 (宇宙クイズなど)
1回目 AstroCafe の反省
ポスターを作成し、学内掲示板や SNS で 2回目 AstroCafe の広報
- 5月 2回目 AstroCafe 開催 (ペーパークラフトなど)
精算および活動終了

活動期間

平成27年 3月18日～27年 5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：木立佳里 (数理物質科学研究科)、塩谷知弘 (数理物質科学研究科)

P：中井直正 (数理物質系)

備考

AstroCafe では参加者にお菓子や飲み物を配る。その購入のために参加費を徴収する。

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4月14日 Astro Cafe (今期 1 回目)
- 4月18日 JAXA 特別公開へ見学
- 5月26日 Astro Cafe (今期 2 回目)

・目標達成度

達成度はあまり高くない。新入生に向けて宇宙系のイベントを開けたのはよかったが、何分人がほとんどきていない。10分のでいうならば、2か3くらいと考えている。

・得られた成果

今回、新入生を主に対象として企画を行った。しかし、結果的に新入生はいらなかったの、企画全体としての成果はほぼない。

自分個人としては企画する上での注意や段取りなど、次に生かせる経験ができた。

今後の課題

恒常的な団体としてやっていくための人集めと広報が今後の課題である。

経験者からのメッセージ

実際に企画を行う上で一番重要だと感じたのは広報。大学中にふれまわって、その企画を知らない人がいないくらい周知しないと、人はこないんじゃないかって思った。そこまでしなくともその分野にいる人には全員に伝わるほどする必要がある。

運営者側から見たパーティシパントの変化

特になし。

T-ACT に関する感想

広報力がほしい。

施設使用に関して、T-ACT ですって言えば担当の先生の印鑑がいらないとか、T-ACT を使いたいって思うような特典 (?) が欲しい。



筑波大学ビッグバンドプロジェクト (15001A)

T-ACT プランナー 黒崎 友 (情報学群情報メディア創成学類4年)

活動内容

筑波大学には、管楽器14人・リズム楽器4人の計18人で構成される大編成のジャズ、「ビッグバンド」を練習し、披露できる環境は今までありませんでした。そのため、毎年、ビッグバンドをやりたいという人が入学してきても、みんな諦めてしまっているという状況でした。

筑波大学ビッグバンドプロジェクトは、それでもビッグバンドを諦めきれなかった学生を集めて、「筑波大学でビッグバンドをやる。」ということを目的に2014年春に結成されたプロジェクトです。現在までに、雙峰祭、天スタ縁日、吹奏楽団クリスマスコンサート、単独ライブを一回行ってきました。

T-ACTとしての活動として、2015年度春よりビッグバンドをやりたい人を募り、半年かけて練習し、筑波大学のビッグバンドのサウンドを作ります。そして最終目標には、9月に予定されているカピオホールでのリサイタルで会場を沸かせ、メンバーの音楽欲を満たし、同時に、筑波大学内にとどまらず、つくば市にビッグバンドという音楽を少しでも周知させることを掲げます。また、リサイタル後もサークルという形でビッグバンドをやれる環境を整えることも視野にいれて活動していきます。

活動計画

4月 <活動開始>

4月から5月にかけてリサイタル準備をしつつメンバー募集(新歓)をおこなう。

4月5日(日) 第5回ミーティング・予算案決定

T-ACT企画としての初めてのMT。直近の行事の打ち合わせ

4月10日(金) 新歓すき焼きパーティー

新入生にすき焼きをふるまう

4月11日(土) 第6回ミーティング・練習@1H101

新歓ライブに向けての練習、その週の行事の打ち合わせ。新入生見学可

4月12日(日) 新歓お好み焼きパーティー

新入生にお好み焼きをふるまう

4月15日(水) 練習@1H101

新歓ライブに向けての練習。新入生見学可

4月18日(土) 第7回ミーティング・練習@ソングサイクル

新歓ライブに向けての練習、その週の行事の打ち合わせ。新入生見学可

4月19日(日) 練習and BBQ@1B308

新歓ライブに向けての練習、場所を変えてBBQを行う

4月22日(水) 新歓1stライブ@1H201

新入生に向けて生でビッグバンドの音を聞かせる。

4月25日(土) 第8回ミーティング・練習

宿舍祭(・新歓ライブ)に向けての練習。

4月26日(日) 練習

(新歓ライブに向けての練習)

4月29日(水) 練習

(新歓ライブに向けての練習)

4月30日(木) 新歓2ndライブ

新入生に向けて生でビッグバンドの音を聞かせる。

5月 <宿舍祭にむけての準備、リサイタルへの体制作り>

5月2日(土) 第9回ミーティング・練習

4月を通して、基本的な体制(各係の再分配、日程)の見直し。

リサイタルに向けた体制(係・役割の組織図)の作成、リサイタルの具体的な構想を5月かけて決める。

週1回の定期練習・ミーティングは引き続き行い、本番前は臨時で練習を組む。

5月30日(土) 宿舍祭本番@ミニステージ

6月~9月 リサイタルに向けての具体的な活動開始

週に1回の定期練習・ミーティングは引き続き行う

ピア・フェスタとコンタクトをとっているため出演する可能性あり。

東京のビッグバンドサークルで活動する学生を講師として呼ぶ

9月26日(土) リサイタル@カピオホール

9月末 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。学生団体申請願を作成・提出する。

活動期間

平成27年4月2日～27年10月2日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：横山望（医療科学類）、山下由加里（看護学類）、小峰楓子（医学類）、松川創（人間総合科学研究科）、丸山大地（国際総合学類）、遠藤周平（地球学類）、佐藤拓人（地球学類）、関口晴紀（看護学類）、根本奈穂（医学類）、安田悠（情報科学類）、石川廉（社会工学類）、鈴木理紗（人文学類）、佐々木好祐（情報メディア創成学類）、岩崎直也（比較文化学類）、秋山諒太（知識情報・図書館学類）、藤本一暢（数学類）、新井輝（応用理工学類）
P：渡和由（芸術系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4月30日 新歓ライブ開催
- 5月30日 第41回筑波大学宿舍祭に出演
- 7月23日 一般社団法人茗溪会より活動支援金をもらう
- 7月26日 つくばクラフトビアフェスト2015に出演
- 8月7～8日 真夏のビールとハイボールガーデンにて3回公演
- 8月30日 つくばメディカルセンター病院 新入院棟竣工イベントにて3回公演
- 8月16日 筑波放送協会企画の「THK ラジオ学類！」に出演
- 8月27日 プロジェクトの活動が常陽新聞に掲載
- 9月22日 プレミアムビールとうまいものまつりに出演
- 9月26日 カピオホールにてリサイタルを開催
- 10月5日 筑波大学新聞に掲載

・練習・ミーティングについて

本番まで日にちに余裕があるときは週に1回の練習、本番直前は2、3回練習をおこなった。
練習日以外にもメンバーで集まりミーティング・会議を頻繁に行った。

・目標達成度

半年の間に多数の本番で演奏することができ、「筑波大学でビッグバンドをやる」という目標は達成できた。
本番ごとにいろいろな人が参加することができ、ビッグバンドに興味のある筑波大生がビッグバンドに触れることができた。

メンバーそれぞれが他サークルなどで忙しく、練習にあまり来れない人もいた。そのため、ビッグバンドという音楽を一定のレベルで表現することはできたが、より芸術として深めるには至らなかった。

地域での多数の演奏を通して多くの人にビッグバンドを聞いてもらうことができた。

本番をこなすごとに、イベントの主催者の方より演奏依頼をうけ、継続的な演奏の機会をつくることができた。
筑波大学、地域にビッグバンドを広めるという目標は少なからず達成できた。

・得られた成果

筑波大学でビッグバンドをやる環境
ビッグバンドという音楽のつくばでの振興

今後の課題

一番の問題は人が集まらないことだった。

音楽を好きでやっている人が参加するプロジェクトであるという性質上、どのメンバーも他サークルに入っており、忙しそうにしていた。練習もほぼ来れない人もいた。そのため練習効率が悪くなったり、本番に出演する人数が足りなくなったり、お金が集まらなくなったりと困難はたくさんあった。

また、機材の準備にも問題・困難は多数生じた。

普段機材を保管する場所がほとんどなかった。練習場所に近いメンバー宅に保管していた。機材も大型のものから、重たいものもあり、メンバーの負担は大きかった。

練習の際も、メンバー宅から歩いて運ばなければならなかった。本番のときも車での運搬ができないため、業者に依頼したり、バスで運んだりした。

プロジェクトの中心メンバーの学年が高かったことも、苦労した点の一つだった。

学類4年が主に主導していたため、就活、大学院入試、研究発表などでプロジェクトがごたつくことも多かった。

大人数、多数の機材をつかうという性質上、大学や後援会からの支援（文サ館の使用、機材の優先予約、活動補助金）は必要不可欠である。

支援を受けられるように、健全な運営、そして地道に活動実績をつむことが今後の課題である。

経験者からのメッセージ

プランナーに求められる能力は、1つしかありません。
頭が良い、仕事ができる、リーダーシップが取れるなどの能力は必要ないです。
必要なのは、そのプロジェクトのことを誰よりも考えて、プロジェクトの全てを誰よりも大事に思うことです。
これができれば絶対にプロジェクトは成功します。

運営者側から見たパーティシパントの変化

音楽をより楽しむことができるようになっていた。
忙しい中でもプロジェクトに参加し、予定がギリギリの状況になりながらも練習・ミーディング・本番に出席することで、各々の音楽がより洗練されたと感じた。

T-ACT に関する感想

保険（自動車使用）を充実させて欲しい。
それぞれの T-ACT 企画が使用する機材を保管する倉庫が欲しい。
T-ACT 企画が使える台車が欲しい。
地域の企業、お店、イベントとさまざまな場面で連携できると良い。

Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) (15003A)

T-ACT プランナー RITESH PATEL (数理物質科学研究科 D1)

活動内容

Most of the new Indian students over here are not connected together, so we want to connect and bond them together. Also most of the Indian's face many problems when they enter University of Tsukuba. For Example, Language, rules and regulations of the university and many work related problems.

We want to support them as much as possible to live a comfortable life.

Students from all countries are heartily welcome.

活動計画

4月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

1. Welcome and introduction of University of Tsukuba to new students.
2. Support for staying in Tsukuba city.
3. Communication among Indian students in University of Tsukuba.
4. International Communication and exchange.
5. Introduction to Japanese culture and Tsukuba city.
6. Presentation (Academic/Non-Academic)
7. Monthly gathering and exchange.

9月末 活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成27年 4月15日～27年 9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : BAKKU RANJITH KUMAR (生命環境科学研究科)、Ankit Kumar Srivastava (人文社会科学研究科)

P : RAKWAL RANDEEP (企画室)

活動報告

活動成果

1. Tsukuba International festival from 9th and 10th May 2015
2. World heritage site of Nikko 17th May 2015
3. Pink ribbon festival on 29th April 2015
4. Tsuchiura kirara festival 2nd August 2015
5. Independence day celebration at Indian embassy on 15th August 2015
6. Bon odori festival 16th August 2015
7. Tsukuba summer festival 22nd and 23rd August 2015

今後の課題

Need more participation
Poster design
Japanese language support
English information

経験者からのメッセージ

1. Welcome and Introduction of University of Tsukuba to new student
2. Support for staying in Tsukuba
3. Presentation (Academic /Non Academic)
4. Monthly gathering and exchange

運営者側から見たパーティシパントの変化

none

T-ACT に関する感想

Japanese language support during the event
Poster design

サイエンス・コミュニケーショントレーニング2 (15004P)

T-ACT プランナー 吉川 元起 (数理物質系准教授)

活動内容

一般の人々が、科学技術をめぐる問題に主体的に関与していける社会を確立することは、現代における喫緊の課題であり、とりわけ次世代を担う学生がサイエンス・コミュニケーションの意義を理解し、実践的なスキルを身につけることは重要である。2014年度に引き続いて、国立研究開発法人 物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA) は、大学との連携の上で、学生のサイエンス・コミュニケーション能力の向上の機会を提供し、サイエンス・コミュニケーショントレーニングの一環として、関連のアウトリーチ、サイエンス・コミュニケーション、広報業務全般の補佐を行う。具体的には、イベントの運営やホームページ、SNS、刊行物、ビデオ等の各種媒体を通じた情報発信等に参画する。なお、前年度に参画した学生から、コミュニケーションスキルをより深化させたい旨の希望が出ており、また、つくば市教育委員会他より反響をいただいたことから、より地域に貢献することを念頭に置きながら活動を拡大する。

活動計画

下記行事等へ参画する

4月19日 (日)「科学技術週間」における施設一般公開

その他、随時、SNS による情報発信や小・中・高等学校への出前授業等

活動期間

平成27年 4月 1日～27年 9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：岡田孝春 (数理物質科学研究科)、中川泰宏 (数理物質科学研究科)、新山瑛理 (数理物質科学研究科)

P：なし

活動報告

活動成果

4月15日 (水)、19日 (日) 物質・材料研究機構 (NIMS) の2015年度一般公開への「出展：病気の診断・治療に応用可能な材料“スマートポリマー”」について展示・実演を行い、一般市民の方々のやりとりをおしてサイエンス・コミュニケーションの実践を行いました。特に、19日には子ども向けのショーも上演し、小さな子ども達に大変な人気を博しました。

6月18日 (木)、7月22日 (水)、8月18日 (火) つくば科学出前レクチャーへの協力：研究者が市内の小中学校を訪問して講演を行う、つくば市 (教育局教育指導課) による企画「つくば科学出前レクチャー」に協力し、荏原充宏 MANA 研究者を補佐しながら、並木中学校科学クラブの生徒への指導を行い、中学生達とのやりとりをおしてサイエンス・コミュニケーションの重要性について学びました。

その他、物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA) の広報誌取材・編集業務の一環として、研究者インタビューや記事執筆等も行い、活動の様子が MANA の web サイトや広報誌上で報告されました。

今後の課題

広報活動 (参加者募集やイベント開催などの情報拡散) について、大学関係者他に対してより効果的にアピールできるよう、ブラッシュアップが必要であると考えています。

経験者からのメッセージ

T-ACT は学生が視野を大きく広げる契機になり得ます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

学生が自身の分担に責任をもって取り組もうとする態度が見受けられ、成長が感じられました。サイエンス・コミュニケーションに関心のある様々な学生が集うことで、相互に有益な意見交換ができ、楽しんで参画できている様子でした。今回は特に中学生への指導も行ったことで、サイエンス・コミュニケーションの社会的意義についてさらに考察を深めることができました。

T-ACT に関する感想

現状で必要最低限の情報は掲載されていますが、T-ACT のホームページがもっと充実していると内外の関係者に親切かと思えます。

● Young Americans つくばスペシャル2015に参加しよう！ (15005A)

T-ACT プランナー 西森 千咲 (人間学群心理学類3年)

活動内容

現在、社会のグローバル化にともない、大学生にもグローバルな人材として成長することが求められています。グローバル化が進むことにより、人々の日常生活にも影響や変化が生まれ、文化共生にまつわる問題も浮上しています。筑波大学は留学生や国際系サークルも多く、国際交流ができる環境はそろっているはずですが、一方でそのような環境や機会を有効に活用できていない学生が一定数いることも事実です。また、地域と一体になって国際化、多文化共生の可能性を探るチャンスというのは多くはありません。社会の国際化がさまざまな形で影響を与えていることから、問題の解決には、グローバルに考え、ローカルに行動することも重要になってきています。

よって、世界22カ国で音楽ワークショップを行っているヤングアメリカンズを筑波大学に召還し(2015年7月10日～12日)、地域の子供たちと一緒に参加することによって、グローバルな視野とローカルな視野の両方に配慮することのできる「グローバル」な人材へと学生が成長する機会とすることを目標とします。さらに、ヤングアメリカンズの音楽ワークショップへの参加を通じて、自分の心を開いて表現することの喜びを体感するとともに、多様性、創造性を学ぶ機会としていきたいと思ひます。

活動計画

4月9日	準備メンバー募集
4月第三週	第一回ミーティング
4月	イベント・説明会告知準備
4月下旬～5月上旬	イベント告知開始、説明会準備
5月中～下旬	説明会の実施
5月下旬～6月上旬	参加者の募集・締め切り
6月上旬～中旬	ヤングアメリカンズとの交流会の計画・準備、当日運営メンバーの募集、参加学生向け説明会準備
6月中旬	参加学生向け説明会
6月下旬	参加学生同士の交流会
7月10日～12日	ヤングアメリカンズつくばスペシャルに参加
7月中～下旬	アンケート実施、反省会、報告会、感謝会

活動期間

平成27年4月1日～27年7月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 須田雄士 (社会工学類)、今道更紗 (情報科学類)、今吉萌子 (芸術専門学群)、小出紗希 (比較文化学類)、中園優輝 (教育研究科)、江橋佑奈 (比較文化学類)、山田祐奈 (比較文化学類)
P: 松崎一浩 (東京キャンパス事務部学校支援課)、安島俊宏 (東京キャンパス事務部学校支援課)

活動報告

活動成果

・活動内容

4月22日	第1回ミーティング
4月	イベント・説明会告知準備
5月1日	第2回ミーティング
4月下旬～5月上旬	イベント・説明会告知開始 (Twitter/FB/学内チラシ・ポスター / 学内電子掲示板 / LINE)、説明会準備
5月7日放課後	第3回ミーティング
5月11日放課後	第1回説明会の実施
5月13日	第4回ミーティング
5月20日	第2回説明会の実施
5月21日放課後	第5回ミーティング
5月26日	第3回説明会の実施
5月27日	第6回ミーティング
6月1日正午	参加者募集開始
6月3日	第7回ミーティング
6月5日	予備ミーティング (参加者向け説明会最終確認)

6月7日	サポーター募集締切
6月8日	参加者向け説明会
6月12日	第8回ミーティング
6月17日	第9回ミーティング
6月26日	第10回ミーティング
6月末	ショー観覧券告知開始 (Twitter/FB/LINE/学内チラシ)
7月2日	発達障害のある子どもの保護者によるKS勉強会1回目
7月3日	第11回ミーティング
7月5日	決起会
7月6日	発達障害のある子どもの保護者によるKS勉強会2回目
7月8日	第12回ミーティング
7月10日～12日	ヤングアメリカンズつくばスペシャル2015開催
7月17・21日	反省会
7月23日	大学職員サポーター主催打ち上げ会

・目標達成度

※ YA つくばスペシャル筑波大学学生チーム2015の目標

- ①参加した学生にとってワークショップでの経験がより有意義なものになるよう、ワークショップ外でのサポートを行うこと。
- ②多くの学生につくばスペシャルに関わってもらえるようアプローチを行うこと。
 1. ワークショップ外でのサポートとして、(1)説明会の段階で実際に歌ったり踊ったりするワークショップ体験を取り入れ、結果参加者のワークショップに対する理解度が増したと考えられる(説明会で行ったアンケートによると、「楽しそう」=45%、「不安はあるけどチャレンジしてみたい」=25%、「参加することで何かを得られそう」=19%、「自分のやりたいことと近そう」=11%、「どんなことをやるのかまだ漠然としていてわからない」=0%)。(2)参加者向け説明会では参加者同士の関係性を作るために互いの自己紹介の時間や懇親会、決起会などを設けた。(3)ワークショップ終了後、各参加者が今回のワークショップの経験や得たものを言語化し自分の中で落とし込んでもらうために、任意での感想文提出を求め、ワークショップ参加者の約半数から預かった文章をもとに感想文集を制作した。
 2. つくばスペシャルを学内で広めるために、イベント・説明会告知、観覧券告知をチラシの配布やポスターの掲示・口伝えといったアナログな手法だけでなく、Facebook やツイッター・LINE などの SNS を使って告知を広く行った。結果、参加者の受付に関しては過去3回の中で最速の23時間程度で定員を超えた。また、学内関係者向け観覧券の予約は200名程度を記録し、とうじつには150名程度の学内関係者が観覧に訪れた。

・得られた成果

設定していた目標の達成以外に得られた特筆すべき成果としては、①地域サポーターとの深いつながり②参加学生同士の深いつながりがあげられる。

今後の課題

【定期ミーティングについて】

- ・今年度は1回目のミーティングが4/22(水)だった。昨年は4/10だったので、昨年よりもWSが2週間遅かったとはいえ少しスタートが遅かった印象。7月に入ってからの交流会やKSのスペシャルケアのための時間が欲しかった。
- ・毎週全員参加を目指していたが、曜日の関係で途中から参加できないメンバーが出てしまい、その人に対するフォローが不十分だった(情報共有はできていたが、その浸透性のチェックや参加できないことによる気おくれ・それに伴うコミットの低減を払拭できたらよかった)。全員が意欲を持って参加できる環境を作ることが大事。

【広報・Gmailについて】

- ・Twitter: 序盤は西森のみ、5月下旬にメンバー全員にアカウントを解放した。ただし更新している人が一部だったので、他の人にも書いてもらう機会を用意すればよかった(義務という意味ではなく、自分の考えや発信したいことを発信してもらうことで学生チームでの仕事の楽しさを増すため)。
- ・サポーターズブログ: ラジオの告知をお願いされていたが、忙しくほとんどできなかった。
- ・Gmail: 初めは西森が担当。6月中旬からほかのメンバーにもメールを見次第返信するように(自分ができない場合はLINE等でほかのメンバーに共有するように)伝えた。最初の頃は返信してくれていたが、その後はメールを見たまま放置が多かった。メールへの迅速な対応(特に重要な案件に関しては)を行うためにも、共有は徹底するべきだった。また、メンバー一人一人が返信できるようになると学生チーム全体がやっていることに対する理解度も上がるため、多少難しくても返信をお願いするべきだった。

IDAHO 記念にじひろピクニック (15006A)

T-ACT プランナー 岡田 夏実 (人文・文化学群比較文化学類4年)

活動内容

国際反ホモフォビア・トランスフォビアデーを記念し、ピクニックという形の LGBTQ 当事者と非当事者の交流を通して、同じ社会の一員であるという認識を生み出し、多様性ある社会に対する理解を深める。

活動計画

4月	活動開始 具体的な内容の決定 ・会場のセッティング ・ピクニック時のレクリエーション考案 ・メッセージフォトギャラリー企画の内容を決定 広報・参加者の募集
5月17日	ピクニック実施 @ 虹の広場
5月中旬～下旬	反省 メッセージフォトギャラリー企画展示

活動期間

平成27年 4月17日～27年 5月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：堤夏鈴 (比較文化学類)、須藤れいな (医学類)、内田彰 (システム情報工学研究科)、豊田健志 (情報科学類)、田村理沙 (工学システム学類)
P：吉原ゆかり (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 4月22日 ミーティング
- 4月22日 学生生活課に質問
- 5月13日 ミーティング
- 5月27日 反省会

・目標達成度

70%

パーティシパントの最低人数を達成したが、期待人数より少なかったため。
パーティシパントが積極的に会話やアクティビティに参加してくれたため。
オーガナイザーが積極的に運営に参加してくれ、全体として盛り上がったため。

・得られた成果

LGBT の問題に興味がある人と交流することができた。
LGBT 当事者と非当事者の間の交流ができ、多様性ある社会が必要であるという認識が共有できた。
LGBT に関する時事問題や国際情勢、同性婚やパートナーシップに関する話題、LGBT の映画や文学、芸能など幅広い話題について楽しく話すことができた。
継続的に活動に参加したいというパーティシパントがいた。

今後の課題

広報活動の始まりが遅かったため、十分に告知ができなかった。
活動場所の下見を行わなかったため、会場の整備に時間がかかった。
これらを踏まえて、今後は十分余裕を持って活動を開始し、活動場所の下見も行うことが重要であると考えた。

経験者からのメッセージ

承認までに時間がかかることを考えて企画申請をすること
広報活動は1か月前からするのが好ましい
参加者登録を行ったほうが良い

運営者側から見たパーティシパントの変化

継続的にLGBTの問題に取り組みたいという意味を明らかにしてくれた。
LGBTに関する話題にこれからも興味を持ってくれそうだった。



就活大逆転セミナー～最短で内定を獲得するために今から行うべき全手法～(15007A)

T-ACT プランナー 梶川 恭平 (理工学群社会工学類4年)

活動内容

この講師の就活セミナーに以前参加した際に、自分の就活への取り組み方が180度変わりました。2016卒の就活はスケジュールが変わり、非常に難しい年ですがこのセミナーから多くのことを吸収してもらい、一人でも多くの就活生が納得のいく就活をしてもらえるように導きたいです。

内容としましては、筑波大学のOBをお招きし、内定を最短で獲得するための具体的な手法についてセミナーをしていただきます。まだ内定が出ていない方や、うまく就活の波に乗れていない方に必見の内容です。セミナー講師は2013年筑波大学卒のOBで、学生時代は大手企業4社から内定を獲得しています。多くの筑波大生に参加してもらいたいです。

アジェンダ

1. 誰も教えてくれない、就活の実態
2. 2016卒就活生が内定を勝ち取るための具体的なステップ
3. やるべきことと、やらなくてもいいこと
4. どうすればESが通るのか
5. どうすれば面接が通過できるのか
6. どうすれば内定が取れるのか
7. 今日から実行する就活アクションプラン
8. 就活本には乗ってない、リアル就活テクニック集

活動計画

5月初旬	活動開始
5月27日	セミナー開催
5月末	活動終了
	メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成27年4月17日～27年5月27日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：平岡皓介（社会工学類）
P：高橋義明（システム情報系）

活動報告

活動成果

- ・活動内容
 - 5月 学生生活課と交渉
 - 5月27日 イベントの実施
- ・目標達成度
100%
セミナー後に行ったアンケートより、非常に高い評価をいただいた。
- ・得られた成果
多くの学生の就活への取り組み方を伝えてもらうことができた。

今後の課題

ポスターや広告などを流すのが1週間前になってしまい、あまり効果が見られなかったので動き出しをもっと早くすべきであった。

経験者からのメッセージ

早めの行動を心がけた方がよいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

非常に多くの方に参加していただき、多くの方に取り組み方の一例を示していただくことができてよかった。

T-ACT に関する感想

ご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。

● プレゼンひろば2015 (15008A)

T-ACT プランナー 伊藤 敏 (人文社会科学研究科 D4)

活動内容

筑波大学は一つのキャンパス内に様々な研究分野が活動を共にする総合大学でありながら、研究分野を超えた交流が未だ盛んであるとは言い難い。この問題意識のもと、プレゼンひろば2015 (以下本企画) は、他分野に対する自身の研究分野の理解度の促進ならびに研究内容の発信を主軸に置く。具体的には、図書館入口スペースを借用して15分間の研究プレゼンテーションを行う。「行き交う人々が気軽に立ち寄れる、気軽に聞くことが出来る」をコンセプトに様々な領域を専攻とする学生 (院生、学類生を含む) を、毎回異なるプレゼンターとして招く。本企画は、プレゼンテーション、質疑応答などのフリーディスカッションを交え、直接的な異分野間交流の促進の場となることを目標とするものである。

活動計画

基本的には18:30~19:00の時間帯に、中央図書館入口で院生ならびに学類生を中心に研究プレゼンテーションを行う。

基本的には隔週金曜日に開催

4月20日 (月) ~24日 (金) 特別週間、コンテスト開催 (オーディエンスによるプレゼンテーション審査)

5月8日 (金) 前期初回

5月22日 (金) 第2回

6月5日 (金) 第3回

6月19日 (金) 第4回

7月3日 (金) 第5回

7月17日 (金) 第6回

活動期間

平成27年4月20日~27年7月17日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 佐々木夕莉 (人間総合研究科)、山本鷹之 (生物学類)、町田美琴 (国際総合学類)、山崎健太 (情報科学類)、松原悠 (人間総合科学研究科)

P: 野村港二 (教育イニシアティブ機構)

活動報告

活動成果

・活動内容

以下の日程で各々18:30~19:00のプレゼンテーションおよび質疑応答

各実施日のプレゼンテーションのタイトルを列記

4月20日 “4つめのキリスト教” —東方諸教会の歴史と文化—

4月21日 マインドワンダリングと創造性

4月22日 「いい子」でいいんだ!

4月23日 蜘蛛が嫌いなあなたに~家の中の生態系「蜘蛛編」~

4月24日 豚の裁かれた日—移りゆく時代の狭間で—

以上特別週間

5月8日 死の祭典とその役者

5月22日 中央アジアのテュルク化とイスラーム化

6月19日 探究—プレゼン、その真髄へ

7月3日 LGBTの今とこれから

・目標達成度

少しでも多くの分野の方にプレゼンテーションをしてもらおうという点はクリアできた。ただし、パーティシパントとプレゼンターとの交流促進に関しては不足が否めない。

・得られた成果

幅広い専門分野を知る機会という点では成果は大きいものと考えられる。しかしプレゼンター確保の苦心が最後まで解消できなかった。

今後の課題

・プレゼンターの確保が難しい。

基本的に有志および先のプレゼンターの友人紹介の形式をとっているため、プレゼンターの決定はもとより予

告や告知も遅れがちになることもあった

・毎回の流れがマンネリ化してきたか。

毎回のプレゼンターの内容は異なっているものの、基本的な流れ自体は相違はなく、そろそろ内容そのものにも再検討をする必要が出てきたかもしれない

経験者からのメッセージ

イベント自体だけでなく、聴衆をどれくらい確保できるかがカギです。この手のイベントでは、毎回の聴衆の数が違うなどザラです。しかし、聴衆が少ないからと言って、内容が悪いとは限りません。

私が見る限り、聴衆が5人以下の回で個人的に面白いと感じた回は6割はあります。基本的にプレゼンターはゲストなので、折角の内容も勿体ないと思うのと、プレゼンターに対して申し訳なさで一杯です。いかに定期的な聴衆の数をキープできるかに苦心しています。

運営者側から見たパーティシパントの変化

基本的に参加者全員がプレゼンター確保や告知・会場セッティングなどでよく協力してくれている。参加者は毎回のプレゼンターのプレゼンテーションをもとに、自分の発表やプレゼンを改良できた、との意見も寄せられた。

テコンドーを試してみませんか？ (15009A)

T-ACT プランナー 薛 承哲 (システム情報工学研究科 M1)

活動内容

新しい武術を体験しませんか？

朝鮮武道テコンドーは、世界の4千万人以上、100カ国以上で多くの人達に親しまれています。

テコンドーの特徴は、何と言ってもその華麗で多彩な足技でしょう。そして、その足技の連続的な動きから足のボクシングと言われるほどです。

足を多用した攻撃、防衛が多いと言うことは、身体を柔軟にする必要性があり、またその柔軟性を利用し、より高い蹴りを放つことができるようになります。そして、身体を柔軟にすることや足を高く上げることは大変健康に良く、ダイエットや健康増進、ストレス解消、女性の美容に非常に効果的なのです！

テコンドーのことを筑波大学に広げたいと思っていたところ、国際師範四段の戸島皇継さんと出会い、お話しすることができ、このプランを企画したいと思うに至りました。

ぜひチャンスを逃さないでください。

活動計画

先ず一回時間を決めて、テコンドーに興味があるメンバーを集めて、戸島皇継さんの道場で子供達や成人と一緒に体験する機会をつくります。

そして、興味があるかどうか確認してから、テコンドーを続けて練習したい方、テコンドーを筑波大学に広げることに協力できる方を集めて、筑波大学内で定期的に活動できるようにします。そして、最終的には筑波大学のテコンドー同好会を立ち上げたいと思います。

大学内にテコンドーを続けて練習するメンバーが集まれば、戸島さんが週一回、筑波大学に通って、無料で学生達にテコンドーを教えてくれると約束してくれました。

テコンドーを学んだら、あなたの大学生生活も変わるかもしれないので、一緒に楽しもうぜ！

お待ちしております！！

時間：5月28日（木） 19：00～21：00

場所：吾妻中学校 体育館二階武道場

活動期間

平成27年 4月30日～27年 7月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：鄭璐榮（人間総合科学研究科）

P：大井雄一（医学医療系）

活動報告

活動成果

今回外の道場と連携して、学校イベントの形でテコンドーを広げたいけど、あまり人が来なかった。

そのうちに学校内のテコンドーサークルを見つけて、仲間と一緒に練習ができて良かった。

今後の課題

もっと学校内でテコンドーを広げるため、今後はサークルの仲間と相談して、来年の新歓で仲間を集めようと考えていく。

経験者からのメッセージ

これからテコンドーをみたら、逃げないでください

運営者側から見たパーティシパントの変化

なし

● パンフェス (15010A)

T-ACT プランナー 平塚 万里奈 (社会・国際学群国際総合学類2年)

活動内容

留学生など外国人が多く住むつくばは多様な食文化が存在します。その中でも一番根強くあるのがパンです。つくばは「パンのまち」として、様々な国のパンを体験できます。

そこで、つくばに不慣れな留学生や新入生などを主な対象としてつくばの美味しい食を伝える機会を設けようと思います！

最終目標としては、つくば市の名店から買ってきたパンの食べ比べをし、自分のお気に入りのパンや行きつけを決めたりするきっかけづくりとそれにより参加者の暮らしをより豊かにすることです。

活動計画

5月	活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る メンバーにおけるパンの試食会、パンフェスで利用するパンの決定
6月～8月	パンフェス開催
9月末	活動終了 活動内容の振り返り、反省。活動報告書にまとめる。

活動期間

平成27年 5月 8日～27年 9月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：渡辺瑠花 (人間総合科学研究科)

P：矢澤真人 (人文社会系)

活動報告

活動成果

5月	活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る メンバーにおけるパンの試食会、パンフェスで利用するパンの決定
6月～8月	パンフェス開催

・目標達成度

80%

当日は、20名近くの人が集まり、つくば市内のパンの食べ比べを楽しみました。イベント後のアンケートでは、個人個人がお気に入りのパンを見つけられた、などの感想があって、達成感を得られました。

・得られた成果

パンの紹介ポップや、参加者がイベント当日だけでなく、イベント後の暮らしの中につながるきっかけの形を創出するべきだった点が課題であると思いました。

今後の課題

購入を予定していたとあるパン屋でのパンが売り切れていたこと。

経験者からのメッセージ

気軽に足を運びやすいような雰囲気づくりが大切だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パンフェスに参加していただいたことにより、パンや人、場所などとの新しい出会いとその空間を楽しんでいただけたようでした。

● ホンモノ体験～つくばの食を味わう～ (15011A)

T-ACT プランナー 平塚 万里奈 (社会・国際学群国際総合学類2年)

活動内容

つくば市は全国の中でも農業などが発達していて、美味しい食がたくさんある。しかし普段の生活で自分が食べているものがどこから来て、誰が作っているかなどを考えることは中々難しい。そこで、つくば市の農家さんから買ったお米と味噌、漬物や新鮮な卵を使ってご飯の食べ比べをし、普段の食について考える機会を設ける。また、地に根付いた食を体験することで地産池消のあり方を考えるきっかけづくりも行う。

お米は日本人が大好きな卵かけごはん、白米と漬物、日本酒で炊いたお米、クラフトビールで炊いたお米など様々な美味しい食べ方を比べてみる。

活動計画

- | | |
|------|----------------------------------------|
| 5月上旬 | 活動開始
食材提供を協力して下さるつくば市農家の決定、アポイントメント |
| 5月中旬 | ご飯会
つくば市の美味しい食材を集めて食べ比べを行う。 |
| 5月末 | 活動終了
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる |

活動期間

平成27年 5月 8日～27年 5月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：渡辺瑠花 (人間総合科学研究科)、黒川真臣 (生物資源学類)、友常果歩 (芸術専門学群)、岩崎智佳 (芸術専門学群)、永田真悟 (生物学類)、上野大樹 (国際総合学類)、飯田諒 (国際総合学類)、藤田朋花 (比較文化学類)、立川哲之 (生物資源学類)、杉山萌依子 (比較文化学類)

P：矢澤真人 (人文社会系)

活動報告

活動成果

- ・活動内容
5月9日 試作会
5月19日 本番
- ・目標達成度

当日は多くの人に参加していただき、つくば市の美味しい本物の食材を楽しんでいただけたと思います。参加者の方々から「大満足！」や「イベントが充実していた」という感想をいただきました。

今後の課題

予算や準備のスケジュール立てを時間的な余裕をもって行いたかったです。当日までの計画が少し甘かったような気がします。次からは、俯瞰的に運営できるようにしたいです。

経験者からのメッセージ

全体を見通して、当日から遡って、必要なことを書き出していく計画立てをすることによって、当日や当日までの準備期間に時間的・心の余裕をもてると思うので心がけましょう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

つくばの美味しい食を認知していただけたと思います。普段、何げなく過ごしているけれど、ココのお店でしか売られていないなどのイチオシやお気に入りの食材 (料理) などを各々発見していただけたかなと思います。それから、つくばという地に対して、愛着や関心を持っていただければと思います。



1000000人のキャンドルナイト2015—でんきを消してスローな夜を。—(15012A)

T-ACT プランナー 森 拓也 (人文・文化学群比較文化学類3年)

活動内容

昨年に引き続き、キャンドルナイト2015を松美池で開催します。

「1000000人のキャンドルナイト (<http://www.candle-night.org/jp/>)」を基にして、筑波大学らしさも表現していきます。具体的には、筑波大学の音楽系サークルに来ていただき、キャンドルの灯りをバックに演奏していただきます。

今年のコンセプトは「スローな空間で“想う”夜」です。なにかと忙しい現代ですが、一年に一度くらいは電気を消して、キャンドルのやさしい灯りのそばでスローライフを体験してもらうことで、家族・友人・彼氏/彼女など大切な人のことを思い返す貴重な時間となるでしょう。

同時に「電気の通っていない途上国の生活を体験し、考える」ことも勧めていきたいと考えています。

「でんきを消してスローな夜を。」

活動計画

- | | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月上旬 | 活動開始
メンバーを集める。(当日まで随時募集中!) |
| 5月某日 | ミーティング
キャンドルナイトのコンセプト、日程・時間、出演していただく音楽団体さん、キャンドルの数、ポスター・ピラ作成などを話し合い、決定する。
集まったメンバーを、渉外班(おもに音楽団体さんとの交渉)と広報班(おもにポスター・ピラやSNSなど広報宣伝活動)に分けて、班ごとに活動する。 |
| 6月上旬 | ポスターを貼りに行く。
音楽団体さんとのミーティングを行う。演奏の順番や機材に関して話し合う。 |
| 6月中旬 | (キャンドルナイト 1週間前ごろ)
キャンドル立てをペットボトルで作製する。 |
| 6月中旬 | 松美池でキャンドルナイト2015開催!
雨天・荒天時は順延(7月上旬)。 |
| 6月末 | (キャンドルナイト雨天順延時は7月中旬ごろ)
活動終了
メンバーで反省を行い、来年に向けて活動報告書をまとめる。 |

活動期間

平成27年5月1日～27年7月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 辻村梨紗(芸術専門学群)、栗田七彩(国際総合学類)、山内実緒子(工学システム学類)、岡村和典(情報メディア創成学類)、大津萌(国際総合学類)、野村唯李(日本語・日本文化学類)、小室竜也(人文学類)

P: 松井圭介(生命環境系)

活動報告

活動成果

- | | |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 5月30日 | ミーティング
進捗の確認、出演音楽団体さんの決定、キャンドルの個数の決定、音楽団体さんとのMTの候補日決定 |
| 6月08日 | ミーティング
進捗の確認、音楽団体さんとのMTで話し合う事柄を挙げる |
| 6月09日 | 音楽団体さんとのMT
当日のタイムスケジュールの確認、セットリスト・団体紹介文の提出について、必要な機材の融通 |
| 6月15日 | キャンドル立て製作 127個 |
| 6月16日 | キャンドル立て製作 63個 合計190個 |
| 6月17日 | キャンドル立て製作 209個 合計399個 |
| 6月19日 | 1000000人のキャンドルナイト2015 延期 |
| 7月03日 | 1000000人のキャンドルナイト2015 延期 |
| 7月15日 | 1000000人のキャンドルナイト2015 開催
今年も多くの人が観に来てくれて、大盛況のうちに終わりました。 |

目標達成度ですが、100%成功だと思います。

2度の延期があっただけ、開催当日は好天に恵まれ、大きなミスもなく無事に終わりました。イベント終了後もキャンドルの灯りが消えるまで居続ける観客もいましたし、少なくとも批判を述べる観客は見受けられませんでした。出演していただいた音楽団体さんからも、来年もやるならばぜひ出演したいとの声があり、イベントの需要を再確認できました。

得られた成果ですが、2年前と比べてキャンドルナイトの存在を知っている人が増えてきているという印象を受けました。2度の延期があったため、観客数自体は昨年と大差は無かったのですが、SNSなどの反応を見ると「行けなくて残念」という声が多数見られ、来年へのモチベーションにもつながります。

イベントの主旨から、会場に実際に来てもらわないといけないため、日取りや場所も含めて、さらに多くの人が来ることのできるイベント運営を考えるきっかけとなりました。

今後の課題

今年のキャンドルナイトは、はじめ6/19開催予定であったものが2回延期になって、結局7/15開催となりました。

1回の延期であれば、メンバー間でも音楽団体さんとも対応策を練っていたため対応できたと思いますが、2回の延期は想像もしていなかったため、松美池の予約やその他機材の申請などまた1からやり直しとなりました。対応に追われてしまいました。

うまくいかない場合の対応策を考えておくことは多いにこしたことはないため、来年もキャンドルナイトを開催するのであれば、どのような状況下でも万全の態勢をとれるようにしたいと考えています。

経験者からのメッセージ

T-ACTを運営する前に立てたスケジュールは、ほとんど上手くいかないと考えておいたほうが良いと思います。むしろ、スケジュールが狂った際の「どうにかする」力が最終的な成功には必要です。

何かのイベントを運営することは、この臨機応変に対応する力が養われるので、一度は経験したほうが良いかもしれませんね。

運営者側から見たパーティシパントの変化

メンバーによって、キャンドルナイトにどれだけ主体的に参加しようとしているかは異なるため、それぞれの人に異なるモチベーションアップを図ることは難しいものがありました。

しかし、イベント当日にキャンドルのきれいな灯りを見ると、イベントを成功させようと誰もが頑張っていました。

T-ACTに関する感想

T-ACTはいろいろな相談を聞いてくれて、そして多くのアドバイスをいただいて、何とかイベントを成功させられました。

ありがとうございました。



みんなで作る筑波大学産昆虫目録 (15013A)

T-ACT プランナー 藏満 司夢 (生命環境科学研究科 D1)

活動内容

筑波大学のキャンパス内にはいったい何種類の虫がいるのだろうか？当企画は、この問いに答えるために、大学に生息する昆虫の種名一覧表（昆虫目録）を学生の手で作成しようという試みである。

筑波大学筑波キャンパスは既存の自然・田園環境と都市が調和したキャンパス（筑波大学環境報告書2014）である。258ヘクタールの森林公園を基調とした当キャンパス（平成25-26年度筑波大学概要）には、落葉広葉樹が優占する2次林、大小6つ以上の池、農林技術センターを中心とする畑作地、関東の植生を中心に保存及び育成をしている大学植物見本園といった様々な環境が混在している。その結果、水環境や植生の多様性が高い景観が形成されており、それらの環境が重要な分布要因となる昆虫類に着目してみても多様な種類が分布しているであろうことが想像できる。筑波大学に産する昆虫類については既に一部の種あるいは分類群に関する報告がいくつか公表されているが、報告されている種は極めて限定的である。また、これまでにいくつかの学生団体によって当キャンパスの昆虫相調査が行われた形跡はあるが、未発表の状態のままである。

当キャンパスは1973年の開学前に作られており、キャンパス内の環境は当時の環境に比較的近い状態で保存されているものと考えられる。そのため、つくば市の都市開発が近年急速に進んでいることを加味すると、当キャンパスの昆虫相を解明することで茨城県南部の従来の昆虫相を把握することの一助となることが期待できる。また、筑波キャンパス近くに位置する筑波山は、関東平野にある数少ない山岳としてこれまでに多くの調査が行われてきた。筑波山の昆虫相の特異性を議論する際に、当キャンパスの昆虫相は格好の比較対象と成り得る。さらに、筑波大学に生物学や生物資源学といった生物学系の学問領域がある限り昆虫に関心を持った学生が恒常的に在籍することが見込まれることから、当企画が昆虫相の継時的変化を追うための観測基盤となることも期待できる。

昆虫相調査は採集および種同定の際に専門性の高い技術もしくは知識を要するため学術研究として行われることも多い。しかしながら、昆虫相調査には膨大な労力と時間が要される一方で、「ある地域にどのような虫がいるのか調べました」というような、いわば博物学的な取り組みは、現代では科学研究として評価されにくいという背景がある。そのため島嶼や高山帯、国立公園などの特別な場所でもない限り、学術研究としてプロの研究者が調査を行うことは期待できない。幸いにも現在の筑波大学にはプランナーが把握しているだけでも15名を超える昆虫愛好家（ここでは昆虫の観察や採集に関心があるものと定義する）が在籍している。さらに、卒業生まで含めると彼らの中にはコウチュウ類、ハチ類、ハエ類等特定の分類群の同定技術に優れた者も多い。従って、データ収集に必要な人手と、データ分析に必要な専門的知識を豊富に持った人材が存在する現在は、当キャンパスの昆虫相調査を行う絶好の機会であるというのが、当企画立案に至ったプランナーの考えである。

当企画の最終目的は、筑波大学筑波キャンパスに産する昆虫類の目録を作成することである。この目的を達成するために、採集調査、標本調査及び文献調査を行う。以下、各調査方法の概要を解説する。

採集調査は捕虫網等を用いた見つけ捕りや、各種トラップを用いた採集等、野外に足を運び昆虫採集を行う。採集品については標本作成後に図鑑、科学論文等を用いて同定を行う。同定が困難な種、分類群の一部については大学外部の専門家に同定依頼することを検討する。標本調査については、在学生や卒業生等が所有する筑波大学で採集した昆虫の標本を調査し、ラベル情報等を集める。この際必要があれば前述の方法で種の再同定を行う。文献調査においては筑波大学産の昆虫について報告された出版済みの文献（つくば生物ジャーナル、月刊むし等に情報があることを確認済み）を調査し、既知の情報を集める。作成した目録は、科学誌（学内の紀要や茨城県内の昆虫関連機関、組織の報告書等を想定している）への投稿を行うと同時に、web上で情報更新が行えるようなシステムを構築する。

参加者の役割分担は次のとおりである。オーガナイザー（5-10名）は担当の分類群（例えばAさんはチョウのなかま、Bさんはハチのなかま、のように）を受け持ち、その分類群の責任者となる。オーガナイザーは主に担当分類群の種同定、標本管理、データの集計と目録作成を担う。パーティシパントは野外採集や標本提供によってデータの収集を担うものとする。この時、パーティシパントには、「通学時に道端で拾った虫をオーガナイザーに届ける」といった簡単な行為でも参加できるものとする。また、オーガナイザーは標本の管理方法やデータの蓄積方法などについて議論し、継続的な情報の蓄積と半永久的な標本管理の体制を整える。その他、定期的に灯火採集等の採集会を企画し、パーティシパントとともに採集を行う。

以上の計画に基づき、筑波大学にどのような虫がいるのか学生の手で調べてまとめよう、というのが当企画の主旨である。

活動計画

- | | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 5月 | オーガナイザーの募集
目録作りのレギュレーションをプランナー＋オーガナイザーで行う（ラベル情報は何を必要条件とするか、標本の管理方法、データの管理方法など） |
| 5～11月 | パーティシパント募集 |

データ収集
不定期で採集会の実施
11月 データの集計と目録作成

活動期間

平成27年5月20日～27年11月19日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山口芽衣（生命環境科学研究科）、古崎敦也（生命環境科学研究科）、山下華緒里（生命環境科学研究科）、井戸川直人（生物学類）、岩田基晃（生物学類）、武藤将道（生命環境科学研究科）、關岳陽（生物学類）、石原輝人（生物学類）、清水壮（生物学類）、大崎紅葉（生命環境科学研究科）
P：古川誠一（生命環境系）

活動報告

活動成果

・活動した内容

5月20日～11月19日 各自採集、標本作成、種同定
5月20日～11月19日 ネット会議、情報交換
7月22日 第1回ミーティング

・目標達成度

目標は概ね達成できた。当企画では筑波大学内の昆虫相を把握し、種名目録を作成することを最終目標としている。その目標達成のために、今年度は（1）在学生および卒業生の昆虫愛好家（ここでは昆虫の観察や採集に関心があるものと定義する）のネットワークを作る、（2）つくば市および茨城県における昆虫類の分布に関する文献を収集する、（3）学内の昆虫の採集調査、を計画し、それらを実行することができた。

・得られた成果

（1）在学生および卒業生のネットワーク作成

在学生および卒業生約20名に連絡をとり、当企画への参加、協力を取り付けた。その多くは特定の分類群について優れた同定能力を有する学生である。参加した学生は、当企画への参加がT-ACT初参加となる者が多かった。

（2）つくば市および茨城県における昆虫類の分布に関する文献の収集

茨城県自然博物館研究報告、水戸昆虫談話会会誌などの文献を入手した。これにより、筑波大学の昆虫相とつくば市および茨城県の既知の昆虫相の比較が可能になった。

（3）学内の昆虫の採集調査

年間を通して、捕虫網を使った採集、トラップを用いた採集などを行い、1万個体以上の昆虫を採集した。また、それらの乾燥標本化と種同定を順次行った。その結果、本報告執筆時点（2016年2月12日）時点で、未記載種（新種）、関東新記録種、茨城県新記録種が複数発見されているほか、環境省絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅種、茨城県絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧にそれぞれ該当する昆虫種の分布が確認された。種名の詳細は近々印刷物としての報告で行うが、概要としては、カブトムシやノコギリクワガタ、オオムラサキといった、大型で一般に広く知られている種類から、タマゴコバチ類と称される体調1mm未満の小さな蜂や、外来種として近年関東地方で分布を拡大しているアカボシゴマダラのような要注意外来生物まで、分類群や大きさという点で様々な昆虫が見られた。

今後は採集物の同定作業、リスト作成および印刷物としての公表を行う予定である。また、それによって明らかになった昆虫相の情報を、筑波大学の自然度の高さを象徴するデータとして、大学の広報面で活用することも考えている。

「カブトムシが棲む大学、筑波大学」「都会では観られない虫がいる、筑波大学」「ムシしないで、あなたの側にムシがいる、筑波大学」のようなキャッチコピーとともに、筑波大学の虫の写真が写った大学広告ポスターがTXつくば駅に並ぶ日も近いかもしれない。

（4）その他

当企画を実行するにあたり、（国立研究開発法人）農業環境技術研究所農業環境インベントリーセンターからは標本保管用に標本箱30箱を無償提供いただいた。また、（一般社団法人）茗溪会からは学生活動支援助成金をいただいた。

今後の課題

今年度の活動で、筑波大学の昆虫相を把握するための組織の構築と情報収集を行うことができた。学術面での成果報告はもちろんであるが、先述したように大学広報に利用するなどして、一般の（生物学を専門としない）学生、教職員にも成果を還元できるようにしていきたい。

経験者からのメッセージ

とりあえずやってみましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

国内外の各地で、それぞれ専門の分類群の昆虫を採集・研究している筑波大生（OB 含む）が、“筑波大学の昆虫を調べる”というテーマで終結し、それぞれの特技を最大限に活かした。当企画への参加が、各々の専門を一般社会に還元する方法を考えるきっかけになったとの声が聞こえた。

T-ACT に関する感想

筑波大学の昆虫相を調べるにあたり、“学生および教職員の活動区域（教室など）における昆虫相”を明らかにすることを目的に、2015年12月8日にはT-ACT フォーラムにおいて昆虫調査を行った。窓のサッシなどから昆虫類の死骸を集めたところ、アオマツムシ、チャバネアオカメムシ、クロオオアリなど8種類が見つかった。もう少し多くの昆虫が見つかることを期待していたが、十分に清掃が行き届いていたようで、期待に反した結果となってしまった。夏場にエアコンを使わず、窓を全開にして風通しを良くすれば、もっと多くの昆虫類がT-ACT フォーラムの中に侵入し、トラップされると見込んでいる。“筑波大学における学生および教職員の活動区域における昆虫相”を明らかにするために、2016年夏季はぜひ、窓の解放と掃除の不徹底にご協力いただきたい。

学生プレゼンバトル2015 (15015A)

T-ACT プランナー 松原 悠 (人間総合科学研究科 D1)

活動内容

筑波大学における科学コミュニケーションを促進する。

せっかくの総合大学である筑波大学に、異分野の学生同士が学問的な交流をする機会がなければもったいない。

一方、これからの研究者には、異分野の研究者や一般社会人に向けて自身の学問・研究についてプレゼンテーションする能力が求められている。

これらの問題意識から、異分野の学生同士、および学生と一般社会人の科学コミュニケーションを促進する、学問・研究プレゼンテーションのコンペティションを開催する。

活動計画

- | | |
|-------|------------------------------------------------------|
| 5月 | 活動開始
昨年開催した「学生プレゼンバトル2014」の反省を踏まえ、今年のテーマを構想する。 |
| 6月～8月 | 広報戦略とルール作成を進める。同時に、学園祭実行委員会との連絡をとり、学園祭における開催の準備を進める。 |
| 9月 | プレゼンターを募集する広報を行う。 |
| 10月 | 予選を開催する広報を行う。予選を開催する。 |
| 11月 | 本戦を開催する広報を行う。学園祭において本戦を開催する。開催の反省をする。 |

活動期間

平成27年5月18日～27年11月18日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：相関良紀 (医学類)、町田美琴 (国際総合学類)、藤田佑樹 (システム情報工学研究科)、宮本隆典 (システム情報工学研究科)、返町洋祐 (生命環境科学研究科)、安藤潤人 (システム情報工学研究科)

P：野村港二 (教育イニシアティブ機構)

活動報告

活動成果

学生プレゼンバトル2015は、学群生や院生が、自らの取り組んでいる学問または研究の魅力を、異分野の学生・研究者や一般の方に向けてわかりやすく伝えるスキルを競うことによって、異分野の学生同士の異分野コミュニケーションと、研究者と一般の方々との科学コミュニケーションを促進する企画である。

・活動内容

- | | |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月17日 | プレミーティング (もっとオーガナイザーを集める方法を話し合い、昨年の学生プレゼンバトルのプレゼンターやつくば院生ネットワーク (TGN) のメンバー、そしてその周りの人にも声をかけることとした。) |
| 7月21日 | ミーティング (新しいオーガナイザーを加えて、予選・本戦の日時・場所・発表時間・審査方法、賞品、広報ポスターのキャッチフレーズを考えた。) |
| 8月～9月上旬 | プレゼンテーション要項、エントリー募集ポスターの作成・広報 |
| 9月15日～10月14日 | エントリー募集 |
| 10月上旬 | 予選広報ポスターの作成・広報 |
| 10月17日 | ミーティング (プレゼンターが確定したことを受けて、スケジュールを決定した。予選・本戦の役割分担をした。) |
| 10月26～27日 | 予選 |
| 10月下旬 | 本戦広報ポスターの作成・広報 |
| 11月7日 | 本戦 |
| (12月9日 | 反省会) |

目標達成度

今年は5回目の開催となったが、これまでより運営メンバーが少なかったため、メンバー集めと負担の軽減が課題であり、開催すること自体が達成すべき目標であった。

メンバーは、前回の出場者・当日運営協力者や、有志の団体「つくば院生ネットワーク (TGN)」のメンバーおよびその周辺の方々に直接連絡することによって、なんとか集めることができた。

集まったメンバーによるミーティングの回数も必要最小限の2回として、連絡調整の方法はメーリングリストをメインとした。

開催は達成されたので、目標は達成されたといえる。

・得られた成果

既述の事情により、昨年の企画に新しい要素を盛り込むという事はできなかった。申請手続きの煩雑な立て看板申請もなくした。

場所も人手の必要な大学会館から一般教室に変更した。しかしこのことによって、照明の調節が難しい、会場外の音が大きいといった障害が生じた。

本戦の人数は約100人で、うち82人からアンケート用紙を回収することができた。スタッフの準備不足や、審査項目の要再考を指摘する意見があった。ただ、エンターテイメントとしての満足度は高かった。

今後の課題

教室備え付けのプロジェクターが動作不良だった。普段から授業で使われている教室だったので事前に動作を確認しておかなかったが、前日準備日に確認するべきだった。

照明の強さの調節が、ON/OFFでしかできなかった。スクリーンを見せるためOFFにしたが、プレゼンターの顔が見えなかった。大学会館だと無段階に調節できるほか、ピンスポットもある。ただし、人手がないと運営できない。

本選の集計時間を休憩時間にしたため、多くの観客が帰ってしまった。この間も何かの企画をするべき。

エントリー者が6名と、過去最も少なかった。今年は立て看板をやめたが、次回やるとしたら立て看板をやるべき。ただし、人手が必要。

学長から、「プレゼン技術より研究内容を重視した方がよい」というご意見をいただいた。学生プレゼンバトルは当初は研究重視だったが、エントリー者を増やすため、学群生もエントリーしやすいよう、2014年から、学問を紹介する趣旨のプレゼンも認めるルールとなった。今後、企画の目的に照らしてルールを再考する必要がある。

経験者からのメッセージ

有志による科学コミュニケーション企画の成否は、人手や予算をどう確保するかにかかっている。人手や予算が少なければ、できることが減り、課題の多い企画となってしまう。これら現実的な制約について、T-ACTの職員のみならず十分に相談して、企画を運営するかどうかを考えた方がよい。

運営者側から見たパーティシパントの変化

(パーティシパントの登録はありません)

T-ACT に関する感想

カラー印刷が1企画1日100枚までというルールは、見直すことはできませんか。学生プレゼンバトルは、10月の秋学期開始後にもエントリー期間を確保し、期間終了まもなく予選を、予選終了まもなく本戦を開催するという、期間に余裕のないスケジュールになっています。そのため、ポスター印刷にかかる期間を短くしたいのです。ご検討くだされば嬉しいです。

盆踊りプロジェクト —文明開化と交流— (15016A)

T-ACT プランナー 杉山 萌依子 (人文・文化学群比較文化学類2年)

活動内容

つくばにしかない人、環境といった資源を生かし、この土地で末永く受け継がれ、伝統文化となりうる祭を作る。他地域出身者や海外の方が多くつくばだからこそ、温故知新の精神で地域や住民と関わり合い、生かしながら、日本文化の発信と文化交流の場としての役割を持った祭りになりたい。

本学には、日本文化を扱うサークル、活動が多く在るが、他活動、学生との触れ合いは少ない。一方で、特に留学生など日本文化に触れてみたい学生が多くいる。また、日本人学生の地域住民との関わりも少ない。本活動は、文化発信をする活動と、文化に触れてみたい人たちをつなぎ、祭を始めとする文化交流の場を創生していく活動である。

本活動は、今夏もしくは秋、学内もしくは学校近郊で盆踊り大会を行うことを目標とする。(既存の祭との差別化や内容の明確化を図り、盆踊りを提案する。) 盆踊り大会開催へ向け、踊りの練習会を定期的に開いていく(週1程度)。踊りだけではなく、茶や、花、日本食といった日本文化に触れる機会を積極的に作る。学内の学生活動だけではなく、学外から文化を扱う外部講師を招き一流の文化体験を行うことができるようにする。

本学の留学生の数は大変多く、日本語、日本文化を学びに来ている学生も多い。そういった留学生に文化を伝えていくことで、日本人である我々も文化の大切さを知り、国籍や人種を超えたコミュニケーションを行うことができる。また、逆に海外留学を目指す学生たちも海外での文化交流の魅力を考えていくことができる。

活動計画

5月30日	やどかり祭での御輿体験 (予定調整済み)
6月	活動説明会 定期文化体験会
7月	活動説明会 定期文化体験会 プレ盆踊り大会
8月	活動説明会 定期文化体験会 地域の祭見学体験会
9月	活動説明会 定期文化体験会 地域の祭見学体験会 盆踊り大会

活動期間

平成27年 5月30日～27年10月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大迫未歩 (比較文化学類)、岡崎純豊 (比較文化学類)、菊嶋京子 (比較文化学類)、小関渚月 (比較文化学類)、相馬愛 (比較文化学類)、高野大 (比較文化学類)、東出友希 (比較文化学類)、三浦希美 (比較文化学類)、巴ノ瀬唯那 (比較文化学類)、宮川月子 (比較文化学類)、福田哲郎 (比較文化学類)、池沢ひかり (比較文化学類)、喜瀬沙織 (比較文化学類)、小島健一 (比較文化学類)、酒匂陸 (比較文化学類)、野崎凌太 (比較文化学類)、横山舜 (比較文化学類)、黒川真臣 (生物資源学類)、水野恵奈 (生物資源学類)、王家潤、周俊傑、畑佳恵、リャホヴシカ ヤーナ

P：木村周平 (人文社会系)

備考

後援：比文プロジェクト

本活動は、比較文化学類の学生が発起人として発信・先導し、他学類は勿論、その他多くの方々の参加を期待する。

活動報告

活動成果

・活動内容

- 6・7月 コンセプト立案・企画書作成
市役所と運営について相談
企業への依頼準備・法律相談
ツイッター、フェイスブック等での発信
踊り練習会「踊練」毎週火・金
※6月22日茶道体験会イベント、7月25日邦楽体験イベント
※7月24日学内イベントの実施
- 8月 地域の方々や子供に告知、学外でのイベントの実施。
※8日 筑波東中学校 盆踊り企画への参加。
※23日 まつりつくば 小田の練り歩きへ参加。
※29日 学外イベントの実施 (LALA ガーデン)。
企業協賛・屋台出店・パフォーマンス依頼。

- メインビジュアル・チラシ・グッズ作成
- 演奏者確定、当日スタッフ募集
- 備品確保・予算管理・契約書類（屋台、協賛、助成金、警備、保険等）
- 9月
 - 市内各地での告知
 - 本番タイムスケジュール・曲目・コンテンツ調整
 - 本番会場レイアウト作成（配線・発電機・音響・照明設備）
 - 出店屋台の確定・保健所への申請
 - 演奏者のリハーサル、最終調整
 - 当日スタッフマニュアル・統括表・緊急時対応マニュアル作成
 - 近隣地域への挨拶周り
- 10月3日（土）16：00～20：00 本番
 - 盆 LIVE 開催

・目標達成度

目標の7・8割を達成できたと感じています。
無事本番のお祭りを実施することが出来た点では達成度は10割です。
元々のコンセプトの維持度や集客目標という点を考慮して7・8割としました。

・得られた成果

大学外の方々と大切なお縁が出来ました。
「来年度もぜひ」というお声を頂き、筑波大生とつくばの間に小さいながら繋がりを作ることが出来たのが何よりの成果だと考えています。

今後の課題

○このプロジェクトを、未来のつくばの文化に。

参加者・演奏者から広がったつながりを、来年度以降にさらに拡張したいと考えています。

地域の皆様に受け入れてもらえるよう、自分たちだけが楽しいような企画作りはせず、つくばに住む皆様に楽しんで頂けるようにイベントとしての質を向上させたいと思います。

○今よりさらにつくばを魅力あるところに。

先のことになるかもしれませんが、市民・行政が一体となったつくば市の対外的アピールの推進も目指します。

つくばに暮らす人々が共に楽しめる空間を目指し、本当の意味で生活を共にする関係づくりをしたいです。

○運営面では

広報の期間を拡張するため、また実行委員の生活に支障をきたさないよう、時間に余裕を持った準備を行おうと考えています。

集客の面では、より多くの留学生の参加を目指します。

経験者からのメッセージ

信頼できる仲間と、頼れる大人を見つけましょう。

わたしは企画実施の上で、課題や困難を全て、人との繋がりや心意気に助けられました。

その分迷惑もかけると思います。学生だからと言って甘えすぎず、お礼、挨拶を忘れないように心掛けてください！

そして外部の人や新しい人と関わると忘れがちになってしまいますが、一番は身近な仲間をしっかりお礼をしましょう。

みんなで素敵な企画を実現してください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

学生は、始めはただなんとなく手伝いに来てくれたり、参加してみたりという方が多かったにも関わらず、本番当日はとても楽し気に過ごしてくれました。

地域の方も、広報の結果としてよりも、たまたま居合わせて来てくださった方々が多いように感じましたが、偶然の参加にも関わらず輪に入り踊って下さったり、学生に声をかけて下さったりと、会場の雰囲気の中で積極的になったように感じます。

特に私たちのことを知ってメールで連絡をくださった方や、当日声をかけて下さった会場周辺の企業様など、私たちからだけでなく、地域の皆様から学生にアプローチして頂けるようになったと感じ、嬉しく思います。

本番前に行った日本文化の体験会等の活動でも、知り合った留学生がその後も私たちと関わろうとしてくれたのは、運営としても嬉しいことでした。

T-ACT に関する感想

十分お世話になりました。心からお礼申し上げます。

他の企画のプランナーと知り合う場や、サポーターと出会う場が多くあるとより良いと思います。

今後ともよろしくお願いします。



あなたの小説が読みたい！—第八回筑波学生文芸賞の作品及び一般選考委員の募集— (15017A)

T-ACT プランナー 千葉 高志 (人文・文化学群人文学類2年)

活動内容

総合大学という筑波大学の長所を生かし、小説を書くこと・読むことに興味を持つ学生の活動及び交流の活性化を手助けしたい。またつくばに関わる、筑波大学外の学生との交流のきっかけにしたい。最終的にはつくばに関わる学生全体の創作活動の活性化を目指す。

活動計画

5月1日	作品募集開始
6月8日	一般選考委員 (パーティシパント) 向け説明会
7月13日	一般選考委員 (パーティシパント) 向け説明会
7月15日	募集締め切り
8月	一次選考: 集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員 (オーガナイザー) のみで選考する。
9月	最終選考: 一次選考通過作品を一般選考委員 (パーティシパント) と共に選考し、受賞作を決定する。一般選考委員参加者との交流及びアンケートを行う。
10月	(受賞作を発表・受賞作掲載冊子を編集する)
11月7日~11月8日	雙峰祭にて冊子配布。筑波学生文芸賞運営委員 (オーガナイザー) のみで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

活動期間

平成27年5月1日~27年9月30日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 小川耕平 (人文学類)、柏原歩那 (化学類)、坂戸将也 (応用理工学類)、立花裕崇 (人文学類)、御厨直柔 (知識情報・図書館学類)、高橋勇貴 (社会学類)、谷翔 (人文社会科学研究科)、ROSSIN CECILIA ANGELICA (心理学類)
P: 津崎良典 (人文社会系)

備考

ここでは、一般選考委員 (パーティシパント) を募集しています。小説について語り合いたいという方なら、だれでも歓迎です! 【Twitter】 <https://twitter.com/tbaward>

活動報告

活動成果

・活動内容

5月1日	作品募集開始
6月8日	一般選考委員 (パーティシパント) 向け説明会
7月13日	一般選考委員 (パーティシパント) 向け説明会
7月15日	作品募集締め切り
8月10日	一次選考: 集まった作品を筑波学生文芸賞運営委員 (オーガナイザー) のみで選考する。
8月11日	一般選考委員との勉強会 (模擬選考会)
8月26日	最終選考: 一次選考通過作品を一般選考委員 (パーティシパント) と共に選考し、受賞作を決定。受賞作を発表。
10月10~12日	受賞作掲載冊子を編集 (オーガナイザーのみ)

・目標達成度

80%は達成。一般選考委員の方も積極的に参加してくれた。

しかし、途中で一人キャンセルが出たりオーガナイザーも夏休み中の参加が難しいこともあった。

・得られた成果

例年どおりの企画ではあるが、作品のほとんどが新規の応募者となる、先生の講評が復活するなど、新しい人々に関わるものとなった。

今後の課題

- ・一般選考委員 (パーティシパント) の方と予定を合わせるのに苦労した
- ・例年に比べ一般選考委員説明会への参加者が少なかった
- ・選考基準について、明確化を求める意見があった
- ・HPの情報の古さと不合理的な項目、分かりやすさに改善の余地あり
- ・作品応募数は増加せず

経験者からのメッセージ

- ・連絡は早めに、密に行いましょう。特に休暇中は皆それぞれ予定があるので、予定を大きく変更しなければならない場合もあります。
- ・定例化しつつある企画でも、改善の余地は色々あります。少しずつ新しくしていく必要がありそうです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

唯一のパーティシパントの方は、貴重な機会を得たと大いに喜んでくれた。今後もまた企画に関わりたいと仰っていた。



つくバグ2015 野外における自然体験教室 (15018A)

T-ACT プランナー 井戸川 直人 (生命環境学群生物学類3年)

活動内容

環境問題が国際的な重要課題とされる昨今、次世代を対象とした環境教育の必要性は極めて高い。しかし、現代の子供たちが環境について体験的に学ぶ機会は乏しい。また、筑波大学は緑豊かなキャンパスを有し、環境分野の講義や研究が実施されているが、学生の身近な自然への関心は高くない。そこで、生物学を専攻する学生が、児童や学生に向けた自然体験教室を開催し、地域の環境について楽しく学ぶ場を提供する。

活動計画

4月中旬	自然体験教室の内容決め
5月	ポスター作成 スケジュール作成
6月21日	募集締め切り
7月4日	前日準備
7月5日	企画当日
11月	学園祭で展示 活動報告

活動期間

平成27年 5月31日～27年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山本鷹之（生物学類）、田中千聡（生物学類）、小山寛（生物学類）、矢野更紗（生物学類）、相澤良太（生物資源学類）、鈴木佑弥（生物学類）、平野靖也（生物学類）、栗原良輔（生物学類）、岩田基晃（生物学類）、吉橋佑馬（生物学類）、山口芽衣（生命環境科学研究科）、林靖人（生物学類）

P：木下奈都子（生命環境系）

活動報告

活動成果

毎週木曜日：ミーティング

7月5日：夏バグ 昆虫のスケッチ教室

11月7～8日：秋バグ（学園祭） ザ・むし・ワールド

・目標達成度

夏バグには15名、秋バグには1,500名が参加した。夏バグでは昆虫のスケッチを通じて、身近な生き物を観察する手法を学んでもらうことができた。秋バグでは昆虫の標本や生体の展示を通して、市井の人々や学生に昆虫の興味深い生き様を伝えることができた。

・得られた成果

本活動の最大の懸案事項は、若い世代への運営の継承だった。昨年度は大学院生中心の運営体制であったが、本年度は学類生にバトンタッチして活動を引き継いだ。つくバグに受け継がれてきたノウハウを活かしつつ、USB顕微鏡などのICT機器を活用した企画を実施するなど、草創期のメンバーの理念を保ちつつ、新たな技術も積極的に取り入れることができた。

今後の課題

救急救命講座の参加を検討したが、日程が間に合わなかった。次回は余裕をもった計画を立てたい。

経験者からのメッセージ

主体性をもって計画的に目標を達成することを、プロジェクトの実践を通して学ぶことができます。きっとよい経験になるでしょう！

運営者側から見たパーティシパントの変化

今年初めて参加した学類1年生のメンバーは、次第に責任感を身につけてくれたと思います。上級生も、指導的な役割を任せられるようになったと感じました。

T-ACT に関する感想

写真の印刷やラミネート加工など、大変お世話になりました。ありがとうございました。

T1グランプリ2015 (15019A)

T-ACT プランナー 小林 陽一郎 (理工学群化学類3年)

活動内容

筑波大学は他の大学に比べて『お笑い』サークルというものが少ない。あるのは唯一「落語研究会」のみ。そこで、とにかく人を笑わせたい人・何か面白いことをしたい人・何か面白いことに関わりたい人を集め、筑波大学で『笑い』のお祭りを開催したい。

具体的には昨年の『T1グランプリ2014』同様、漫才・コント・大喜利の一般参加を集めるとともに、今年度は、より簡単に参加できる企画や学問のジャンルを飛び越えた企画も準備していきたい。

最終的には、参加者全員で学群学類などの所属・教員学生などの枠を飛び越え、一つの大きな祭りを作ること为目标にしている。

活動計画

6月中旬	第1回 ミーティング 広報準備 (Web ページ・Twitter 更新) 企画審議
7月	第2回 ミーティング お笑いライブ参加者募集開始 (広報開始) 企画審議
8月	大喜利お題集計 企画審議
9月	第3回 ミーティング 大喜利参加者募集開始 (広報開始)
10月	第4回 ミーティング 企画準備
11月	第5回 ミーティング 第6回 ミーティング 企画準備
12月	第7回 ミーティング 本番

その他、細かい予定は参加者で話し合う。

活動期間

平成27年 6月21日～27年12月20日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：荒井怜奈 (生物学類)、島田慎太郎 (知識情報・図書館学類)、山田侑希 (生物学類)、田口美樹 (生物学類)、澁谷美乃里 (生物学類)、菊池ゆとり (知識情報・図書館学類)、田村理沙 (工学システム学類)、池上雄紀 (生物資源学類)、倉澤保 (生物資源学類)

P：長谷川聖修 (体育系)

活動報告

活動成果

・活動内容

7月18日	ミーティング
9月27日	ミーティング
10月4日	ミーティング この段階で web・Twitter・ライブ運営、その他、お笑いモジュール期末試験 (投稿型大喜利)、大喜利の問題作成担当が決定。
10月5～28日	ポスター作成、お笑いモジュール期末試験問題完成。 T-ACT と落語研究会の雙峰祭企画にてお笑いモジュール期末試験問題回答用紙を配布し、約400枚を配った。
11月5日	会場を予約 (3A213か3A203)
11月10日	ミーティング この時点で休日の開催をやめ、平日の放課後に開催することを決めた。
11月21日	ミーティング・準備 ビラ配り (昼休み)
11月28日	ミーティング・準備 ビラ配り (昼休み)

11月29日	ミーティング・準備	ビラ配り（昼休み）
11月30日	ミーティング・準備	ビラ配り（昼休み）
12月1日	ミーティング・準備	ビラ配り（昼休み）
12月2日	ミーティング・準備	ビラ配り（昼休み）
		当日の流れの話し合いや小道具等の準備をした。ビラは約800枚以上を第2・3学間で配った。
12月3日	リハーサル	
12月4日	本番	

・目標達成度

70%

去年と比較して観客の数・参加者数が非常に多くなり良かった。当日の機材トラブルがあり、予定していた USTREAM 配信が行えず、音響についても不備があった。

・得られた成果

参加者と観客の満足度、筑波大学全体を巻き込んでのお笑いライブの開催を行うことができた。他大からの参加があり、より筑波大学の良さを広めることができたと感じた。

また来年度の同大会開催も期待される盛り上がりを取ることができた。

今後の課題

・参加者募集について

去年同様になかなか集まらないため、今回は各サークルにメールでの募集、参加賞をつけ募集を募った。13名以上の参加を受けたが、今後の課題として早く募集を始めることでより多くの参加を募りたい。

・機材トラブルについて

よりリハーサルの回数を増やすことによりオーガナイザーの当日の立ち回りを体に染み込ませる。各オーガナイザーとしっかりコミュニケーションを取り、苦手な分野、得意な分野を考慮した上で仕事を振り分ける。

・仕事の振り分けについて

オーガナイザーの数の多さに比べて、フライヤー作り・運営について仕事が少ない人に仕事が回りすぎていた。上手な仕事の分け方をしていきたい。

・金銭について

賞品や小道具に2万円以上の金銭負担がかかってしまう。

経験者からのメッセージ

自分のやりたいこと（自己実現）とオーガナイザー・プランナーのやりたいこと（他己実現）との上手いバランスを取る。筑波大学に支援をしてもらっている以上、筑波大学を他の大学に自慢できるようなお祭りを作ること。を意識して T-ACT を運営しました。

感謝の気持ちを忘れずに、自分のやりたいことをこの T-ACT を利用して実現してください！僕に協力できることがありましたら、お気軽に喜んでお手伝いさせていただきます！

運営者側から見たパーティシパントの変化

ライブの運営・演出方法を話し合うことで、見世物：他の人に見られることについての意識が高まった。とにかく T1 グランプリ後の打ち上げにて、「楽しかった」という声を聞くことができた。

T-ACT に関する感想

T-ACT に登録している人に募集をかけるメールシステムを誤って利用してしまったため、100件以上のメールアドレス不在メールが返信されてしまった。何か、T-ACT 登録者のメーリングリストのようなものがあれば多くの企画に参加者が増えると思った。

T-ACT フォーラムの皆様には印刷等でご迷惑をおかけしました。おかげさまで大変な盛り上がりのライブを開催することができました。オーガナイザー・パーティシパント一同感謝申し上げます。

ありがとうございました。

● 野外 DJ イベント『Vivid Impulse!』(15020A)

T-ACT プランナー 小池 いくみ (人文・文化学群人文学類2年)

活動内容

クラブミュージックが好きで、普段は室内のイベントに行っています。それを、よく軽音サークルが野外でライブをやっているように、野外で聴けたらまた違う楽しみがあるのではないかという話になり、この企画を立ち上げました。

目的・目標

- ・学内のクラブミュージック好き、音楽好きと交流する
- ・クラブミュージックを広める

クラブ音楽はポップスやロックに比べて愛好者が少ないので、なかなか同じ趣味の人たちに会う機会がない。新たな交流の輪形成の機会提供を目指したい。また、音楽が好きの人に新たな音楽を知るきっかけを提供したい。クラブミュージックについてまわる悪いイメージ(チャラチャラしてる、怖い等)を払拭したい。

活動計画

- 5月～6月中旬 ・プランナー、オーガナイザーで話し合いを進める。目標、目的、日時、場所、必要機材、必要人数、予算、宣伝方法など。
 - ・DJ、スタッフの募集
- 6月中旬以降 ・DJ、スタッフの募集締め切り。顔合わせ、ミーティングを行う。当日のタイムテーブルを考える
 - ・フライヤー、ポスター作成。宣伝を行う
- 7月中旬 ・イベント開催
 - ・活動終了後、振り返り、反省。活動報告書をまとめる

活動期間

平成27年 5月 1日～27年 7月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山中万里（工学システム学類）、佐和田海真（人文学類）、甲斐健太（情報メディア創成学類）、佐藤光平（応用理工学類）、飯田諒（国際総合学類）、笹岡皓人（情報科学類）、林貴朗（生命環境科学研究科）

P：五十嵐沙千子（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

5月初旬 企画発足 プランナー・オーガナイザー決定 DJ、スタッフ募集
 プランナー、オーガナイザー間での顔を合わせてのミーティングは5回ほど行いましたが日には記録していません
 通常の連絡はインターネット上で行いました

6月20日 DJ ミーティング

6月27日 スタッフミーティング

7月12日 イベントの実施

・目標達成度

60%

野外で DJ イベントをやるというおおまかな目標は達成できた。また、当日パーティシパントとして参加してくれた方から、よかったというコメントをもらうことができた。初めて開催したイベントだったが、たくさんの人に遊びに来てもらった。

一方で、トラブルが多く発生し、満足できない部分も多々ある。また、時期や時間の関係で、当初やりたかった演出(照明など)が実行できなかった。結果的にたくさんの人に迷惑をかけてしまい、あまり成功したとはいえなかった。

・得られた成果

クラブミュージック好きな人と知り合う機会を設けることができた。また、元々音楽が好きの人にも遊びに来てもらった。

今後の課題

- ・連絡手段が混乱した。当初ツイッターで募集をかけていたのでツイッターのダイレクトメッセージを利用してしたが、うまく機能しなかったので slack に移行した。しかし slack の設定や使い方がわからずに混乱する人

がいたり、登録に時間がかかったりして、スムーズに移行できなかった。連絡手段を最初から定めておく必要があった。

- ・顔を合わせてのミーティングが少なすぎた。当日の動きをもう少し細かく話し合っておけばよかったと感じた。難しいとは思いますができればDJ、スタッフ全員揃ってのミーティングの機会が欲しかった。
- ・HP更新の際にDJ、更新者間の連絡がうまくいかず、誤った情報を掲載してしまった。
- ・パーティシパントにT-ACTフォーラムで参加申請することを促さなかったため、当日の人数が予想できなかった。この報告書も正しく記入できなかった。
- ・フライヤーを作ったものの配る機会がなかった。
- ・電源を取るために部屋自体を借りなければならないことを知らなかったため、電源確保が開催ギリギリになった。その際パートナーの先生にサインをもらう関係で迷惑をかけてしまった。
- ・当日気温が高く、DJ、スタッフの疲労度が高かった。もっと開催時期を選ぶべきだった。また。太陽の向きを考えていなかったため、機材に太陽光があたるのを防ぐためのテントの位置を、何度もずらさなければならなかった。
- ・当日酒を持ち込むパーティシパントがいた。HPなどで注意喚起はしていたが、もっと強調して酒類の持ち込みを禁止していてもよかった。その後DJの一人がその酒を飲んでしまったため、イベント片付けから外れてもらわざるを得なくなった。
- ・イベント中記録を取らなかった。せめて参加人数は記録するべきだった。この報告書を書くという意識が足りなかったように思う。
- ・ラインケーブルを店から借用していたが、一本学校に置き忘れてしまい、当日返却ができなかった。使用機材が誰の、どこのもので、どう返却するのかを事前に全員に連絡するべきだった。

経験者からのメッセージ

初めて自分で開催するイベントはとても緊張しますが、助けてくれる人は必ずいます。イベントのノウハウを知っている人と交流を持ってから企画を始めるとスムーズです。ただ、積極的に周りに意見を求めるのは良いことですが時間をかけすぎではいけないと思います。計画は早め早めで進めて行ったほうが良いです。

運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者の変化はあまり見られなかったような気がします。

T-ACT に関する感想

T-ACT さんにはとてもお世話になりました、本当にありがとうございました。部屋の備品までお借りしてしまってますみませんでした。素敵な制度だと思うので、学校パンフレットやオープンキャンパスなどで、もっと積極的に広報しても良いのではないかと思います。

筑波で吹奏楽！誰でもコンサート 2015 (15022A)

T-ACT プランナー 岡部 聡美 (人間学群心理学類3年)

活動内容

吹奏楽—こんなにも、誰でもみんなに優しく、懐の深い音楽形態が、ほかにあるだろうか。

昨年、筑波大学吹奏楽団が雙峰祭の企画として行い、大成功を収めた、『筑波で吹奏楽！誰でもコンサート』、通称『誰コン』。

1度限りのつもりだった誰コンのうわさは、人から人へ広まり、100人以上の仲間が集まりました。

ステージに入りきれず、客席までところ狭しとならんだプレイヤーたち。

「私、久しぶり演奏するのよ」誘われて、見に来たたくさんのお客さん。

皆がひとつになって、ホールは音、熱気、笑顔、感動、涙でいっぱいになりました。

音楽は好きだけれど、楽器にはあの時以来、触れていないなあ…

ステージの熱気、みんなで一つになる感覚、お客さんの笑顔、忘れられないなあ…

クラシック / ポップス / ジャズ 演奏してみたいけれど、機会がないなあ…

久しぶり、みんなといっしょに、舞台に立ちたいなあ…

そんな思いを心に秘めた仲間が、筑波大学にはたくさんいます。

今年もやります。パワーアップして帰ってきました！

新しい試みとして、

1 もっと！みんなの誰コン

筑波大学学生はもちろん、先生も、付近の学校、一般団体、歌や吹奏楽編成外の楽器だって、誰でもみんな集まれ！

さらに、筑波大学メッセージソング『IMAGINE THE FUTURE』を、本企画のために吹奏楽編曲。お客さんだって、みんな歌えます。

2 もっと！みんなによる誰コン

筑波大学の昼休みの時間を使い、誰コンランチタイムコンサートを行います。みんなで仲間を集めて、一緒に誰コンを作りましょう。

3 もっと！みんなのための誰コン

T-ACT 承認団体となることで、自由で安心。活動の幅がぐんと広がり、たくさんの方が知ることができ、参加しやすくなります。

個人練習場所の開放、親睦会や打ち上げも企画しています。

さあ、一緒に音楽しよう。誰コンしよう。

あなたのことを待っています。

活動計画

6月 筑波大学吹奏楽団団員参加調査

T-ACT 申請

参加フォームなどの整備

フライヤー作成

メンバー募集

7月 メンバー募集

8月 上旬中までに楽譜の手配

9月 9/23 (水) 9/27 (日)

練習

親睦会

10月 10/7 (水) 10/11 (日) 10/21 (水) 10/25 (日) 10/28 (水)

練習 ※休日は親睦会含む

本番進行表作成

11月 11/4 (水)

練習

11/5 (木)

本番読み合わせ

ランチタイムコンサート、ウェブページ、SNS に関しては未定 (学園祭実行委員と交渉)

活動期間

平成27年 6月 1日～27年11月10日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山下由加里（看護学類）

P：若槻尚斗（システム情報系）

備考

予定希望人数は、お客さんも含めています。最低必要人数は、曲を演奏できる最小を書いています。

活動報告**活動成果**

・活動内容

6月2日 企画書完成

①吹奏楽団②吹奏楽団 OBOG ③管弦楽団、応援団など④その他音楽系サークル⑤所属なしの方へ向けてそれぞれ参加の手順や勧誘方法を記した企画書を作成した。これは、①普段から吹奏楽をやっている人②最近まで吹奏楽をやっており、プランナーと顔見知りである人③普段から管楽器を演奏している人④普段から音楽に親しみがある人⑤参加してみたいが、経験や楽器の都合で参加をためらうおそれのある人の4パターンで勧誘方法や説明の内容を変えたほうが良いと考えたからであり、良い効果を上げた。

7月2日 参加フォーム完成

去年同様の企画を行った際、参加者の名簿が手入力の管理で大変非効率であったため、Google フォームを作成し名簿が自動的に作成されるようにした。

このフォームに関する問題点は、フォームの URL を一度拡散してしまうとどんどん回答されてしまい、楽器の数の都合上人数制限のあるパートに人が増えすぎてしまう、という問題が1度起こってしまった点である。しかし運よく他の楽器も演奏できるとのことであったため、他の楽器に移ってもらった。

10月3日 トロンボーンアンサンブル「とんとろ」定期演奏会でのチラシ挟み込み

地域の音楽に関心がある方に告知を行うことができたため、良い効果を上げた。

10月7日 第一回練習

練習前に自己紹介やパートごとの親睦を深める時間が取れたため、よいスタートが切れたといえる。

10月8日 吉川洋一郎先生、広報室、プランナー岡部による打ち合わせ

曲のテイストを決定するために、去年の参加者や楽器編成などをお伝えし、打ち合わせを行った。少人数でも大人数でも演奏ができる曲に仕上げていただいたため、学園祭付近で2度広報室経由での演奏依頼をいただくことができ、今後も吹奏楽団のレパートリーとして演奏していきたいと思う。

10月12日 第二回練習（ITF 作曲者：吉川洋一郎先生による曲の確認・小レッスン）

実際に演奏したときに問題が出ないかを吉川先生にお越しいただき検討。いくつかの改定を入れ、ITF 吹奏楽版が完成した。当初、ボランティアでやっていただくということであったが、先生にはお礼と記念を兼ねて筑波大学の扇子と鉛筆を差し上げ、喜んでいただいた。

10月11日 バリチューバアンサンブル「LBSL」定期演奏会でのチラシ挟み込み

地域の音楽に関心がある方に告知を行うことができたため、良い効果を上げた。

10月13日 筑波大学吹奏楽団パーカッションアンサンブルコンサートでのチラシ挟み込み

地域の音楽に関心がある方に告知を行うことができたため、良い効果を上げた。

10月15日 第三回練習

10月17日 管弦楽団ミーティングでの参加者募集

ここで告知を行ったことによってたくさんの管弦楽団の参加者が得られ、吹奏楽団との交流も増えたため、良い効果を上げた。

10月28日 誰でもコンサートランチタイムコンサート実施

学内で実際に演奏することによって学生・職員の人目を惹き、熱心に話を聞いてくれる人もいたため、良い効果を上げた。

10月28日 第四回練習

11月4日 第五回練習

11月5日 最終練習（本番読み合わせ）

練習時間は限られていたが、メンバー一丸となって練習に励むことによって何とか形になった。また当日の動きを詳細にまとめた進行表を配布し、読み合わせを行った。ここできちんと予定の周知ができたため、本番は大きな混乱もなく終えることができた。

11月7日 本番

今年度もたくさんのメンバーとお客さんが集まり、大成功に終えることができた。

目標達成度は75%である。ITF やランチタイムコンサートなど新しい試みや、本番の熱気や笑顔、たくさんのメンバーの参加で「誰でもコンサート」を体現できたことを見ると100%と言いたいところではある。しかし、練習予定を曲の出来や教室予約の都合上何度か変更してしまったことや、プランナーとして周囲に仕事をうまく振り分けることができなかったこと、仕事が追い付かず周りに迷惑をかけてしまったり、私自身が自信を喪失してしまったりしたことがあった。また、もっとたくさんの時間と労力と資金があれば、企画自体の魅力によって参加者をもっと集められたと思う。私自身この期間中は誰コンにすべてをかけ、あらゆるものを削りながらやってきたため、「もっと頑張ればよかった」という類の後悔は全くないが、企画に賛同する人にもっと仕事を振れたらよかったと思う。以上の問題点も天秤にかけると、やはり課題を残す75%が妥当な評価であると思われる。

得られた成果として、サークルを超えた人と人とのつながりができたことが挙げられる。また去年の同企画では誰コンをきっかけにまた楽器を再開した人が何人かいた。誰コン以前の音楽系・文化系サークル間の現状は、私が見る限り文化系サークル会館やクラブハウスという場所を共有してはいるものの、お互いに閉じたままとまりであり、交流はほとんどなかった。しかし誰コンをきっかけに仲良くなったり交流が増えて互いの演奏会に出演するようになったりした。誰コンという企画は、楽器だけでなく、今回できなかった歌やダンス、民族楽器とのコラボレーション、そして筑波大学にとどまらない周辺の学校や一般団体も巻き込んで地域の音楽、そして文化活動を活性化するポテンシャルがある企画である。このような企画を立ち上げ、運営したことによって、私自身の中に大きな自信と、誰コンに対するまるで我が子のような愛しい気持ちが芽生えている。今後この企画が続いていくかどうかは私にはわからないが、このような企画を作ることができ、そして周りにはたくさんの力を貸してくれる仲間がいて、T-ACTの方や広報室も親身になって相談に乗ってくださって成功に導くことができたことは一生の思い出であり、感謝しつくせない。

今後の課題

プランナー一人の企画という色が濃くなってしまい、また忙しい期間だったこともあって、協力をあおいでも断られてしまうことがあった。そのため人手が圧倒的に足らなかった。

経験者からのメッセージ

何かやってみたいことがあったら、目的を明確にして飛び込んでみましょう！T-ACTは親身になって応援してくれますよ。

運営者側から見たパーティシパントの変化

変化した。交流が増え、人と人との壁やハードルが減ったように思う。

T-ACT に関する感想

設備も相談もとてもためになりました。もっと皆が活用するものになることを祈念しております。

アカペラとダンス～みんなの人生を一つの作品に～ (15024A)

T-ACT プランナー ROSSIN CECILIA ANGELICA (人間学群心理学類1年)

活動内容

筑波大学には約2000人の留学生が勉強している。

留学生たちは日々一緒に授業を受けたりと共に行動する機会があるのだが、一緒に何かを作り出す、という機会はなかなかない。

そこで、楽器にも何にも頼らずに自分の体のだけを使って、アカペラとダンスを通して、留学生と日本人学生で自分たちのストーリーを一つのわくわくする作品にしてみるのはどうだろうか？

活動計画

- | | |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 8月 | 活動開始
企画メンバーを集めて、企画を詳しく決める
集まったメンバーで親睦を深める |
| 8月～9月 | 参加メンバー応募
参加したい学生向けに、企画についての説明会を開く
参加学生登録、名簿作成 |
| 10月～1月 | 作品作成
練習
撮影、編集
上映の宣伝 |
| 1月 | 作品に上映
ウェブ上に作品掲載
終了祝い |

活動期間

平成27年8月1日～28年1月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大内里紗(心理学類)、ARIEF RIZKA AMALIA FITRIANISSA(心理学類)、WONG MAAN LING(心理学類)

P：寺山由美(体育系)

活動報告

活動成果

- | | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月2日 | 第1回ミーティング—顔合わせ |
| 8月～9月 | ラインやメールにて企画宣伝、参加者募集(チラシ作製) |
| 10月5日 | 第2回ミーティング—説明会日程、チラシ配りについて決定 |
| 10月7日 | 留学生センター前でチラシ配り |
| 10月12日 | 第3回ミーティング—説明会概要について決定 |
| 10月15日 | 6限後、留学生センター Jroom で説明会開催
(学祭準備のため、日程があわず、第1回練習は学祭後に決定) |
| 10月29日 | 第4回ミーティング |
| 2016年 | |
| 1月8日 | 新年初のミーティング—これからは作品完成にむけて本気で練習しましょう、と報告。
図書館にて作品の構成を考案。
最初に興味を示してくれた人が様々な事情でやめてしまったため、集まったメンバーで話し合った結果、最初のアカペラとダンスを合わせた作品はできない、という結果にたどり着いてしまった。その変わり、第二のプランとして練習していた、コップを手で動かしてアカペラで歌う「Cups」という作品を本格的に採用。最初のアイデアが出来なくてかなり気が抜けてしまったけど、みんな楽しそうにアイデアを出してくれて安心。 |
| 1月15日 | 本格的な練習開始—スナックを食べながら、他愛のない話をしながら、少しずつ、しかし確実に作品を作り上げる。 |
| 1月16日 | 集まったみんなでお喋りをしながらゆっくり練習を重ねる。 |
| 1月18日 | 前日と同じ |
| 1月22日 | このあたりでみんなの顔に真剣な表情が現れる。自己でも練習を重ねていたようで、どんどん上達していく。 |
| 1月25日 | 作品ほぼ完成、あとは練習のみ |

- 作品がもっと楽しくなるように、新しいアイデアがでて、それを組み入れる
- 1月26日 撮影前の最後の練習。いろいろあってみんながつかれているようで、アイデアのことで少し喧嘩もしたが、作品は無事完成。あとはひたすら繰り返し練習。
- 1月31日 作品撮影。
プロジェクト外の友人にカメラマンを頼み、一の矢共用棟で作品の撮影を開始。しばらく物の配置で動き回り、撮影を試みるもあまりに寒くて手が動かなかったので、撮影を一時停止し、ウォーミングアップをした（踊りまくり、叫びまくりでとても楽しかった）。そのあと、撮影を再開。お互いの失敗で大笑いが止まらずなかなかワンテイクで撮影できなかったが、最後の最後に「念のため」にと撮影したものが大成功。お互いにお別れを惜しんで、さようなら。残るは作品の編集！

今後の課題

大まかなプランだと、途中で生じる問題にきちんと対応できなくなってしまうので、精密な計画を立てることはとても大事だと思った。

また、留学生を相手にプロジェクトを立ち上げる場合、冬（秋学期）は極力避けたほうがいいと思う。外国人は、寒い時期が近づいてくると、日暮れとともに冬眠してしまうからである。

経験者からのメッセージ

一度思いついたアイデアは、一人でない限り T-ACT で立ち上げたほうがいい。失敗したとしても、最後には絶対いい思い出が残るから。

運営者側から見たパーティシパントの変化

最初に参加してくれた人は最後らへんになるとほとんどが辞めてしまったが、残った数人はとてもリラックスした雰囲気で仲良くできた。

T-ACT に関する感想

毎週メールをするなどもう少しプロジェクトの経過にプレッシャーをかけて欲しかったと思うが、質問に対してはなんでも優しく答えてくれて、プロジェクトに関しても楽しそうにしてくれたので、T-ACT を通して立ち上げてよかったと思った。



● BiVi つくばで駅前キャンパス！ (15025A)

T-ACT プランナー 松原 悠 (人間総合科学研究科 D1)

活動内容

学問研究は、研究者だけのものではない。一般市民にも、学問研究をたのしむ資格がある。研究者にとっても、学問研究を一般市民に説明し、質疑を受ける過程を経ることによって、学問研究の社会的な意義を確認することができる。

しかしながら、研究者が日々生み出している学問研究の成果について、研究者と一般市民が交流する機会が少ない。本企画は、筑波大学の教員・学生と、筑波研究学園都市の一般市民とが、学問研究を介して科学コミュニケーションを行うことにより、一般市民が学問研究をたのしみ、研究者が学問研究の社会的意義を確認することを目的とする。

活動計画

- | | |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月 | 集まっているメンバーで、BiVi つくばのつくば市スペースにてポスター展示・プレゼンテーションを実施して下さるプレゼンターを探し、交渉する。月末には、筑波大学広報室と連携して、大学定例記者会見でのプレゼンテーションの実現をねらっている。 |
| 8月 | 開催を知らせる広報を行う。広報は、T-ACT および筑波大学広報室の協力を得て行う。また、筑波大学広報室を介して、つくば市にも広報の協力を要請する。プレゼンターと連絡をとり、ポスター展示やプレゼンテーションの内容をつめる。 |
| 9月 | 第1弾のイベント「筑波大学×歴史学・民俗学」(仮)を実施する。 |
| 10月以降 | 未定 |

活動期間

平成27年 7月 1日～27年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：町田美琴 (国際総合学類)、安藤潤人 (システム情報工学研究科)、藤田佑樹 (システム情報工学研究科)、牧野美咲 (数理物質科学研究科)、越川瑛理 (人文社会科学研究科)、安達光理 (図書館情報メディア研究科)、大日向正人 (広報室)

P：野村港二 (教育イニシアティブ機構)

活動報告

活動成果

・活動内容

- | | |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------|
| 5月22日 | 広報室との相談 (駅前キャンパスの趣旨と BiVi つくば筑波大学サテライトオフィスにおける開催の可能性について共有した。) |
| 5月29日 | 広報室との相談 (BiVi つくば筑波大学サテライトオフィスの施設・設備を確認した。) |
| 6月15日 | ミーティング (「民俗学」というテーマを設定し、プレゼンターの目星をつけた。) |
| 7月16日 | プレゼンターの方々とミーティング (趣旨を共有し、日程を調整した。) |
| 8月4日 | ミーティング (プレゼンターとの交渉の状況を共有し、当日までにやることを整理した。) |
| 9月5日 | BiVi つくばの見学 |
| 9月9日 | 前日準備 |
| 9月10日～13日 | 当日準備・運営
(10日～12日各日10～21時および13日10～18時：ポスター展示 12～13日各日14時～15時30分：講演) |

・目標達成度

今回、BiVi つくば筑波大学サテライトオフィスにて学生が実施する企画として初めて、駅前キャンパス2015を開催することとなった。この場所は設備が充実しているが、一昨年・昨年につくば駅改札前よりも人の往来が少ないため、いかに人を呼び込むかが最大の課題であった。特に講演については、人が少なければ意味がない。そこで、人を呼び込んで、特に講演を成立させるため、学外への広報に力を入れた。広報室のご協力をいただき、次のメディアにて広報がなされた。

- ・ラヂオつくば 出演 2 回
- ・常陽新聞 告知 1 回、取材記事 1 回
(Web 版 <http://joyonews.jp/smart/?p=13183>
<http://joyonews.jp/smart/?p=12871>)
- ・常陽リビング 告知 1 回
(Web 版 <http://www.joyoliving.co.jp/kurashi/event/#019260069>)
- ・茨城県企画部つくば地域振興課 つくばスタイル 取材記事 2 回

(<https://www.facebook.com/tsukubastyle/photos/a.239797386082007.60356.238139762914436/917855934942812/?type=1&theater>)
http://www.tsukuba-style.jp/blog/2015/09/post_10765.html)

合計7回

来場者数は10日(木)に50名、11日(金)に73名、12日(土)に217名、13日(日)に142名の、合計482名に上った。12日(土)と13日(日)は、講演の時間帯に限ってみると、それぞれ35名、合計70名が講演を聴きに席に座った。それでも空席は10席程度あったが、講演を成立させるという目標は十分に達成することができた。

・得られた成果

合計482名の方に、筑波大学の学問・研究に少しでも触れていただくことができた。アンケート集計結果をみると、回答者37人中31人の方が「民俗学が身近に感じられた」と答え、ポスターや各講演についても、いずれもほとんどの方が「わかりやすかった」と答えた。

結果として、筑波大学の研究者と一般の方々が、学問・研究を通して気軽にコミュニケーションをとる場を、BiViつくば筑波大学サテライトオフィスに新たに創出することができた。また、BiViつくば筑波大学サテライトオフィスにおいて学生が企画を実施するという、第一の先例を作ることができた。

今後の課題

今回、新しくできる場所において開催するという関係で、椅子が何脚置けるのか、どこに何枚までポスターを展示できるのか、どの場所にどのくらいの大きさの物を配置できるのかといった点が、開催日まではっきりしなかった。この点については、広報室の方々と何度も何度も連絡を取り合い、なるべく不明な点が最小限になるよう努力をした。

それでも前日準備の際、事前の連絡・確認の上ではあるはずだったポスター吊り下げ器具が、つくば市のスペースに備わっていないことがわかり、急遽対応に追われた。広報室の方のご配慮で代替りのイーゼルとボードをお借りできることになり、なんとか翌日の開始時刻である10時ぎりぎりにポスター展示を成立させることができた。現在もポスター吊り下げ器具が備わっているのか否かはわからないため、次にBiViつくば筑波大学サテライトオフィスで企画を実施する方々は注意して確認しておいた方がよい。

アンケート集計結果によると、もっと広報に力を入れた方がよいというご意見があった。私たちとしては既述のようにメディアを通じて学外へ7回広報をしていたが、それでも広報が届かない方がいらっしゃるということだ。メンバーの人数が多ければ、駅近郊の商業施設へ一件一件ポスター貼りの交渉に伺うことができるが、そこまでメンバーの人数は多くない。今後、BiViつくば筑波大学サテライトオフィスが「学問・研究発信の拠点」として認知されるようになれば、そこで開催される企画の情報に気をつけてくださる「常連さん」が増えるかもしれない。そのためには、学生が私たちに続いて積極的にこの場所で企画を開催し、この場所の役割を浸透させていくことが有効である。その際には、活動に対する大学の支援(特に広報)も、引き続き欠かせない。

経験者からのメッセージ

BiViつくば筑波大学サテライトオフィスは、学内の活動を学外に発信する、絶好の場所です。社会との繋がりを意識して活動をされている方は、ぜひ一度、この場所での企画の実施を考えてみてください。実施に対してご支援をくださる広報室の方は、活動に温かいご配慮をくださり、とても親切です。実施ができるかどうかという相談にも乗ってくださるので、どうぞ積極的にご連絡を差し上げてみてはいかがでしょうか。

T-ACT に関する感想

アポイントメントなしで伺っても相談にのってくださることが、とても助かっています。いつも、ありがとうございます。



ゆめ花火プロジェクト2015 (15026A)

T-ACT プランナー 藤井 聡子 (医学群医学類5年)

活動内容

『ゆめ花火』とは、筑波大学附属病院小児病棟で闘病している子どもたちが「夢の花火」をテーマに描いた絵を実際に「ゆめ花火」として打ち上げる企画です。

小児病棟の子どもたちは、日々辛い検査や処置などに耐えながら、必死に病気と闘っています。ご家族にとっても最愛のお子さんの入院は想像以上にショックであり、その負担は大変なものです。闘病中の子どもたちやご家族、みなさんの心にも、花火と一緒に笑顔が咲いてほしい。そんな気持ちから、「ゆめ花火」企画は始まりました。2011年より毎年開催され、2015年度には記念すべき5回目の打ち上げとなる予定です。

「ゆめ花火」企画を行う目的は大きく以下の3つです

1. 長期の闘病生活を余儀なくされている子ども達に、自ら思い描いた花火が打ち上がる様子を見てもらうことで一時でも闘病の苦しさを忘れ、花火を楽しんでもらう。
2. 広報活動・花火打ち上げを通じて筑波大学生・地域の方々に小児医療・療養環境について関心を持ってもらい、患児へのサポートのあり方について改めて考える機会を提供する。
3. 医療関係者を含む様々な協力団体と患児やその家族同士のつながりを作り、患児の成長を温かく見守っていく場へと発展していく。

企画概要としては、筑波大学附属病院小児病棟に入院している子ども達が自由に描いた花火の絵を、筑波大学学園祭にて実際の「ゆめ花火」として打ち上げる。花火の製造・打ち上げは山崎煙火製造所に協力していただき、打ち上げ玉は4号玉(直径12cm)を使用する予定です。打ち上げ当日は観覧会場に花火を描いた子どもたち、また入院中の子どもたちとご家族を招待し、レクリエーションなどを行いつつ、楽しみながら花火を鑑賞していただける企画を目指します。

「ゆめ花火」は筑波大学の医療系学生を中心とした学生有志団体「つくばけやきっず」の活動の一部でもあります。T-ACT 企画として、この活動の運営に協力してくれる方も募集しております。つくばけやきっずのその他の活動は、以下のブログからご覧ください。

<http://yumehanabi.tsukuba.ch/>

活動計画

- 7月 子どもたちに自由に絵を描いてもらう
小児病棟の子どもたちに、「夢の花火」をイメージしながら自由に絵を描いてもらいます。
- 9月 花火製造所に依頼し、花火を作成する
子どもたちの絵を参考に、(株)山崎煙火製造所に委託し花火を作成していただきます。大変難しい図柄もありますが、花火師さんのご尽力で毎年素敵なお花火を作ってくださっています。
- 10月 観賞会参加者募集開始 & 当日準備開始
打ち上げ当日の観賞会にいらっしゃるお子さんとご家族へ案内を送付します。また、当日へ向けての最終的な準備を行っていきます。
- 11月 鑑賞会を開き、ゆめ花火を鑑賞する
打ち上げの際は、鑑賞会を開き、絵を描いた子どもたち、入院中の子どもたちとご家族を招いて鑑賞会を開きます。鑑賞会ではバルーンアートや工作などのレクリエーションも行います。
- 12月 活動報告書をまとめ、各所に報告・お礼をします。

活動期間

平成27年7月1日～27年12月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 舘由利香 (医学類)、関純令 (医学類)、望月宏一 (医学類)、松下朋生 (医学類)、窪谷早枝花 (医学類)、松澤由佳理 (医学類)、加納時定 (医学類)、阿久津開 (医学類)、村上優太 (医学類)、西畑綾夏 (医学類)、久保こすみ (医学類)、小林智美 (医学類)、藤井聡子 (医学類)、門野彩花 (医学類)、佐藤良混 (医学類)、飯塚玄明 (医学類)、多田村明弘 (医学類)、山足公美絵 (医学類)、中島里佳子 (医学類)、松崎汐那 (看護学類)、永田愛美 (看護学類)、押山光流 (看護学類)、剣持翠 (看護学類)、若井田唯 (看護学類)、白井夕奈 (看護学類)、佐々木麻央 (看護学類)、寺田香奈 (看護学類)、澁井香葉子 (看護学類)、小野郁美 (看護学類)、戴兆叡 (看護学類)、小野塚ちひろ (医療科学類)、岩橋優花 (医療科学類)、宗像真帆 (国際総合学類)、齋藤侑里子 (比較文化学類)、安藤潤人 (システム情報工学研究科)、芦田遥陽 (社会工学類)、志賀優花 (日本語・日本文化学類)

P: 福島敬 (医学医療系)

備考

2013年度、2014年度の「ゆめ花火」はつくばアクションプロジェクト (T-ACT) 承認プロジェクトとして

企画し、T-ACT 平成25年度下半期最優秀賞を受賞しました。また平成25年度社会貢献プロジェクトにて最優秀賞を受賞しました。また「ゆめ花火」企画は筑波大学附属病院、(株)山崎煙火製造所、筑波大学学園祭実行委員会、筑波大学花火研究会の御協力をいただいています。

活動報告

活動成果

・活動内容

- 7月15日 第一回小児病棟説明会 10時半～
- 7月31日 第二回小児病棟説明会 10時半～
- 8月30日 全体 mtg10時～ 花火研究会との合同 mtg15時～
- 9月26日 全体 mtg10時～
- 10月17日 全体 mtg・工作10時～
- 10月31日 全体 mtg10時～・アスパラガスとの mtg
- 11月7日 学園祭模擬店出店
- 11月8日 ゆめ花火鑑賞会 (18時～工作ワークショップ、19時 バスにて移動、19時半～鑑賞教室にてレクリエーション、20時15分～花火打ちあげ)
- 11月23日 10時～反省会

・目標達成度

あいにくの雨天の中ではあったが、申込みをされたご家族全員がゆめ花火企画に参加していただき、無事ゆめ花火鑑賞会を開催することが出来た。そして、参加されたご家族の方に楽しい時間を過ごしていただき、参加者に対して行われたアンケートにおいて、ゆめ花火企画についての満足度を5段階で評価していただき、回答してくださった方全員(8家族中7家族)が最も高い評価の「とても楽しかった」に印をつけてくださった。

・得られた成果

ご家族からの感想からの抜粋です。

- ・とにかくとにかく感動しました。入院して5カ月、大変な治療に耐えながらの毎日でしたが、花火が終わってひとこと、「ママ、私がんばるね。」娘にも私にも勇気を与えてくれた花火でした。
- ・ありがとうございました。バスに乗っていくことも含め、病院生活から離れた経験は子供にとってすごく貴重です。元気が出ます。
- ・多くの方々の支えをいただき、質の高い入院生活を過ごさせていただいております。今後も永らくこの様な活動が続くことを願います。

今後の課題

・他団体との連携について

筑波大学附属病院とのやりとり、筑波大学花火研究会・学園祭実行委員会をはじめとする学生団体とのやりとりなど、さまざまなの方々のご協力の上に成り立っている企画です。立場の違いを理解しながら、コミュニケーションを取り合い、感謝の気持ちを忘れず協力していくことが重要だと実感しました。

・役割分担について

病院や患者さんご家族とのやりとりがあるため、病院実習に出ている学生が運営を行う必要のある企画です。ただ、その中でも学年に相応する役割分担を決め、低学年の学生が自主的に動いていくのをフォローしていく制度が必要であると思います。また、役割分担をした上で自分には関係ないとするのではなく、お互いに情報を共有しあっていくことが大切だと思いました。

・資金集めについて

例年資金集めが難しくなっていく企画です。そのような時こそ自分で情報を探したり、お金集めに詳しい人にアドバイスを聞きに行くなど、あらゆるソースを使ってみるのが大事だと思いました。また、自分達でも出資するなどさまざまな方法を考える必要があります。

経験者からのメッセージ

- ・ひとつのイベントのトップとして動くということは想像以上に大変です。きっと悩んだりつまづいたり、色々なことがあると思います。つらいときこそ自分が何に悩んでいるのか、困っているのか声に出してみてください。そして、助けてくれる人達に会えるよう、あなたから動いてみてください。きっと沢山の出会いがあなたを助けてくれると思います。
- ・誰かのために動く、ということは楽しいことばかりではないと思う日もあると思います。どんなことをやるにしろ、まず自分を大切にしてください。そして自分の周りを大切にしてください。違いや限界をわかることで、生まれる思いやりやあたたかさに救われることもあると思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- ・参加していただいたご家族の方々には、楽しい時間を過ごしていただけたようです。ゆめ花火を見た患児の方が「ママ、私がんばるね」と言ってくれたようで、誰かの希望となれただけでよかったと思います。
- ・スタッフ側の変化としては、誰かが何かをやってくれるのを待っているという受動的であった当初と比べ、自分で動くことを実践してくれたということが大きな変化であったと思います。

T-ACT に関する感想

活動報告提出に1か月程度の期間をいただけると嬉しいです。

長い間、本当にお世話になりました。

たくさん助けていただいて本当にありがとうございました。

様々なことがありましたが、今では良い経験だったと思えるようになってきました。

今後も何かをはじめみたいという学生をあたたく応援していただけると嬉しいです。

本当に本当に、ありがとうございました。

話したくても話せない… ～「場面緘黙」と向き合って～ (15028A)

T-ACT プランナー 藤間 友里亜 (人間学群心理学類1年)

活動内容

「場面緘黙」を広めるための講演会を開催する。内容は、緘黙を研究している先生による講義と元緘黙の人の経験談。

緘黙の当事者や関係者向けの講演会などのイベントはあるが、緘黙を知らない人知ってもらうためのイベントは少ないように感じる。緘黙の症状を長引かせないためには早期発見、早期治療が必要となるが、認知度の低い現状では難しい。「場面緘黙」という障害の存在を知らず、本人も気づけないことがある。私自身緘黙の経験があるが当時は知らなかったため、特別な治療や支援を受けることはできなかった。また、緘黙克服のためには周囲の理解が必要とされる。よって啓発活動の必要性を感じた。

私は大学に入ってから「場面緘黙」を知り、自分の経験を活かしたいと思った。そこで思いついたのがこの講演会である。緘黙の人にしか分からないことがあると思うが、現在緘黙で悩んでいる人は声が出せないでそのことを伝えることができない。そのため、緘黙を克服した人たちがその経験を語り、一般の人に伝えると良いと思った。

活動計画

9月・10月 プログラム内容の詳細決定。宣伝の方法を考える。
11月 宣伝。30日実施。

活動期間

平成27年 8月 3日～27年11月30日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：菅野結有 (心理学類)、奥村真衣子 (人間総合科学研究科)、津田侑佳 (障害科学類)、鈴木康之郎 (心理学類)、
林知奈美 (障害科学類)
P：園山繁樹 (人間系)

活動報告

活動成果

・活動内容
8月 8日 ミーティング
10月 14日 ミーティング
10月 15日 ポスターの写真撮影
10月 21日 ミーティング
10月 28日 ミーティング
11月 30日 アンケート作成、実施

・目標達成度
90%

来てくれた方々の感想を聞く限りでは内容に関してはとてもよかったと思う。自分でも満足できるものだった。来場者数に関しても満足している。

あとの10%は宣伝に関する反省。とにかく遅かった。また、広く宣伝をすることができなかった。全体としてはおおむね良かったと言える。

今後の課題

目標達成度の欄に書いた宣伝のこと。
早くから計画的に行うべき。

経験者からのメッセージ

とにかく早め早めの行動が必要です。たくさんの人と連絡を取ってから決めることが多いので思っているよりも時間がかかります。

T-ACT の存在は素晴らしいです。なんとなくやりたいことがほんやりとでもあるなら利用することをお勧めします。T-ACT フォーラムに行って相談すれば助けてもらえるのできっとそのほんやりした案が具体的になっていき、実現することができます。

運営者側から見たパーティシパントの変化

講演会以前に緘黙を知らなかったという参加者もいたので知ってもらうことができ良かった。また、緘黙をもともと知っていた人でも経験談を直接聴くのは初めてだったという参加者も多かったのでより深く知ってもら

うことができたのではないかと思う。

T-ACT に関する感想

ぱっと思いついたことを実現できたのは感激でした。具体的な計画の進め方など教えていただけて助かりました。T-ACT がなければ実現できなかったと思います。本当にありがとうございました。

Namaste Tsukuba (Supporting Indians Students) volume 2 (15029A)

T-ACT プランナー RITESH PATEL (数理物質科学研究科 D1)

活動内容

Most of the new Indian students over here are not connected together, so we want to connect and bond them together. Also most of the Indian's face many problems when they enter University of Tsukuba. For Example, Language, rules and regulations of the university and many work related problems.

We want to support them as much as possible to live a comfortable life.

1. Welcome and introduction of University of Tsukuba to new students.
2. Support for staying in Tsukuba city.
3. Communication among Indian students in University of Tsukuba.
4. International Communication and exchange.
5. Introduction to Japanese culture and Tsukuba city.
6. Presentation (Academic/Non-Academic)
7. Monthly gathering and exchange.

Students from all countries are heartily welcome.

活動計画

We participated in number of events like

- 1 Tsuchiura fire work festival
- 2 Visiting new places
- 3 Going to new event around the Japan

活動期間

平成27年10月1日～28年3月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : BAKKU RANJITH KUMAR (生命環境科学研究科)

P : RAKWAL RANDEEP (企画室)

活動報告

活動成果

1. Tsuchiura All Japan Firework Competition : Date-03/10/2015

Tsuchiura All Japan Fireworks Competition is the biggest firework festival in the world. This is the competition of firework designers. Each year, the firework designers bring their new products and compete with others. Coming from India, and having a history in enjoying fireworks during Deepawali (Diwali, see also below), the Festival of Lights, we were totally fascinated by the magnificent display of diverse and majestic fireworks; a must – to see list – for the students.

2. Ushiku Daibutsu : Date-10/10/2015

The Ushiku Daibutsu is the world's tallest bronze statue. Completed in 1995, it stands a total of 120 meters (394 feet) tall, including the 10 m high base and 10 m high lotus platform. Standing below and admiring the serene beauty of the Buddha, is beyond words. The statue depicts Amitabha Buddha and is plated with bronze. This Great Buddha belongs to Pure Land Buddhism. One can enter inside of the Greatest Buddha. An elevator takes visitors up to 85 m off the ground, where an observation floor is located, seeing all directions, including Mt. Tsukuba, and the Sky Tree.

3. Diwali Celebration : Date - 11/11/2015

India is a great country known as the land of festivals. One of the famous and most celebrated festivals is Diwali or Deepawali which falls every year 20 days after the festival of Dussehra in the month of October or November. It is celebrated to commemorate the returning of Lord Rama (a god of Hindus and referred to an ideal man and hero of the epic Ramayana) to the Kingdom after 14 years of exile. Sita, his wife, is considered by Hindus to be an avatar of Lakshmi, the embodiment of perfect womanhood. People of Ayodhya show their joy and happiness by lighting lamps in the whole kingdom and bursting crackers. "I joined this celebration without knowing there is a need to be fasting. I think that to know the country and culture of each other, we need to talk, eat, drink, sharing joy" (Komatsu, Yoshitaka).

4. Tsukuba World Futsal : Date -29/11/2015

Tsukuba World Futsal gives participants of all ages an opportunity to have fun and develop friendship

between international and Japanese residents. “Everybody enjoyed the Futsal with no borders” (Komatsu, Yoshitaka)

5. New Year Celebration : Date – 31/12/2015

New Year is one of the most celebrated days in the world, and so we did it in Japanese style, visiting the local shrine. The day is shaped by different customs and traditions. Each culture celebrates this holiday in its own unique way. The people start to prepare for the holiday at least one month in an advance. The preparation begins by cleaning, buying presents, decorating houses, and making new costumes

6. Kita Shoga Ryuoo Ski Resort at NaganO : Date -9/01/2016

Kita Shiga Ryuoo Ski Park is located in the northern region of Nagano Prefecture. There is an excellent variety of courses at the resort catering for all skill levels, including a selection of ungroomed powder courses. The resort also caters for those looking for snow activities, skiing and snowboarding. We greatly enjoyed the snow and ski, a break from research

7. India Culture Week : Date -19/01/2016 (Tuesday) to 23/01/2016 (Saturday)

India is a famous country all over the world for its culture and tradition, diversity is a key aspect of this land of many. It is the country of one of the oldest civilizations in the world. The vital components of the Indian culture are good manners, etiquette, civilized communication, rituals, beliefs, values, etc. Even after the life styles of everyone has been modernized, Indian people have not changed their traditions and values. The aspect of togetherness among people of various cultures and traditions has made India, a unique country. People here live peacefully in India by following their own culture and traditions. “I was able to touch Indian culture seriously during this week, listening to the stories of the students from various regions, learning and knowing more of each culture and region. Working as a staff for this event, I felt a little sad that many more people could have enjoyed this opportunity to learn about India, anyway, the next time” (Komatsu, Yoshitaka) .

8. Let’s Play Event in the Japanese : Date -07/02/2016

The goal of the program is to get children to rediscover and enjoy the rich world of India. Introduced to kids through drawing, Hindi lesson and Mehndi, and talk about India in general. There were some great moments when children at a very young age came to know where India was and were enthusiastic to visit and see its vibrant culture. Not only our Namastey Tsukuba group introduced about India but interacted with a lot of other groups including the Origami lesson, Middle East culture lesson, Tsukuba International School word memory session, etc. Altogether it was a very good experience for us as well as for the others. Finally, it is what makes Tsukuba international, and we all have to contribute to doing, sharing our culture, together. “Everybody enjoyed this event. We were able to have a great interaction with each other, and experience the culture of other countries at one place, one platform; unfortunately, the organizing staffs mentioned that they would prefer more people to join and become aware of the rich diversity of the international community” (Komatsu, Yoshitaka) .

今後の課題

- Need more participation
- Poster design
- Japanese language support
- English Information

経験者からのメッセージ

1. Welcome and Introduction of University of Tsukuba to new student
2. Support for staying in Tsukuba
3. Presentation (Academic /Non Academic)
4. Monthly gathering and exchange

運営者側から見たパーティシパントの変化

none

T-ACT に関する感想

- Japanese language support during the event
- Poster design

Omochi language club 2015 fall (15030A)

T-ACT プランナー 梅田 実希 (社会・国際学群国際総合学類2年)

活動内容

Omochi language club は2013年から活動を始め、言語交流を切り口として、日本人と留学生、また留学生同士の深い交流を提供する場として役立ってきました。この活動を継承し、さらに発展させていくことがこのアクションの目的です。過去の活動により、Omochi は校内で一定の知名度を得ました。Omochi をきっかけとして出会い、メンバー同士ずっと交流を続けているような人たちがたくさんいます。これはこれまでの活動の成果だと思えます。一方で、まだまだ Omochi を知らない、来たことのない留学生、日本人学生も多いこと、学期の初めにスタートしてから回数を重ねるにつれマンネリ化が見られること、メンバーはすでにあるグループの者同士で話すばかりでなかなか新たな交流の和が広がっていかないこと、など課題も多くあります。自分は、英語だけでなくあらゆる言語が飛び交うものにしたい、言語交流を通じて日本人と留学生の交流の発展を目指したいといった Omochi の理念や、最初の1時間は留学生がその留学生の母国語を習いたい人にその言語を教えてあげ、次の1時間は日本人が留学生に日本語を教えてあげるといった基本的なスタイルは継承しながら、上記の課題の解決に向けてさらに発展させたものにしていきたいです。具体的には、積極的な広報により Omochi を知らない人にもその存在を知らせる、クラスの中で映画やゲームなどを企画する、季節ごとのレクチャーやイベントを行う、などを考えています。

活動計画

- 10月～ 活動開始 毎週一回の Omochi クラス
新たなメンバーあつめ
- 11月～2月 毎週の活動を工夫しながら続ける
不定期にイベントも開催

活動期間

平成27年10月16日～28年2月26日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小沼里奈 (国際総合学類)

P：宮本陽一郎 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 10月16日 第1回 通常活動
- 10月30日 第2回 通常活動
- 11月13日 第3回 通常活動
- 11月20日 第4回 通常活動
- 12月04日 第5回 通常活動
- 12月07日 第6回 通常活動
- 12月11日 第7回 通常活動
- 12月18日 クリスマス映画上映会
- 1月22日 第8回 通常活動
- 1月29日 第9回 通常活動
- 2月5日 第10回 通常活動
- 2月12日 第11回 通常活動

・目標達成度

達成度80%

根拠

OmochiLanguageClub は、今までの活動の実績や、グローバルコモンズなど大学の機関でも紹介されていることから知名度は以前に比べて増し、特に初回の1、2回では約80人のひとが集まる盛況となった。そのあともやや参加の人数は少なくなるものの、平均して30～40人が一定して集まるなど安定した活動が行えた。毎週来てくれるメンバーの中には、以前からの Omochi Language Club の参加者に加え、今期から来日した留学生や、初めて活動に参加した日本人も増え、課題であった新しい交流の輪を広げるということは十分に達成できた。

しかしながら、活動内容に関しては、クリスマスにちなんで映画会をおこなったりはしたものの、おおむね毎週同じ活動を繰り返すのみであり、目標としていた多様な活動を展開するというには、やや満足できたとはいえない。

・得られた成果

上記にも書いた通り、今季はとにかく新しい参加者が増え、また定着していった。この活動を通じて仲良くなったグループが、Omochi 以外の活動も、ともに行ったりするようになる（個人的なグループで遊びに行くようになるなど）光景もみられるなど、留学生と日本人が仲良くなる“場”をつくるというこの活動の目的に対して大きな成果が得られたと思われる。

今後の課題

今回プランナーをし、活動のオーガナイズをするなかで、この活動そのもののありかたや方向性をたびたび考えさせられた。活動に来る学生の中には、留学や資格取得などを見据えて純粋に語学の勉強がしたいと考えている人もいれば、単純に友達とおしゃべりを楽しみたいだけの人もいます。また、語学力もまちまちで、とくに英語のクラスは、英語がペラペラな人もいればほとんど話せない人もいて、すべての人に心地いい環境をつくるのはとても難しいなと思いました。参加者がみんなよい人たちばかりで、なんども助けられましたが、この活動の本質をもっと考えてもいい時期に来ているのではないかと感じました。

経験者からのメッセージ

活動を続けていくためには、自分のやりたいことをやれているという感覚と、あわせて責任感がとても重要だと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

とにかく秋からの新しくきたパーティシパントが次第に定着していったこと、そして最初は定期活動の場だけの関係だったパーティシパント同士が、この活動の外でも遊んだり一緒に活動したりするような姿がみられるようになった。

投票所設置プロジェクト (15031A)

T-ACT プランナー 山寺 恭平 (社会・国際学群社会学類2年)

活動内容

1. 企画概要

- (1) 来年7月に実施予定の参議院議員選挙の際に、筑波大学構内に期日前投票所を設置し、期日前投票と不在者投票を行えるようにする。
- (2) 大学生が多く住んでいる地域の投票所での投票啓発活動。

2. 企画の意義

まず、若者の投票について、下記の事実がある。

- (1) 2014年12月に行われた衆議院議員選挙では、筑波大学生の投票率は40%で、全国平均よりも12%低い結果になった。(筑波大学新聞 第319号より)
投票に行かなかった理由は、「つくば市に住民票がないから」が45.5%、次いで「投票に行く時間がなかったから」が、28.9%となっており、この2つで全体の約75%を占めている。(同新聞より)
- (2) 公職選挙法改正に伴い、選挙権年齢が20歳から18歳以上に引き下げられ、大学生は、入学したばかりの1年生から全員が投票に行くことができるようになった。選挙権年齢の引き下げは70年ぶりであり、世間でも注目が集まっている。
筑波大学に期日前投票所を設置し、期日前投票と不在者投票を行えるようにすれば、投票に行かなかった理由の2つを解消することができる。また、世間で注目が集まっているからこそ、今までとは違った形で若者に投票を呼び掛ける必要がある。選挙権年齢が引き下げられて、有権者が約240万人増えるとされているが、それらすべてが投票に行くとは限らないし、(1)にある投票に行かなかった理由の部分を解消できなければ、大学一年生の18、19歳も投票に行くとは考えられない。ゆえに、投票所を大学構内に設置する意義は十分にある。

3. 内容

①筑波大学に期日前投票所を設置

- ・設置場所候補
 - I. 一学、二学、三学エリアのいずれかのエリアに1つ設置。会場は、教室を借りる。
 - II. 中央図書館集会室
 - III. 大学会館
 - IV. 平砂宿舍共同利用棟
- ・期間 投票日の前の月曜日から金曜日までの5日間。
- ・時間 11:00~19:00 各エリアにて投票の啓発活動を行う。

4. 成果指標

- (1) 筑波大学に期日前投票所を設置
- (2) 筑波大学に不在者投票所を設置

5. 協力

投票所プロジェクトは、NPO 法人ドットジェイピーが全国で実施を目指して行っているものであり、筑波大学で行う際に、交渉や啓発において協力してもらえる。

活動計画

- | | |
|---------|-----------------------------------------------|
| 10月中 | つくば市選挙管理委員会と交渉 |
| 10月~11月 | 筑波大学に交渉
交渉等は外部とのやり取りのため、ずれることがある。 |
| 12月以降 | 啓発・広報の準備
また、その後の日程等は選挙管理委員会との話し合いで詰めていきたい。 |

活動期間

平成27年10月10日~28年3月31日

T-ACT オーガナイザー/パートナー

- O: 谷口ほのか (社会学類)、上野真実 (日本語・日本文化学類)、山本結 (医学類)、稲葉紋子 (国際室)
P: 辻中豊 (人文社会系)、佐藤吉幸 (人文社会系)、木村周平 (人文社会系)

活動報告

活動成果

・活動内容

- 9月24日 つくば市選挙管理委員会に電話
大学も候補地の1つ、大学生だけの投票所にならないか懸念
- 10月7日 つくば市選挙管理委員会訪問
企画について説明、現定期日前投票所を増やす方向で予算を申請している
- 10月16日 西川先生とお話
啓発関連についてお話しした
- 11月30日 つくば市選管に電話
予算申請しているところで特に進展なし
- 2月1日 辻中先生含めた第1回打ち合わせ
学長との面談日程等の話し合い
- 2月8日 第2回打ち合わせ
学長面談での資料の敲き
- 2月16日 アンケート開始
- 2月17日 学長面談
投票所設置に関して協力するとの言葉を得る
- 2月23日 根本先生との話し合い
社学のフレセミで出前授業を行うことを検討している
そこで協力するということについて確認
- 2月24日 第3回打ち合わせ
選管訪問の準備
- 3月2日 T-ACT ラジオ収録
- 3月4日 選管訪問
駅前の方が多く利用者を見込める、大学だと場所がよく分からない、大学生だけのものになる
住民票をどれだけ移しているのかなど否定的な意見が多い
- 3月9日 ラジオ放送
- 3月14日 第4回打ち合わせ
25日の訪問に関して話し合い
- 3月25日 選管訪問
選挙管理委員会事務局の方だけではなく委員の皆さん全員の前で企画説明
今までの考え方を覆すことはできず
新たな期日前投票所は駅前（BiVi）に設置が濃厚

・目標達成度

100%

投票所を設置することができました！！

・得られた成果

多くの先生方や学生を巻きこむことができた。

フレセミでの出前授業など、政治への啓発活動につなげることができた。

今後の課題

自分たちの活動に賛同してもらっても、協力してくれるところまで説得できないと意味が無い。

投票所設置の最終決定まで、大衆を動かしていくのが最終手段。

メディアでこの活動を取り上げてもらう。

また、学生の政治参加への意識を高めてもらう。

経験者からのメッセージ

多くの人を動かし密に連絡を取っていきましょう。

運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントをうまく動かせなかった。

全て自分でやってしまった。

T-ACT に関する感想

企画に関してたくさん相談に乗ってもらえたとし、協力をいただくことができてよかった。

UNICO ～星空から笑顔の輪を vol4～ (15032A)

T-ACT プランナー 高村 有加 (人間総合科学研究科 M1)

活動内容

UNICO は宇宙、芸術、医学などの学生を中心に、宇宙を使って人々に笑顔を届ける活動を2014年から行っています。

vol1, vol2, vol3では、筑波大学附属病院での患者さん、職員さん向けの観望会や MIKATA (宇宙観測ソフト) を使った宇宙の話、地域の学校で観望会等を実施し、参加者から大変好評を得ました。vol4では引き続き観望会などの企画を実施するとともに、地域の病院や学校等において更なる活動の場を広げ、より多くの方に宇宙を楽しんでもらおうと考えています。

活動計画

- 10月 メンバー募集
- 11月 筑波大学附属病院にて職員患者さん向けの観望会の実施
- 12月 宇宙写真展の実施
- 2月 観望会やプラネタリウム上映の実施

活動期間

平成27年10月1日～28年3月31日

T-ACT オーガナイザー / パートナー

O: 久保衣里 (人間総合科学研究科)、鈴木裕行 (数理物質科学研究科)、中村祐太 (社会工学類)、朝倉健 (数理物質科学研究科)、菅野結有 (心理学類)、竹森聖 (工学システム学類)

P: 村上史明 (芸術系)

備考

現在の参加者は宇宙系、医療、芸術など多岐にわたっています。宇宙の事がまったくわからなくても大丈夫です。気軽にご連絡ください

活動報告

活動成果

2015/10/26 筑波大学附属病院にてお月見観望会実施

参加者のべ30名に望遠鏡を使って月を見て頂き、さらに月にまつわるお話をを行った。入院患者さんやご家族には癒しの時間を過ごして頂いた。

2016/2/9 宇宙写真展 @ 筑波大学附属病院

全国から公募した宇宙に関する写真を外来廊下に展示。

患者さんや職員の方に癒しの時間を提供し、また天文ファンの方々に新しい活動のモデルケースとして提案する企画となった。

2016/3/23 メガスター @ 筑波大学附属病院

プラネタリウム開発を行っている企業とのコラボレーションを筑波大学附属病院にて実施し、患者様はじめご家族の方に星空の空間を体験していただき、大きな反響を得た。

今後の課題

これまでにも何度か観望会を実施し、患者さんや家族の方に大変好評を得た。今回の活動では、観望会にお話し会を加えることで、小さいお子さんにもわかりやすく、月について知ってもらう機会となった。

写真展では、100枚以上の公募があり、全国の天文ファンの協力と筑波大学、筑波大学附属病院のご協力のもと開催することができた。

UNICO の活動を全国的に知って頂く良い機会となり、また天文と医療という二つの異なる分野が融合した企画であった。今後は写真を他病院でも展示して頂き、患者さんや家族の方に癒しの時間を提供していきたい。

経験者からのメッセージ

「やってみたい」と思った事があれば、躊躇せずに T-ACT に投げかけてみましょう。きっと他にも「やってみたい」と思っている学生がいます。

まずは行動してみてください。

運営者側から見たパーティシパントの変化

活動を通して、宇宙の感動を人々に提供する楽しさを実感した。

また、他分野の学生と活動をとにもすることで、自身の専門性を高め、他分野への興味、関心を高めることとなった。

書き損じハガキで国際貢献をしよう！ (15033A)

T-ACT プランナー 川合 真緒 (社会・国際学群国際総合学類1年)

活動内容

世界では約8億500万人、割合にして9人に1人もの人が飢餓に苦しんでいます。日本ではほとんどの人が毎日3食、十分すぎるほどの食事をとっている一方で、同じ地球上には1日1食を食べるのも難しい人がいます。私は日頃から飢餓問題に興味を持ち、自分にできる支援はないだろうか、と考えています。そこで、NGOのハンガー・フリー・ワールドに書き損じハガキなどを集めて送ると、飢餓の解決に向けた支援につながることを知り、やってみようと思いました。例えば、書き損じハガキ1枚がおかゆ1食になるそうです。ハガキの回収を行うことで、「身近なことからできる国際貢献」を多くの人に体験してほしいと考えています。

活動計画

- | | |
|-------|-------------------------------------------------------------------|
| 11月 | 企画内容を練り、回収箱の設置場所に許可を取りに行く
設置場所は筑波大学病院、大学図書館、第1～第3エリアの食堂を予定している |
| 11月下旬 | 箱の設置を始める
SNSなどを利用して広報活動を行う |
| 1月末 | 集まったハガキ類をハンガー・フリー・ワールドへ送る |
| 2月 | 振り返りと反省を行い、報告書を提出する
SNSでも最終結果の報告を行う |

活動期間

平成27年11月11日～28年1月31日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：苅部里香 (国際総合学類)
P：中野優子 (人文社会系)

備考

この企画には、回収箱や中のハガキ類を盗まれてしまうリスクがあります。これについては、回収箱の口を狭くして手が入らないようにし、大きくて目につきやすい回収箱を作り、箱を机にテープで貼りつける対策をします。また、ハガキに書かれた個人情報や情報は消してから箱に入れてもらうような注意書きをします。回収後は寄付の実態をSNSでお知らせし、回収に協力していただいた方が結果を見ることができるようになります。

活動報告

活動成果

- | | |
|--------------|---------------------------------------|
| 11月始め | 企画内容を練る |
| 11月11日 | T-ACT 企画として承認される |
| 11月12日～12月6日 | 回収箱作成 |
| 11月17日 | 大学病院に設置の許可を求め、断られる |
| 12月2日 | 中央図書館、第2、第3エリアの食堂、第3エリアの支援室に設置の許可をとる |
| 12月10日 | 中央図書館、第2、第3エリアの食堂、第3エリアの支援室に箱を設置する |
| 12月11日 | Twitter と Facebook で広報活動を行う |
| 12月12日 | 市立図書館に設置の許可を求め、断られる |
| 12月15日 | 宣伝用のピラを作成する |
| 12月24日 | 第3エリア食堂の前でピラを配る |
| 12月27日 | 図情図書館に回収箱の設置を許可していただき、設置する |
| 1月30日 | 回収箱を撤収、集まったハガキ類を回収 |
| 2月1日 | 振り返りと反省を行う |
| 2月5日 | 回収したものをハンガー・フリー・ワールドへ送付 |
| 2月6日 | 活動終了報告を書く |
| 2月20日 | ハンガー・フリー・ワールドから受領書を受け取り、その結果をSNSで報告する |

・目標達成度

90%

ハガキは160枚回収するという目標を立て、実際には150枚ほど集まったから。ほとんどが中央図書館に設置した箱にしか集まらなかったが、予想以上に切手が多く集まったのは嬉しかった。(金額にして6,938円)

・得られた成果

多くのハガキと切手をハンガー・フリー・ワールドに送り、微力ながらも飢餓の解決に貢献できたこと。
T-ACT 企画の立ち上げのノウハウを学べたこと。

今後の課題

- ・ 公共の施設に回収箱を設置するのは難しいと断られた。次に回収の企画を行うときは、スーパーなどをお願いしてみようと思う。
- ・ 設置許可がなかなかとれなかったり回収箱を作るときに協力があまり得られなかったのもあって、箱を設置する時期が当初に立てた計画より遅れてしまった。だが、ハガキの回収期間は十分に取れたと思う。

経験者からのメッセージ

一度 T-ACT の企画として承認されれば、ビラを配ったり掲示したりすることが非常にやりやすくなります。また、T-ACT スタッフの方々が親身になって相談に乗ってくれるので、実現したいことがあればぜひ T-ACT を利用することをお勧めします。

運営者側から見たパーティシパントの変化

今回の企画はパーティシパントを設定するものではなかった。

T-ACT に関する感想

大久保先生がわたしの話をしっかり聞いてくれて、非常に的確なアドバイスをしてくれました。T-ACT の方々のおかげでこの企画を実行することができました。大変感謝しています。

LGBT 基礎知識講座2015 (15036A)

T-ACT プランナー 山本 果奈 (人文・文化学群人文学類1年)

活動内容

大学内にどれくらいセクシュアルマイノリティの当事者がいるでしょうか？

ジェンダー・セクシュアリティをテーマとした講義は大学でも行われ、図書館にも資料が置かれています。また、TV やインターネットを通して、セクシュアルマイノリティという言葉の聞くことが増えつつあります。しかし、セクシュアルマイノリティ、主にLGBTという言葉の説明のみに留まっています。それゆえ、セクシュアルマイノリティの存在を知っていても、無意識に差別的な言葉を発していることが多々あるように感じられます。もしかすると友達や先輩の中にもいるかもしれないし、一緒に授業を受けているかもしれない。そう考えるような機会は、まだ少ないです。

本講義は、セクシュアルマイノリティ当事者である人、セクシュアルマイノリティの友人・知り合いはいるけど接し方に悩んでいる人、LGBTであるかもしれないけれどよく分からず困っている人、セクシュアルマイノリティについて知りたい人の助けになるはずです。

具体的な内容としては、セクシュアルマイノリティの知識、性を構成する要素、当事者を取り巻く環境、最近のLGBTのニュース などを取り上げる予定です。

もちろんどなたでも大歓迎です。

活動計画

11月末	活動開始 企画練り上げ 宣伝広報準備
12月	講演実施場所を定める オンライン宣伝開始
12月末	ポスター・立て看板完成
1月27日	講座実施
1月末	活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる 来年度に活かせる反省を行う

活動期間

平成27年12月1日～28年1月27日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：田村理沙（工学システム学類）、藤間友里亜（心理学類）、豊田健志（情報科学類）、PASSOS COUTEIRO PEDRO（国際総合学類）、小林春菜（人文学類）

P：COLLINS, Kristen Jeanne（人文社会系）

活動報告

活動成果

・活動内容

日付・活動内容・進捗率

11月25日	MT（基礎知識講座の目的・内容について）	20%
12月3日～	オンライン宣伝開始	35%
12月9日	MT（基礎知識講座の内容について）	40%
12月16日	MT（基礎知識講座の内容について）	45%
12月21日	T-ACT フォーラムで許可証受け取り	55%
1月10日	MT（基礎知識講座運営について）・使用スライド作成	60%
1月12日	MT（スライド内容について）	65%
1月13日	MT（スライド内容・発表について）・使用スライド完成・改善	75%
1月14日	使用教室の申請	80%
1月16日	ポスター完成	85%
1月20日	MT（事前準備について）・リハーサル・改善	90%
1月21日	MT（当日準備について）・リハーサル・改善	90%
1月26日	最終確認	95%～100%
1月27日	講演会実施	
1月28日	物品返却	
2月10日	反省会	

・目標達成度

75% / 100%

最大の目的は、学内を含めまだ知る機会の少ないセクシュアルマイノリティに関して、「身近に感じてもらう」「困っている人の力になる」ことであった。つまり、既に知っている人にも知らない人にもセクシュアルマイノリティを（より）知ってもらうことであった。それゆえ参加者の中で新しい方々が半数程占めていた結果を見ると、大きな成果であると言える。基礎知識講座前はもちろんのこと、実施後にも連絡をもらった。多数ではないものの、学内においても少しずつセクシュアルマイノリティへの興味関心が波及していく契機となる可能性を示していると考えられる。

しかし、講座の後半に退席する方も若干名見受けられた。講座に問題点があったのか、個人の予定があったのかは明らかでないが、分析も含め今後の課題と言えよう。

また、講座終了後に、運営側がやや閉鎖的であるというご指摘を頂いた。全体的な人の少なさのために運営側と参加者側で隔たりが出来てしまったと考えられる。講座内容も、「全く興味関心を持たない人々に知ってもらう」要素が少なかった。一方で、アンケートにおいて、ダブルマイノリティ・サブカルチャーなど変わった切り口からのアプローチに対し、高い評価を得た。

更に、学生の姿が多く見られた反面、教職員等の姿はあまり見られなかった。今後は、学外からの講師を呼ぶ・短編映画を上映する・他の要素と組み合わせるなどの工夫を加え、様々な方々に関心をいただけてもらえるようにしたい。

今後の課題

- ・なかなか MT に全員が集まることは難しい。
- ・ある程度人手がないと厳しい。
- ・備品の貸し出しも、事前に延長コード・プロジェクタ等の確認を行ってからでないと当日混乱を招くことになる。
- ・使用スライド・教室・機器の確認はできるだけ早く、大勢のメンバーが関わると、直前のトラブルを防止できる。
- ・準備を早める（宣伝・スライド・リハーサルなど）ことで、失敗を最小限に抑えることが出来る。
- ・オンライン宣伝は専用 HP を作成した方が早く広く伝わる。

経験者からのメッセージ

やりたいことをやってみる、世界が変わります。

運営者側から見たパーティシパントの変化

アンケート結果や直接の意見より、殆ど知らなかった人はセクシュアルマイノリティに関して理解でき、知識があった人は更に知識を重ねることができたようである。また2、3割の参加者は、興味関心が深まったため今後のイベントにも参加したいという積極的な感想を持ってくれたことが分かる。

T-ACT に関する感想

借りられる備品の状態（充電の有無・コードの長さ・三脚の高さなど）を詳しく明記していただけると嬉しいです。



● えがお咲く！春のつくしま交流会2016 (15040A)

T-ACT プランナー 高取 美央 (生命環境学群生物資源学類1年)

活動内容

つくば市の並木交流センターで避難者との交流会を実施します。私たちと一緒に避難している方々と交流したい学生及び教職員の方々を募集します。

東日本大震災が起きてからもうすぐ5年を迎えます。現在でも福島県から茨城県に避難している方が多くいらっしゃいます。なかでもつくば市は、茨城県の他の市に比べ、最も避難者数が多いまちです。

T-ACTの企画としてTsukuba for 3.11は震災後より、福島県からつくば市に避難している方々を親しみを込めて“つくしま”という愛称で呼ばせていただきながら積極的に交流しており、これまでに年1回以上交流会を企画してきました。そのなかでつくしまの方々から、避難者同士で情報を共有したい、支援を受けているが申し訳なく感じるなどの声を聞きました。これらを受けて交流会を以下のような場にできたらと思います。

- ・避難者、一般市民、学生同士の交流の輪を広げ情報を共有できる場。
- ・支援者－避難者のように関係を二極化せず、一緒に楽しめる場。
- ・東北の人々の魅力が発揮される企画を通して、一般市民や学生も東北についてもっと知れる場。
- ・楽しく交流し自然と笑顔が生まれる場。

学生の私たちが交流会を開催することで、子供たちや大人の方々の間をつなぎ、より幅広い年代間での交流ができるようになると考えます。そのためには、Tsukuba for 3.11のメンバーに限らず、T-ACTを通じてより多くの学生や教職員の方に参加してもらいたいと考えました。

普段東北に関心があってもなかなか関わる機会がない人にも、東北を想うひとつのきっかけになれば幸いです。ぜひお気軽にご参加下さい♪

《現在企画中の内容》

- ・郷土料理を一緒に作る
- ・ワークショップ
- ・レクリエーション
- ・3月11日のイベントに使うキャンドル作り

活動計画

1月・2月	内容企画	広報・参加者募集
2月28日	交流会当日	
3月	反省	

活動期間

平成28年1月5日～28年3月8日

T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：野中駿宏（生物資源学類）、上林直人（社会学類）、恩田怜（図書館情報メディア研究科）、木村奈那子（看護学類）、小池ちはる（比較文化学類）、立川哲之（生物資源学類）、福井俊介（生物資源学類）、藤田朋花（生物資源学類）、オン碧（生物資源学類）、黒田枝里（生物資源学類）、瀧田溪吾（生物資源学類）、室井紬（生物資源学類）、穴田可奈子（国際総合学類）、菊池礼花（社会学類）

P：水野谷剛（生命環境系）

活動報告

活動成果

・活動内容

- 1月12日（火）ミーティング
- 1月19日（火）ミーティング
- 1月28日（火）ミーティング
- 2月2日（火）ミーティング
- 2月7日（日）プレ交流会①
- 2月9日（火）ミーティング
- 2月16日（火）ミーティング
- 2月19日（金）プレ交流会②
- 2月23日（火）ミーティング
- 2月24日（水）並木住宅チラシ投函
- 2月28日（日）交流会当日
- 3月1日（火）ミーティング

・目標達成度

70%

交流会はスムーズに進行でき、また終始和やかな雰囲気の中行われた。落語研究会のステージや桜もちなど従来の交流会に変化をつけて好評だった。ゆっくり話せる時間もあり、良い交流ができた。

準備においても、リハーサルとしてプレ交流会を数回行い余裕をもって本番に備えることができた。

しかし、避難者の方々や学生、一般市民を十分に集客することができなかった点が最大の反省点である。SNSや新聞、ラジオ、チラシなど広報は盛んにしていたが、直接的な働きかけが足りなかったことが原因だと考えられる。

とはいえ、名前の通り「えがお」に溢れる交流会だったため前向きに捉え目標達成度を70%とする。

・得られた成果

福島県からの避難者の方々に楽しんでもらえ、交流が深まった。参加者が少なかった様子などから、震災から5年が経過するなか今後の交流会の趣旨を改めて見直していく必要があると強く感じた。時間の経過とともに活動を転換していく第一歩となった。

今後の課題

開催にあたってのリスク管理について、さらに綿密に行うべきであった。

直接的な広報ができるように、各種団体の活動にお邪魔して広報したり、避難者の仮設住宅を訪問するべきであった。

経験者からのメッセージ

ひとつのイベントを成し遂げるには、その裏でものすごい準備を必要とすることが身にしみてわかります。

ゆとりのある計画で綿密な準備を行えるようにしましょう。

また、人は意外と集まりません。どうやって興味を引くかが大切になります。

運営者側から見たパーティシパントの変化

震災から年月も経ち、避難者同士の各コミュニティは十分にできているようだ。ただ、コミュニティ間での交流はまだ不十分に行われていないようであるので、今後の交流会では、コミュニティ間の交流に力を入れたい。

T-ACT に関する感想

カラー印刷やポスターの印刷も T-ACT の印刷機でできて良かった。

また紹介文の修正など、細かいところまで一緒に考えてくださり勉強になった。

もっと筑波大生にむけて効果的な広報ができるように、T-ACT の Twitter でも企画の宣伝などをさせてもらえたらよかった。



知的障がい者サッカークラブ (20150001V)

受入団体名：牛久チャレンジドフットボールクラブジョイア (14006G)

活動内容

障害をもつ18歳以上男女のサッカークラブです。NPO 法人つくばフットボールのサッカーコーチの指導のもと、毎月楽しく活動をしています。メインコーチのアシスタントコーチ・遠征時の帯同 など

活動実施日(期間)

平成27年 5月10日～平成28年 3月13日 (毎月第2日曜日、他イベントなど)

参加学生

T-ACT ボランティア：2名

5/10 6/14 7/12 8/23 9/13 10/18 1/10 3/13 各1名 11/29 2名

活動報告

●受入団体担当者

練習会では練習内容の全体説明のあと個別にわかりやすく説明したり、動き方のモデルになったり、励ましの声をかけたり、選手達に積極的に関わってくれます。また、練習の準備、後片付けも選手と一緒に動いてくれます。選手・スタッフだけでなく、選手の家族からも信頼されています。

●学生参加者：匿名希望 (人間総合科学研究科 研究生)

活動の成果

アシスタントコーチとしてメンバーたちと一緒に月に一回練習していた。コーチの手伝いしたり、付き添いしたりして、チームについてプロの選手と試合したり、全日本知的障がい児・者サッカー競技会に出場し、第4位を取りました。いつも仲良しでやる気満々なチームでした。

今後の課題

いつも皆さんと楽しくサッカーをやっているけど、やはり来日したばかりの自分ができることは限られていたので、より深いコミュニケーションのためにはより努力することが必要であると思いました。そして、ボランティアをやっていない学生や若者たちが参加するようになってもらえたらいいと思います。



活動参加者との記念撮影

「ボードゲームの広場」(20150002V)

受入団体名：つくばボードゲーム愛好会 (12002G)

活動内容

まだ児童館が設置されていないつくば市春日学園地区で、小学生の放課後を充実させる活動として、筑波学院大学 OCP (オフキャンパスプログラム) の学生と一緒に、園児～小学生の子ども達及びその保護者たちに、オセロ、将棋、チェスなどの指導や対局を行っています。

昨年度は37回の活動中、筑波大学から将棋部、チェスサークルを始めとして、一般の学生を含め99名のボランティアの参加がありました。ボードゲームを教えることができなくても“一緒に遊ぶ”、“危険がないように見守る”だけでも十分です。

活動実施日(期間)

通年 毎週水曜日15:00～17:00 ※学生が参加した日数33日

参加学生

T-ACT ボランティア：13名 (延べ数76名)

※団体参加：筑波大学将棋部 7名、チェスサークル Café・Rejansu 1名

活動報告

●受入団体担当者

筑波学院大学 OCP (オフキャンパスプログラム) の学生と一緒に、園児～小学生の子ども達及びその保護者たちにオセロ、将棋、チェスなどの指導や対局を行いました。

(詳しくは Facebook「つくばボードゲーム愛好会」で活動報告をしています。)

●学生参加者：大泉亜衣 (看護学類 1年)

活動の成果

子どもたちとオセロをしました。最初はただオセロをするだけでしたが、段々会話も楽しみながらオセロをできるようにになりました。

今後の課題

親しい人としかオセロをしたがらない子どもにどのように接すれば良いか迷いました。

●学生参加者：匿名希望 (数理物質科学研究科 M1)

活動の成果

参加している子供たちにボードゲーム (主にチェスのルール) を教えています。参加している子供たちは自分の居場所をみつけていますので、活動の目的は達成できているのではないかと思います。特に今年はカスミ大穂店で、地域の方向けにボードゲームのブースを設けました。(7月18日、12月13日)

今後の課題

今後の課題として、大穂カスミ店でのイベントを3か月に1回開くなど、定例化することが挙げられます。その解決策としては、筑波大将棋部さんに運営を任せてしまっているところがあるので、私の所属サークル (チェス) からのボランティア参加者を募り、このような活動に参加してもらうことが重要であると思います。



将棋やオセロ、チェスの対局など、活動の様子

足柄サポーター募集！ (20150003V)

受入団体名：神奈川県立足柄ふれあいの村 (14004G)

活動内容

野外炊事、ゲーム、ハイキング、クラフトなど、足柄の自然を活かしたプログラム、イベントの運営補助

活動実施日(期間)

平成27年 8月 2日～ 8日

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

小学4年生から高校3年生までを対象とした6泊7日のキャンプで、子ども達とともに野外炊事やテント泊、長距離ハイクなど行いながら、子ども達の心の支えとなる役割をはたしていただきました。

積極的に子ども達に関わってくださり、子ども達と同じ目線に立って話すことで、参加者からもとても信頼されておりました。

●学生参加者：薛承哲（システム情報工学研究科 M1）

活動の成果

7日間のキャンプで楽しかった。野外炊事やハイキング、キャンプファイヤーなど、3日間も子ども達と一緒にテントの中に泊まって面白かった。

今後の課題

1年に1回のキャンプなので、途中にたくさんの問題が生じたが、キャンプはそういうものなので、課題はなし！

その他

箱根はちょっと遠かった。

阿見町立実穀小学校での合唱指導サポート (20150007V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター (12001G)

活動内容

- 音楽専門の教員がいない小学校での合唱指導
- 発声練習の指導・アドバイス
- 合唱のパート練習指導・アドバイス
- パートの人数の分け方や曲のポイントなど、教師へのアドバイス など

活動実施日(期間)

平成27年 9月17日～10月13日 (うち 4日間：9/17、9/30、10/7、10/13)

参加学生

- 9月17日：T-ACT ボランティア 4名 (混声合唱団、他)
- 9月30日：T-ACT ボランティア 6名 (混声合唱団、他)
- 10月 7日：T-ACT ボランティア 3名 (混声合唱団、他)
- 10月13日：T-ACT ボランティア 1名 (混声合唱団)

活動報告

- 受入団体担当者 (阿見町立実穀小学校より)

【学校からの感想】

音とりをたくさんしてもらえたので、パート練習がスムーズにおこなえました。声の出し方もお手本を聴かせてもらえて、子どもたちの刺激になりました。たくさん誉めてもらえたので、子どもたちのやる気につながりました。来年もぜひお願いしたいです。

【ボランティア学生の感想】

去年お邪魔したときよりは声が出ている印象があったが、曲自体に触れている時間が短いため歌い馴らしが大変だった。子どもたちは素直でげんき。歌い馴れてくると、強弱や入りの揃えなどが気になってきたため、何度も歌い繰り返し歌わせて練習した。子どもたちが曲を好きになってくれればうれしい限りです。

- 学生参加者：匿名希望 (心理学類 1年)

活動の成果

活動内容は、小学校の音楽の時間に音楽祭に向けての合唱練習をサポートするというものだった。子供たちが一生懸命に歌っている姿を見て、自分たちも気合が入り、真剣に活動することができた。子供たちの特性はさまざまであったが、一人一人に目を向けて声をかけることが重要だとわかった。

今後の課題

小学校で活動するので仕方がないことかもしれないが、時間帯が午後の授業と重なってしまい、参加できなかったことがたびたびあった。

茨城県警察大学生サポーター（20150010V、20150036V）

受入団体名：茨城県警察少年サポートセンター（13005G）

活動内容

- 少年の非行防止や立ち直りを支援するボランティア活動
- ・街頭補導活動や非行防止キャンペーン
- ・非行少年等の立ち直り支援（学習支援など）
- ・非行防止教室および薬物乱用防止教室の補助

活動実施日(期間)

20150010V：平成27年 6月 4日～平成28年 2月29日（うち 7日間）
20150036V：平成28年 2月17日、18日、25日（説明会）

参加学生

T-ACT ボランティア：1名（20150010V）
平成27年：6/4、7/14、8/10、8/29、11/7
平成28年：2/13、2/29
説明会参加学生：8名（20150036V）

活動報告

●受入団体担当者

問題を抱える少年に対し、居場所づくり（陶芸体験、登山清掃、そばうち体験、保育所訪問など）や学習支援を通し、少年の立ち直りを図った。

活動中は少年に近い目線で時に励まし、時に厳しく指導し、少年の活動を支援した。

●学生参加者：讃井知（システム情報工学研究科 M1）

活動の成果

[薬物乱用防止教室]

県内の小学校に訪問し、薬物乱用の危険性を伝える教室の運営。自身にとっても勉強になったり、元気な子供たちと触れ合ったりすることができる。

[筑波山登山]

少年達と共にゴミ拾いをしながら筑波山を登山。最後まで頑張る喜びを共有できた。

[陶芸教室]

想像力を働かせながら少年達と手を動かし、完成を楽しんだ。

[餃子づくり／そば打ち]

出来の良さ悪さが分かりやすい分料理作りはモチベーションを保つのが難しいが、少年達にとってはよい訓練になっていることが分かる。

[保育園訪問]

少年達の将来の仕事探しにもつながる活動。子供を通じて学ぶことも多い。

今後の課題

一番は少年の気持ちの変化に気が付かず自分のことに集中したり一般的な規範をおしつけてしまうと信頼を失ったり気分を害されてしまう。様々な活動をしながらも、「自分は少年達の支援に来ている」ということを常に意識し、行動に活かすことが大切になる。

霞ヶ浦環境科学センター 環境月間イベント (20150011V)

受入団体名：茨城県霞ヶ浦環境科学センター (15003G)

活動内容

- 霞ヶ浦環境科学センター環境月間イベントの運営スタッフ
- ・各種体験教室（理科実験、工作等）補助
- ・映画上映、クイズラリー等の受付 など

活動実施日(期間)

平成27年 6月 6日

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

環境月間イベントのプログラム「霞ヶ浦クイズラリー」の受付、採点業務を担当。参加者は子ども、親子連れが多く、特に子どもたちに笑顔で丁寧な対応をしている様子が見られた。



イベントの様子

つくば市立九重小学校での授業、行事等サポート (20150012V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター (12001G)

活動内容

- ・授業での個別サポート
- ・授業前の教材や機材等の準備サポート
- ・特別支援を要する児童への補助 等

活動実施日(期間)

平成27年 6月 4日、7月17日

参加学生

1名 (T-ACT 参加登録なし)

活動報告

●受入団体担当者(つくば市立九重小学校より)

小学3、4年生の授業の補助をおこなっていただきました。常に丁寧に対応してくれていました。来年度も是非活用してみたいです。

「学びの広場」学習支援ボランティア (20150013V)

受入団体名：下妻市立高道祖小学校 (14009G)

活動内容

ねらい 算数科の四則計算等の補充深化学習支援で一人一人の学力向上を目指す。
(県主催「学びのサポートプラン事業」を受けての活動)

活動時間 8:00~10:30

指導対象 小学校 4年生 (30名)、5年生 (43名)、6年生 (30名)

指導教科 算数科

使用教材 茨城県教育委員会が独自に作成した問題 (解答付)

用意 上履き、筆記用具

指導 本校職員とともに個別支援を担当

活動実施日(期間)

7/22 (水)、23 (木)、28 (火)、29 (水) 各 8:10~10:30

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

茨城県学力向上事業「学びの広場サポート推進事業」を受けての本校活動「学びの広場」での6年生児童の個別学習支援を行った。

本校からの打合せが十分でなかったために、乗用車がなかったことを確認できずに迷惑をかけてしまった。前向きな態度での参加で、英語を交えて子供や職員とのコミュニケーションがあるなど、子供も職員もよい刺激を受けた。今後も、是非、参加してほしい。

●学生参加者：薛承哲 (システム情報工学研究科 1年)

活動の成果

二週間で4回小学校に行き、算数を教えました。子供達が書いた数式をチェックして間違えた部分を見つけるのも面白いし、子供達が分からない時に教え方を変えてわかってもらえたらうれしいし、本当に面白かった。

その他

他の筑波大生で参加する学生がいたら一緒に行きたい。

サイエンスツアーイベントのサポート (20150015V)

受入団体名：一般財団法人茨城県科学技術振興財団つくばサイエンスツアーオフィス (13002G)

活動内容

月1回程度行われる、児童とその保護者を対象としたサイエンスイベント当日の準備や工作実験教室での参加児童への作業補助、また研究施設見学時の参加者の引率や記録写真の撮影など、イベント運営時のサポートスタッフとして活動。

活動実施日(期間)

平成27年12月13日(日)「試作！工作！アニメマシン」
平成27年12月20日(日)「光のオブジェ オンリーワンディスプレイ」
平成28年1月24日(日)「3Dの富士山を作ろう！」
平成28年3月20日(日)「オリジナルの顕微鏡を作ろう！」

参加学生

T-ACT ボランティア：各1名

活動報告

●受入団体担当者

午前中は主に外部講師を招いて、児童とその保護者併せて40名程で工作実験教室を行ったが、ボランティア学生は会場の設営などの力仕事にも自主的に取り組んでくれた。また、作教室中は、作業に遅れてしまう児童にアドバイスをするなど、周囲に気を配り教室がスムーズに進行できるように努めてくれた。

午後はサイエンスツアーバスを利用し、研究施設でスタッフによる説明付見学を行った。職員から指示が出せない時でも、自ら適切に判断、行動してくれ、また積極的に児童に声をかけたり、保護者にも丁寧に対応したりするなど、団体を速やかに引率できるように行動してくれた。またボランティア学生も子供が好きということやつくばの研究施設が色々見学できるということで、楽しみながらイベントに参加してくれたと感じた。

休日のイベント開催が多いため、弊所スタッフでは要員に限りがあり対応しきれないため、サポートとして参加していただき、とても助けになりました。来年もぜひお願いしたいと考えております。

●学生参加者：大泉亜衣（看護学類1年）

活動の成果

工作の手伝い、クイズ、パンフレットの配布などをしました。何度か参加させていただくうちにサイエンスツアーの流れがわかり、自分から子どもの手伝いなどをできるようになりました。

今後の課題

サイエンスツアーについてまだわかっていないことがあるため、保護者の方に質問されて戸惑うことがありました。サイエンスツアーについてもっと知ろうと思います。

つくば小中学生将棋大会 (20150023V)

受入団体名：つくばボードゲーム愛好会 (12002G)

活動内容

筑波大学将棋部の協力を得て、筑波大学春日エリアを会場に、小・中学生対象（小4～中学生）の将棋大会を夏休みに開催。ボランティアは駐車場誘導、大会受付、会場案内、入賞者インタビュー、写真撮影など将棋大会運営のお手伝いを行う。

活動実施日(期間)

平成27年8月9日（日） 9:30～16:00

参加学生

T-ACT ボランティア：12名（将棋部11名）

活動報告

●受入団体担当者

筑波大学将棋部（参加者11名）を中心に、T-ACT ボランティアから1名の参加があった。今年はアイラブつくば補助事業として、4月の補助金申請時から8月の大会開催まで、協力を依頼した筑波大学将棋部が準備に携わった。

将棋部は当日の大会運営だけでなく、会場の手配（教室の予約や駐車場）、チラシ、ポスター制作などの広報分野、駐車場や会場への誘導、お弁当の手配など後方支援にも気を配っていて、全員で大会の成功を支えた。大会運営もPCの組み合わせソフトを使用し、公平かつスムーズに行っていた。大会閉会式後、入賞者には大学将棋部との対戦が生まれ、他の大会にないオリジナル性を出して保護者、参加者からも大変好評であった。

昨年の入賞者が今年も応募して、リピーターになっており、口コミで人が集まるようになってきている。茨城県南でのレベルが高い将棋大会として、今後も続けられるように地域からも期待されている。

(Facebook「つくばボードゲーム愛好会」で写真などを掲載して、詳しく活動報告をしています。)

次年度への引継ぎ事項

(1) 日程について

前日の土曜日まで大学で期末考査やオープンキャンパスがあり、月曜日から夏季休業となって冷房が使用できなくなってしまう、その間の日曜日を利用した、際どい日程であった。帰省する大学生も多いので、日程を決めるのが大変であった。

(2) 会場について

大学（春日エリア）の15畳の和室を利用させてもらったが、定員を16名にしたため、参加できなかった人から不満が出た。来年は定員32人規模の大会にしてほしいとの声があるので、和室に限らず広い教室を貸してもらえないだろうか。保護者控え室も、食堂など広い場所を利用させてもらえると対応できると思う。

(3) その他

学生の地域参加について、自分の得意なことで社会貢献できるのは、ボランティア活動は楽しいというイメージを持つことができ、将来の職業を考える上でもメリットは大きいと思いました。ひとつのイベントの裏に、多くの人たち、手続きが関わっていることを実感できたと思います。ボランティアの募集、会場の予約など、大学の事務やT-ACTの先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

●学生参加者：匿名希望（看護学類1年）

活動の成果

荷物運びや昼食時の飲み物の用意など大会運営のお手伝いをしました。特に昼食時は参加者の様子を見て動くことが多かったので、やったことに対してお礼を言ってもらえたことにやりがいを感じました。

今後の課題

対局中はやることがなくて困りました。



小中学生への大会説明の様子



対局の様子

「冬の学びの広場」学習支援ボランティア募集 (20150028V)

受入団体名：下妻市立高道祖小学校 (14009G)

活動内容

ねらい 補充深化学習を通して、一人一人をていねいに指導して学力向上を目指します。
活動時間 8：10～12：00
指導対象 小学校3年生～小学校6年生
指導教科 国語・算数・理科・社会
使用教材 本校で用意したワークシート
用意 上履き、筆記用具
指導 本校職員とともに個別支援を担当してください

活動実施日(期間)

平成28年1月7日(木) 8：10～12：00

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

茨城県学力向上事業「学びの広場サポート推進事業」を受けての本校活動「冬の学びの広場」での6年生児童の個別学習支援を行いました。参加受付メールを受け取るのが遅れて本校からの打合せが遅れてしまい迷惑をかけてしまいました。夏季休業中の学びの広場にも参加してくれて、今回も参加してくれたことをうれしく思います。子供たちも教職員も薛さんの前向きで明るい態度に好感をもっていました。また、英語を交えてのコミュニケーションがとれるのでことも大変貴重です。来年度も、是非、参加してほしい学生さんの一人です。

●学生参加者：薛承哲（システム情報工学研究科1年）

活動の成果

国語、算数、理科、社会を指導し、子供達の満足度も高く、成果があがりました。

その他

もっと日本人学生にも参加してもらいたいです。

生活科「校外学習ボランティア」～私のまちはっけん～ (20150029V)

受入団体名：つくば市立春日学園 (15010G)

活動内容

「わたしの町はっけん」という単元の授業において、以下をねらいとして実施します。

- 自分たちが住む町を探検し、様々な場所やもの・人に出会い町への親しみを深める。
- 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し友達や地域の人に知らせる。

ボランティアの内容

- ・交差点や横断歩道での交通安全指導を行う。
- ・安全に迷惑をかけないで探検できるように見守る。
- ・時刻を知らせる。

活動実施日(期間)

10月27日(火) 9:35~11:25

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

2年生生活科「校外学習ボランティア」。児童の班活動と一緒に入り、保護者ボランティアと共に学習支援を行っていただきました。今回学生には大変お世話になりました。子どもたちの面倒を、愛情をもってしっかり見ていただき大変感謝しております。また機会がありましたらお願いしたいと考えております。

●学生参加者：堤夏鈴(人文・文化学群 4年)

活動の成果

小学校2年生の生活課の校外学習の引率をし、子供達の学習の補佐や行き帰りの安全確保などを行った。

今後の課題

大学生の参加者が少なかったため、他の保護者ボランティアの方との間に壁が出来てしまっていた。より多くの学生の参加があると今よりも参加しやすくなる。



衣料品店を訪問した班の校外学習の様子

栗原スポーツ鬼ごっこクラブの活動支援 (20150032V)

受入団体名：栗原スポーツ鬼ごっこクラブ (150126)

活動内容

- ・子どものスポーツ鬼ごっこ活動の審判及び活動援助
- ・その他のレクリエーション活動（集団遊び）の援助
- ・子どもの安全確認や見守り
- ・宿題の見守り、援助

※雨の日は、図工室等でレクリエーション活動

タイムスケジュール

- 14：55 図工室で宿題
- 15：40 校庭でスポーツ鬼ごっこや集団遊び
- 17：00 終了のち保護者へ引き渡し（雨天時は16：30）

活動実施日(期間)

平成27年 6月 6日 毎週月曜 14：50～17：00

参加学生

T-ACT ボランティア：1名 (1/18、25 2/8、15、29 3/14)

活動報告

●受入団体担当者

子どもたちの宿題を見て教えてもらったり、子どもと一緒にレクリエーションや鬼ごっこの活動に参加したりしていただきました。子どもたちは、一緒に遊んでくれるお兄さんが大好きで、「今日はせっちゃん来る？」と毎回楽しみにしています。学生さんの参加により集団遊びがさらに盛り上がり、友だちと遊ぶ楽しさ、集団で遊ぶ楽しさを子どもたちに経験してもらうことができました。

●学生参加者：薛承哲（数理解物質科学研究科 1年）

活動の成果

週一栗原小学校に通って、活動内容として少しみんなの宿題を手伝ってから、一緒に鬼ごっこスポーツする。スポーツに通じてチームワークや作戦の重要性を子供たちにわかってほしくて、チームの中に誰でも不可欠な存在でみんなの力を合わせて勝てるという意思を伝えたい。しっかりしている子供たちが段々強くなって来て、これからも以前の僕一人の活躍通りで簡単に勝てると思わなくて、すごく楽しみしています！

今後の課題

負けた子供たちが泣いたり、誰々のせいとか文句を言ったりする時の対応。ルールがちゃんと理解できていない子供にどうやって教えるか。

その他

僕一人で全部子供たちをみるのは不可能で、本当に人手が必要。子供たちかわいかった。



スポーツ鬼ごっこの様子



チーム戦のためのユニフォームデザイン作成の様子

映画「みんなの学校」自主上映会（1/24）運営ボランティア（20150033V）

受入団体名：茨城 LD 等発達障害親の会 星の子（15014G）

活動内容

映画「みんなの学校」自主上映会の運営スタッフ活動（受付け、誘導、お手伝いが必要な方への支援等々）のお手伝い

※映画は10：00～、13：00～、16：00～の3回上映

※開催場所はインフォメーションサービスセンター内の大会議室

活動実施日(期間)

平成28年1月24日（日）9：00～18：30

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

当日は多くの参加者を迎え、盛況な上映会となりました。学生ボランティアさんには施設外誘導ののち、会場内における案内も行っていただきました。土地勘のない参加者にわかりやすくご案内いただきました。施設外誘導は、お客様が初めて出会うスタッフということもあり、いろいろな質問を受けたことと思いますが、相手の要求を適切に判断し、必要な情報をお出しいただきました。

多くの障害のある方も参加される会でしたが、皆様が気持ちよく時間が共有できたと思います。ご協力感謝申し上げます。

●学生参加者：匿名希望（心理学類 1年）

活動の成果

映画を見にきてくださった人の誘導、会場整理が主でした。ボランティアの運営がどんなものか、基本的なことを経験することができました。また、映画を観賞することもできたので、とても勉強になりました。

悩める高校生救助隊～あなたの合格体験記を語りませんか～ (20150034V)

受入団体名：つくば市竹園交流センター (15013G)

活動内容

筑波大生の方と会話できる時間を設け（大学生の方1人につき3～5人程度でブースを作り、時間を決めて生徒がブースを回る）主に受験を意識した内容のお話を伺う。

→具体的な内容

- ・受験するときに悩んだこと、大変だったこと。
- ・受験するときに後悔したこと。
- ・おすすめの教材などについての話。
- ・おすすめの勉強法やそれについてのアドバイス。
- ・受験時の経験談、また失敗談など。

活動実施日(期間)

平成28年2月21日

参加学生

T-ACT ボランティア：3名

その他学生：5名（文化系課外活動団体 FreeEducation）

活動報告

●受入団体担当者

最初に各々、5分以内で、①自己紹介②高校1～2年生の時にやっておけばよかったこと③合格体験談エピソードを発表してもらいました。その後、アイスブレイクタイムで高校生と打ち解けた後、3グループに分かれ、高校生からの質問に答えてもらいました。終始、和気あいあいとした良い雰囲気、予定時間終了後も延長するなど、大変盛り上がりました。

●学生参加者：阿部寿季（社会学類 1年）

活動の成果

高校生の進路に関する悩みの相談を受け、受験生活を乗り越えた経験と知識、大学生活について高校生と話し合いました。貴重な経験をさせていただき、感謝しています。

●学生参加者：匿名希望（人文学類 1年）

活動の成果

高校生の受験に関する相談を受けました。受験だけでなく、後悔しない高校生活をおくるためにすべきことなども話しました。自分たちも高校生のころの純粋な気持ちを思い出すことができ、今後の勉強へのモチベーションが高まりました。

今後の課題

設定された時間がやや短く（2時間）感じました。もう少し質問タイムなどを多めにとってもいいのかな、と思います。

その他

とても有意義な時間でした。ありがとうございました。



高校生からの質問への対応の様子



学生による体験談発表の様子

つくばに住む外国人と交流しよう。(20150037V)

受入団体名：つくば市立洞峰学園谷田部東中学校 (15016G)

活動内容

What to do:

1. Experience Japanese school life.
2. Introduce your country and culture to our students in English.

What to bring:

1. Lunch box
2. Presentation documents: print out slide, PC and so on.

Schedule:

- 8 : 30 Tsukuba bus center, Taxi stand. (we will pick you up and bring you to our school)
- 9 : 00 Orientation
- 9 : 40 the second period
- 10 : 40 the third period
- 11 : 40 the fourth period
- 12 : 40 Lunch time (you will eat your lunch with our students)
- 13 : 35 the fifth period (present your country or culture to our students)
- 15 : 00 leave the school and send you back to the center of Tsukuba

活動実施日(期間)

平成28年2月29日(月) 8 : 30~15 : 00

参加学生

13名(T-ACT 参加登録なし)

活動報告

●受入団体担当者

1. 中学校の授業の参観と参加
2. 自国のプレゼンテーション
3. 給食の時間、一緒に過ごす

栗原スポーツ鬼ごっこクラブ 感謝祭（餅つき大会）(20150039V)

受入団体名：栗原スポーツ鬼ごっこクラブ (15012G)

活動内容

- ・餅つきの準備、参加、片付け
校庭で、かまどでもち米を蒸して臼と杵でつきます。豚汁も作ります。
（お腹いっぱい一緒に食べましょう！！）
- ・子どもと一緒にスポーツ鬼ごっこをしましょう（審判や活動援助を含みます）。

活動実施日(期間)

3月21日（月・祝）10：00～14：00

参加学生

T-ACT ボランティア：1名

活動報告

●受入団体担当者

餅つきの準備の段階からお手伝いいただきました。午前中は、お餅つきの準備と並行してスポーツ鬼ごっこの体験会を行ない、高学年のチームに入って活動を盛り上げて頂きました。みんなでついたお餅を昼食に食べ、午後はレクリエーション。サングラスをかけたハンター役になっていただき、子どもたちも大喜びでした。

●学生参加者：薛承哲（数理物質科学研究科 1年）

活動の成果

活動内容は餅つき、スポーツ鬼ごっこ、いろんなゲームをやりました。いっぱい走ったから足が棒になった。スポーツ鬼ごっこの感謝祭なので、みんなゲームや餅つきで楽しめば目標達成ということ。大人10人と子供30人の対抗で、子供陣が滝のように流れ落ちてくるのがすごく怖かった。



レクリエーションの様子



餅つきの様子

2015 年度実施状況報告

つくばアクションプロジェクト（以下、T-ACT）は、学生が自らの関心に基づく多種多様な自発的活動を新たな人間関係を構築しながら実行するよう促進することで、学生の人間力を育成する筑波大学の人間力育成事業である（図1参照）。T-ACTは、学生が企画立案し展開するT-ACTアクション、教職員が企画立案し展開するT-ACTプラン、地域活動団体が実施する社会貢献活動に学生が自発的参加をするT-ACTボランティア（2012年度スタート）の3種がある。T-ACTの諸活動は、学生・教職員・地域による共創的コミュニティをベースに、半年以下の単発的・短期的活動を支援することによってアクティブな流動性をもつことを特徴としている。学生は、T-ACTの諸活動を通して、諸活動への積極的な参加力、経験から感じ取る体験力、他者と関わり協調するコミュニケーション力、人をまとめ率いる統率力、創造しそれを具現化する企画力などの「人間力」を養うことになり、自主性と社会性を備え、将来社会を担う人材として成長することができると期待されている。

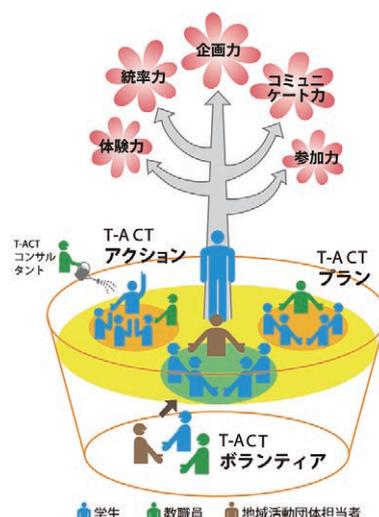


図1：共創的コミュニティ形成によるT-ACTの展開と学生の成長

1. T-ACT 活動実績

2015年度のT-ACTアクション・プランにおける企画申請数及び承認数、T-ACTボランティアにおける団体登録数及び活動承認数、それらへの学生参加者数、T-ACTフォーラム利用者は次の通りである（但し、3月末日時点までにT-ACT推進室にて把握できた数に限られる）。2015年度は、T-ACTアクション・プランの企画申請数は55件（アクション53件、プラン2件）であり、そのうち44件（アクション42件、プラン2件）が承認された（図2参照）。学生プランナーは45名（重複者を除く実数は39名であり、承認されなかった企画も含める）、学生オーガナイザーは275名（重複者を除く実数は255名）、教職員プランナーは3名（重複者を除く実数は2名）、教職員パートナーは82名（重複者を除く実数は56名）、学内者のパーティシパントは512名（重複していないことが確認できる実数は156名）、学外者のパーティシパントは709名（重複していないことが確認できる実数は1名）であった（図3～5参照）。申請件数、承認件数はともに昨年より減少し、それにとまって学生プランナーや学生オーガナイザーの延べ数も減少した。しかしながら、企画内容は充実したものが多かったと言える。たとえば、ゼロから地域でのイベントを立ち上げ、地域との新しく継続的なつながりを生み出した企画や、資金獲得のために民間の企画コンペティションに参加するといった有効な問題解決策に積極的に取り組んだ企画など、立案から実行、フィードバックまで充実した企画が多かった。これらのことから、T-ACTの認知度の向上により学生が有効にT-ACTのシステムを利用するようになったことが伺える。また、継続的な取り組みとなっている企画も多く、本来は短期的で単発型の企画を想定しているT-ACTのシステムに対し、学生の活用方法が変容しつつあることが示唆される。学生プランナー、学生オーガナイザーの実数が延べ数に比べて微減であることや、継続的に行われている企画があること、一つ一つの企画の質が向上していることは、一定の学生が腰を据えてT-ACTシステムを活用している表れと解釈される。今後は、学生のT-ACTを活用する姿勢の変化を読み取り、T-ACTのシステムの見直しを検討するとともに、本来の趣旨である短期的単発型の企画の増加を図ることが課題となるであろう。

T-ACTボランティアにおける登録団体数は32であり、団体登録がなされた上での承認活動数は40件であった



図2：過去5年間のT-ACTアクション・プランの企画承認数

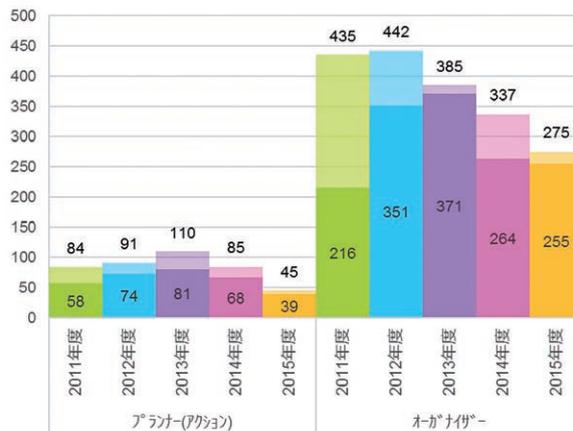


図3：過去5年間のT-ACTアクションのプランナー数およびアクション・プランのオーガナイザー数
注) 棒グラフの頂点までが延べ数を、色の濃い点までが重複していないことが確認できる実数を示している

(図6参照)。T-ACT ボランティアからの活動参加者(パーティシパント)は78名であり(図7参照)、T-ACT ボランティアとは別に、独自に活動の情報を得て参加している学生も19名いることがわかった。学生の社会貢献活動・ボランティア活動に参加してみたいというニーズを踏まえると(図16参照)、T-ACT ボランティアが学生のニーズと地域社会のニーズを汲み上げて、うまく活動につなげている効果があると言える。

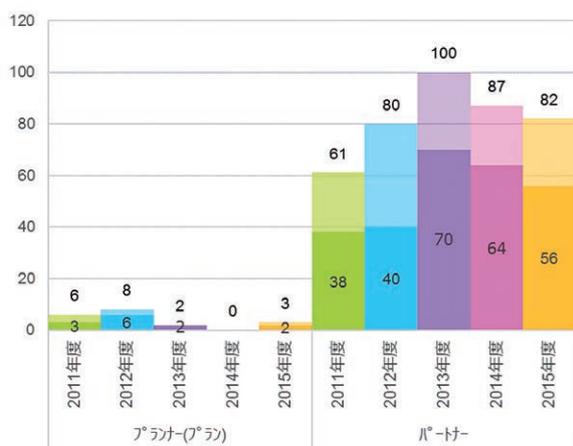


図4：過去5年間のT-ACTプランのプランナー数およびアクション・プランのパートナー数
注) 棒グラフの頂点までが延べ数を、色の濃い点までが重複していないことが確認できる実数を示している

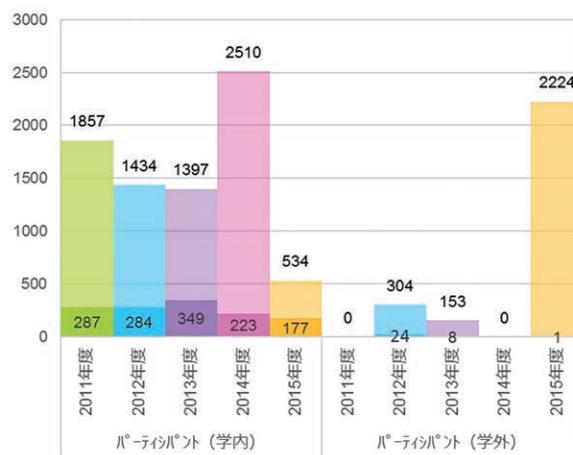


図5：過去5年間のT-ACTアクション・プランのパーティシパント数
注) 棒グラフの頂点までが延べ数を、色の濃い点までが重複していないことが確認できる実数を示している



図6：これまでのT-ACTボランティアの登録団体数と活動承認数

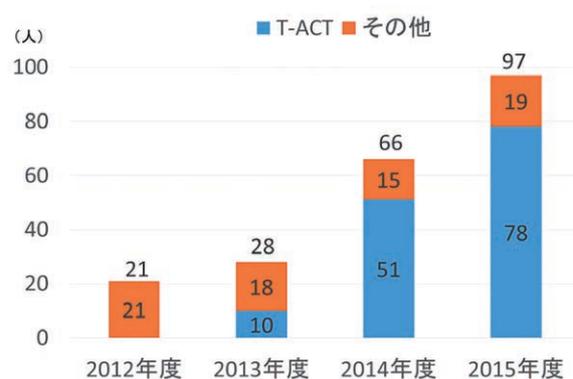


図7：これまでのT-ACTボランティア登録団体における本学学生の参加者実数

続いて、2015年度に、T-ACT フォーラムに来室した学生数は934名だった(図8参照)。学生の来室目的を分類したところ、T-ACT アクションの新規申請に関する相談(A新規)が14%、T-ACT アクションの運営のための利用(A運営)が56%、T-ACT アクションへの参加に関する相談(A参加希望)が2%、T-ACT ボランティアへの参加に関する相談(V新規)が3%、T-ACT ボランティア参加後の相談に関する利用(V運営)が8%、T-ACT サポーターの来室(サポーター)が5%、総合科目に関する利用(授業)が7%、T-ACT フォーラムでの雑談等その他の利用(その他)が4%であった(図9参照)。T-ACT アクションに関する利用がほぼ4分の3を占めており、特に、T-ACT アクションの運営にとってT-ACT フォーラムという場所が必要であると言える。

2015年度のT-ACT ボランティアに関して来室した地域活動団体などの来室者数は、63名であり、昨年度より若干の減少が見られるが、2014年度より増加しているT-ACT ボランティアの募集件数とともに高い水準にあると言える(図10参照)。来室目的を分類したところ、T-ACT ボランティアの団体登録あるいは募集申請に関しての来室が最も多かった(募集関連)。また、その他とされる訪問も多く、取材も含み訪問理由は多岐に渡っていると言える。こういったことから、T-ACT ボランティア事業の認知度の広がりや機能の多様化が期待されることが推測できる。



図8：過去5年間のT-ACT フォーラム来室学生

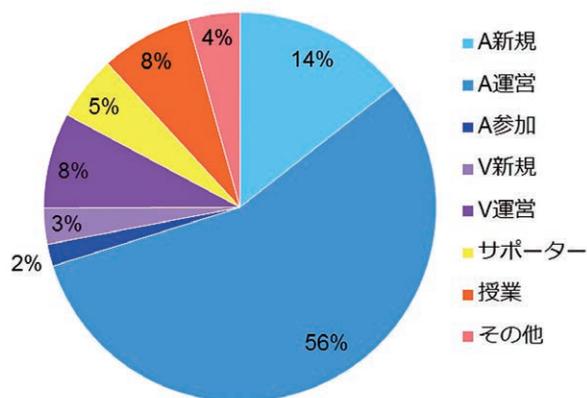


図9：2015年度のT-ACT フォーラム利用目的



図10：地域団体等のT-ACT フォーラム来室者数

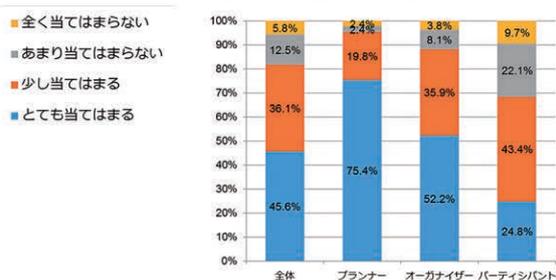
2. T-ACT による人間力の成長と学生生活の充実感

2015年度に活動が終了した企画で、活動の際にT-ACTシステムに登録した学生のうち153名が、活動終了後の人間力の成長に関するアンケートにweb上で回答した。参加力、体験力、コミュニケーション力、統率力、企画力の達成度に関する自己評価は以下の通りである(図11参照)。参加力、体験力、コミュニケーション力について達成できたという回答(「とても当てはまる」「すこし当てはまる」)は全体の約80%を占めたが、統率力、企画力について達成できたという回答は全体の約65%であることから、この2つの力は前3つの力よりも達成することが難しいと感じられていることがわかった。この結果は例年とほぼ同様の結果であり、統率力および企画力は学生が自主的な活動を行うための力の中でも、より達成の難しい能力であると考えられる。

また、2015年4月中旬の健康診断時に行った調査では、T-ACTでの活動による学生生活の充実感への効果に関する回答を得た(図12参照)。「T-ACTでの活動によって学生生活が充実した」に対して「とても当てはまる」「少し当てはまる」と、T-ACT活動が充実感に寄与したと回答した学生は、T-ACT活動への参加が1回ある場合28.6%、2回ある場合64.8%、3回以上ある場合85.7%であった。また、T-ACT活動への参加がオーガナイザーとして1回ある場合33.8%、2回ある場合84.1%、3回以上ある場合86.6%、プランナーとして1回ある場合31.7%、2回ある場合86.4%、3回以上ある場合93.3%であった。ここから、T-ACT活動への参加の仕方がパーティシパントよりはオーガナイザー、オーガナイザーよりはプランナーである方が、T-ACTでの活動によって学生生活への充実感が高まりやすい傾向があると考えられる。また、いずれの参加の仕方であっても1回のT-ACT活動では学生生活の充実感への効果は非常に大きいわけではなく、2回以上のT-ACT活動を経験している場合、学生生活の充実感への効果を大きく高めることが示唆された。これらの結果は昨年度とほぼ同様のものであり、T-ACTの効果の表れ方の特徴であると考えられる。

◇参加力

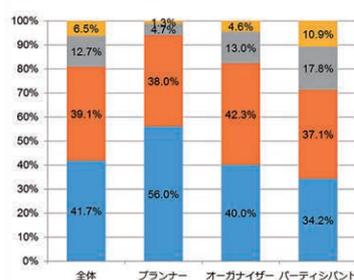
(積極的に活動に取り組むことができた)



1. 活動の実現に向けて自分なりに努力できた
2. 活動に積極的に関わることができた
3. 活動の実行に貢献することができた
4. 活動にできるだけ多く参加できた
5. 互いに協力し合いながら、活動を進めることができた

◇体験力

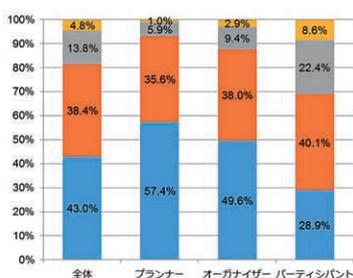
(活動を通して、感じ取り、考えることができた)



1. 活動を通して、新しいまたは忘れていた自分の長所に気づくことができた
2. 活動を通して、自分の改善すべき点を知ることができた
3. 活動を通して、喜怒哀楽を感じる事ができた
4. 活動を通して、なんらかの新しい発想を得ることができた
5. いろいろな出来事を見聞きできた
6. 活動に参加して、いろいろと考えさせられる体験ができた

◇コミュニケーション力

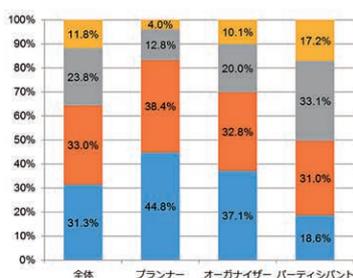
(メンバーと関わりあうことができた)



1. 他のメンバーに対して自分の意見を伝えることができた
2. 他のメンバーと積極的に関わることができた
3. 自分の気持ちを伝えることができた
4. 他のメンバーの意見に耳を傾けることができた

◇統率力

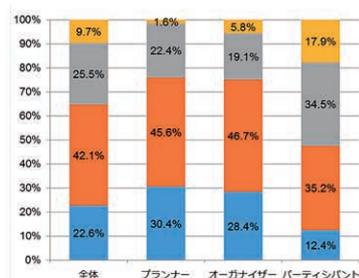
(メンバーをまとめることができた)



1. 他のメンバーに対して公平に接することができた
2. 孤立したメンバーがいまいかどうか注意を払うことができた
3. 指示を出し、効率よくメンバーを動かすことができた
4. 活動の目的、あるいは目標を達成させることができた
5. リーダーシップを発揮することができた

◇企画力

(創造、計画し、実現することができた)



1. 活動に関して様々なアイデアを発想することができた
2. 活動を実現するために適切な計画を立てられた
3. 活動を実現する際に生じる問題点を予測しておくことができた
4. ある程度計画通りに活動を遂行できた
5. 活動に関係する情報を多く集めることができた

図11：2015年度の人間力の達成度に関する回答の割合

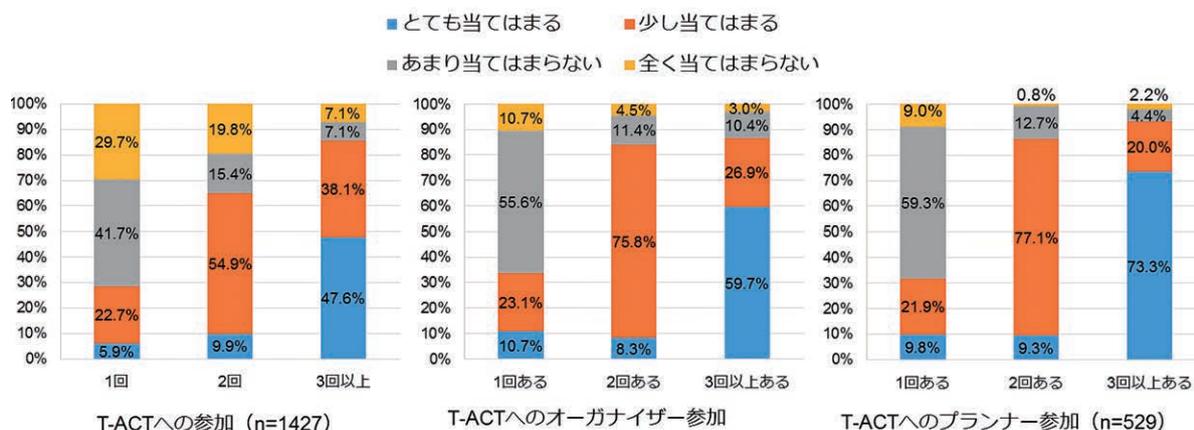


図12：T-ACT 活動による学生生活の充実感への効果
(「T-ACT での活動によって学生生活が充実した」に対する回答)

3. T-ACT 表彰

活動の奨励を目的に、年に二度、企画の独自性が高く、参加者の人間力をより高めたと評価される企画を表彰している。2015年度は、表彰する企画を、活動報告会において口頭発表（プレゼンテーション）に対する投票形式で決定した。文書での活動報告をもって最優秀賞等を決めるための活動報告会にノミネートされた。活動報告会でのプレゼンテーションに対する投票によって、表彰された企画は表1の通りである。

表1：2015年度上半期・下半期に表彰された企画

賞	上半期		下半期	
	承認番号	企画名	承認番号	企画名
最優秀賞	14075A	筑波大学写真コンテスト-私が見る筑波、君が見る筑波	15013A	みんなで作る筑波大学産昆虫目録
優秀賞	14053A	UNICO～星空から笑顔の輪を vol2～	15025A	BiViつくばで駅前キャンパス！
	14062A	CoMedつくば	15028A	話したくても話せない・・・～「場面緘黙」と向き合って～
特別賞	14061A	筑波大学「学生YOSAKOI」企画チーム“Nō NAmE.”	15016A	盆踊りプロジェクトー文明開化と交流ー
	14068A	Tsukuba for 3.11 第8弾	15024A	アカベラとダンス～みんなの人生を一つの作品に～
サポーター賞	15011A	ホンモノ体験～つくばの食を味わう～	15001A	筑波大学ビッグバンドプロジェクト
	14074A	みんなで宇宙芸術-人工衛星に映ろう！-	15019A	T1 グランプリ 2015
ノミネート賞	15005A	Young Americans つくばスペシャル2015に参加しよう！	15026A	ゆめ花火プロジェクト2015
	15020A	野外DJイベント『Vivid impulse!』		
ノミネート数	21		18	

4. 全学レベルにおける T-ACT の周知率・関心等

2015年度4月の調査において（有効回答は学群生7,570名、大学院生3,830名）、本学内の学生における T-ACT の周知率は、学群生で63.1%、大学院生で46.2%であり（「T-ACT について知っている」に対して、「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した割合。図13参照）、昨年度と同等であった。また、「T-ACT の活動に参加してみたいと思う」（「とても当てはまる」「少し当てはまる」）と回答した学生は、学群生で36.9%、大学院生で30.5%であり、昨年度より若干の低下をみた（図14参照）。一方で、「T-ACT の活動に参加したことがある」（「1回」「2回」「3回以上」）と答えた学生は学群生で12.5%、大学院生で12.3%と1割程度ではあるが、昨年度よりも増加がみられた（図15参照）。

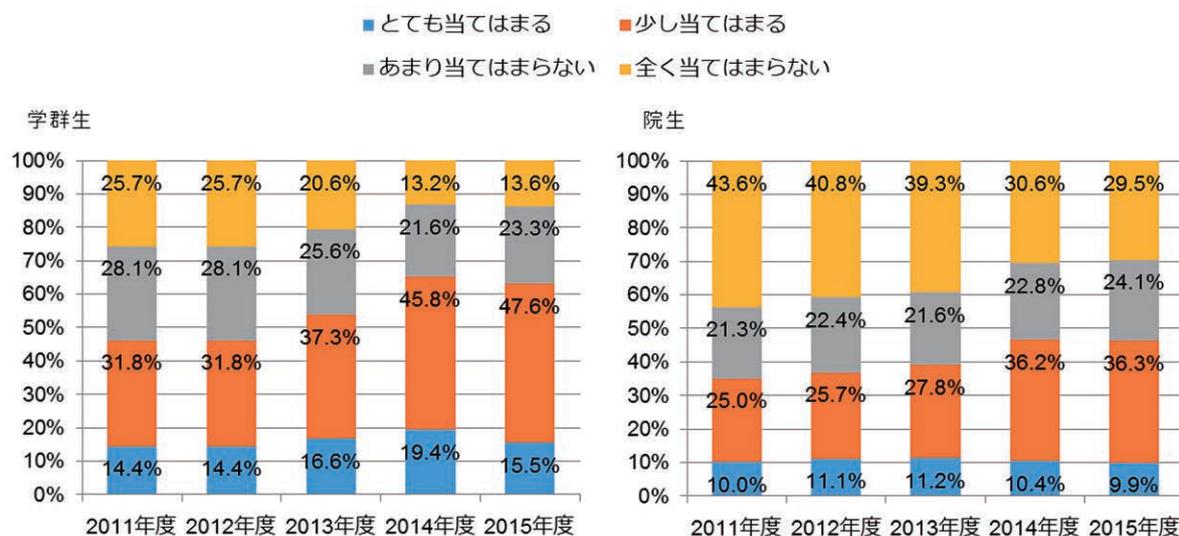


図13：過去5年間の T-ACT の周知率
（「T-ACT について知っている」に対する回答）

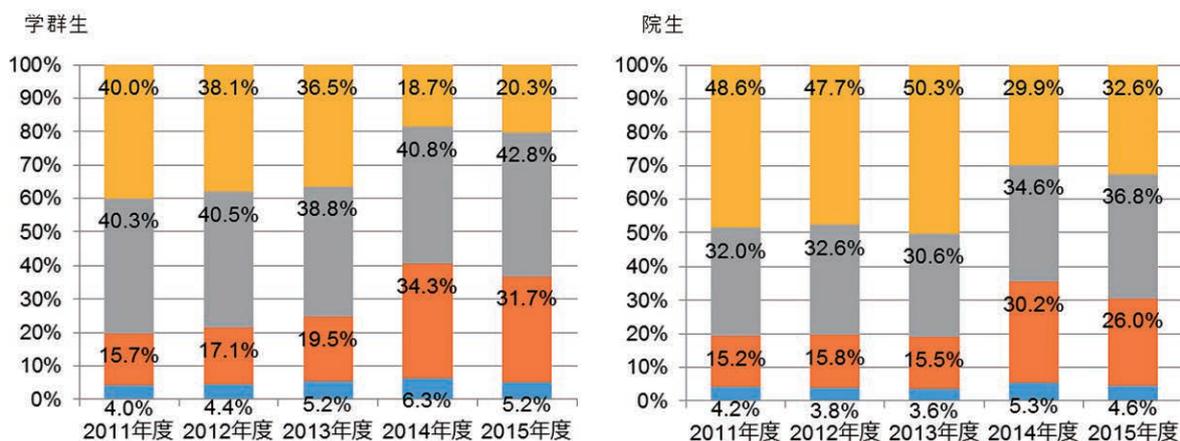


図14：過去5年間のT-ACTへの関心度
 (「T-ACTの活動に参加してみたいと思う」に対する回答)

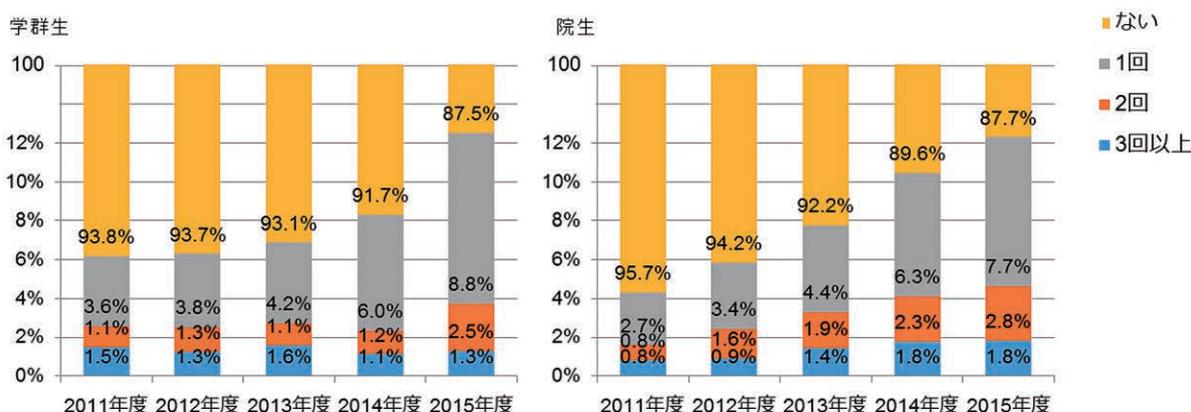


図15：過去5年間のT-ACTへの参加率

学生の社会貢献活動・ボランティア活動に参加してみたいというニーズは、2015年4月中旬の健康診断時に実施した調査によって大学生・大学院生ともに55%程度の学生にあることがわかっている(図16参照)。ゆえに、今後のT-ACTボランティアの周知と参加の促進により、ますますの学生による活動の活性化が期待される。

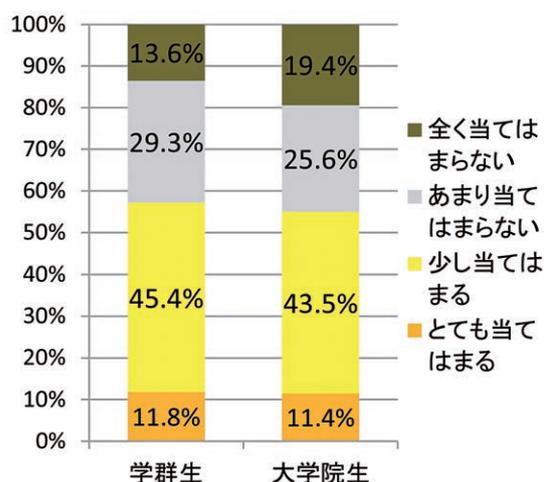


図16：社会貢献活動・ボランティア活動参加のニーズ
 (「社会貢献活動・ボランティア活動をしてみたいと思う」に対する回答)

5. 公開シンポジウム・活動報告会の開催

学生のさらなる活動の発展と地域参画を促進するため、筑波大学内外に向けて学生の活動とT-ACTの成果を発信し、意見交換や交流による関連組織との連携を図るイベントを開催している。

2015年度の公開シンポジウムは多様化する学生に対して支援を継続している他大学との交流を図ることを目的に、「繋がる力・広がる絆」をテーマとして開催した。

まず、本学T-ACTに関わった学生から、自分たちの思いを現実にしていくことの難しさや、人との関わりの

重要性を学んだこと、活動をしていく中で、社会貢献へとモチベーションに変化があったことなどの報告があった。また、T-ACT サポーターとして新たなプランナーを支援することにより、自分の知らなかった事を知ることができたり、企画運営の方法などのスキルが身に付いたりするなど、とても刺激になることからT-ACT サポーターを増やしていきたいとの報告があった。

次に、法政大学課外教養プログラム (KYOPRO) からは、企画の中で様々な職員や身近な社会人と自由活発に意見を出し合える環境で、相手の意見も組み込む対話力が向上したこと、自分の考えを客観的に捉え、また相手の視点に立って複眼的に物事を考え行動する力が身に付いたことなどが報告された。また、留学生との交流を、各キャンパスの特色を活かした学生間の交流促進、今回のシンポジウムのテーマである「繋がる力・広がる絆」のように、他大学とも協力して、是非一緒に活動していきたいとの報告があった。

続いて、明治大学 M-Navi プログラムからは、M-Navi の学生委員が、学生のニーズをまとめて講演を企画立案していること、日本文化体験生け花編の実施、新入生に向けたプログラムの提供などによって、明治大学の学生に社会人基礎力を身に付けるためのきっかけを提供していることなどが報告された。

最後に、東京工業大学学生支援センター自立支援部門からは、ボランティアグループでは、東日本大震災での写真洗浄の活動や東北物産展の開催、東京工業大学での防災訓練の啓発活動をしていること、学生調査スタッフは、学生へのアンケート調査結果をまとめて提出した提言書が実現されることで学生が大学を変えられるという大変貴重な体験ができたことの報告があった。また、日本の最先端技術について日本人学生と海外学生を交えてディスカッションなどを行うことで、グローバルな視野での思考の獲得や、アジア各国の学生間ネットワークを作ることも目的としている SAGE の活動、大学の授業にはない教養教育や美学、哲学などを取ってテーマにしたプログラムを企画し、社会に出てもすぐに戦力になれるようなグローバルな人材を育てていく理工系学生能力発見開発プロジェクトの活動が報告された。

どの大学もフィロソフィーは共通している部分があり、学生は成功したり、失敗したりしながらも得るものがあり、学生たちのやる気をうまく支援できている仕組みとしての成功していることが確認でき、これを機会にお互いの大学の交流がますます深まっていくことのきっかけとなりうる大変有意義なシンポジウムになった。また、本シンポジウムの様子は、常陽新聞、常陽リビングに掲載され、T-ACT の活動が地域に広報された。

日時 11月18日 (水) 15:00~17:30 (17:45~19:00 交流会)

場所 大学会館 ホール



2015年度の活動報告会は、T-ACT アクション表彰と対応させて、上半期、下半期の2回実施した。新しい取り組みとして、活動報告を行う企画についてはT-ACT 推進室員による選考でノミネート企画を決め、報告会において企画実施者が活動報告をプレゼンまたは映像放映で行い、T-ACT 推進室員および来場者による投票で賞を決定するというものを行った。

上半期においては学内教室で実施し、8つのアクション企画が活動報告を行い、その後、発表者および来場者による交流会を行った。発表後の投票により各賞の受賞者が決まり交流会において受賞者の発表を行ったが、表彰は前述の公開シンポジウムの交流会の際に行われた。

下半期においては、学外参加者にも多く参加してもらえるよう、つくば駅前の都市型商業施設 BiVi つくばにある筑波大学サテライトオフィス (つくば市つくば総合インフォメーションセンター含む) で開催した。上半期と同様に8つのアクション企画の報告およびポスター発表、またそれと併せT-ACT ボランティアで活動した3組の学生の発表も行った。活動報告会終了後には、参加者による交流会も行った。アクション企画の表彰については投票後速やかに集計を行って各賞の受賞者を決定し、交流会の中で表彰式を行った。学生、教職員、地域の方々など約70名が参加し、学生の活動を学内外に発信するための良い機会となった。

【上半期活動報告会】



日時 9月30日(水) 15:15~17:30
 場所 1C201教室および学生コモンズ(交流会)

【下半期活動報告会】



日時 3月24日(木) 15:00~17:30
 場所 BiVi つくば 筑波大学サテライトオフィス

6. 地域連携への取り組み

【ボランティアカフェ～まつりつくばのゴミ分別ステーション～】

毎年8月下旬に行われるまつりつくばにおいて、学生サークルの環境サークルエコレンジャーがつくば市と協力してゴミの分別活動(エコステーション)を実施している。その活動に際し、学生・地域市民との交流、団体同士の情報交換などを通じてボランティアへの関心を喚起して諸団体の連携を強化し、効率的なエコステーションの運営を行うためのアイデアを募り、また、参加する学生、地域の市民、中高生などの連携を深めることを目的としてT-ACTが協力し、ボランティアカフェを行った。

このカフェには、T-ACTスタッフ、環境サークルエコレンジャー、つくば市役所職員、つくば市内の中高生などが参加し、「来場者に対するゴミ分別の周知について」、「過酷な活動を楽しい活動に変えるための工夫について」という2つのテーマについて話し合った。

地域の中高生からも多くのアイデアについて意見を出してもらうことができ、学生としてもエコステーションの運営のための参考になるカフェであった。エコステーションを管轄するつくば市の職員の方に参加していただくこともできて、意見や要望を直接伝えられることができ非常に有意義なものとなった。



日時 7月29日(水) 15:00~17:00
 場所 総合交流会館 多目的ホール

【ボランティアカフェ @ 雙峰祭】

11月6日から8日に行われた筑波大学学園祭、第41回雙峰祭において、7日と8日に、筑波大学学生ボランティアセンターピアラとT-ACTの共催によるボランティアカフェを開催した。7日はLGBTサークルにじひろが話題提供者となり「ダイバーシティ～セクシャリティについて～」をテーマに、8日は環境サークルエコレンジャーが話題提供者となり「環境問題～つくば市のゴミ問題～」をテーマにして行った。それぞれ、学生、地域活動団体の方々、筑波大学教職員がテーマに沿って意見を出し合い、身近な問題について考える機会となった。



日時 11月7日(土)、11月8日(日) 各11:30~13:00
場所 スチューデントプラザ 2階談話室

【ボランティアフェスタ in つくば】

つくば市社会福祉協議会が主催する「ボランティアフェスタ in つくば」がイーアスつくばにて行われ、筑波大学学生ボランティアセンターピアラの協力のもと、展示ブースにT-ACT及び大学の地域連携、学生のボランティア活動などに関する出展を行った。フェスタには、つくば市社会福祉協議会のつくばボランティアセンターに登録する地域の団体など42団体が参加し、ステージ発表、展示・販売ブース出展、体験コーナー出展を行った。

展示ブースでは22団体によるボランティア活動、市民活動の紹介や製作物の販売(福祉バザー)などが行われ、ブースのシールラリーも実施された(景品にT-ACTペットボトルホルダー30個提供)。T-ACTブースでは、T-ACTでの学生の活動紹介、学生ボランティアセンターピアラの活動紹介、企画室の社会貢献プロジェクトの紹介などを行い、訪問者や他団体との情報交換などを行った。また、センター入試と同日ということで、環境サークルエコレンジャープレゼンツとして環境問題センター試験を実施し、大人(上級編)約30名、子供(初級編)約10名の参加があり、参加者には参加賞としてT-ACTクリアファイルとルーズリーフを配布した。



日時 1月17日(日) 11:00~16:00
場所 イーアスつくば センターコート

編集後記

2008年度に学生支援GPからスタートした、つくばアクションプロジェクト（T-ACT）は2012年度と2014年度に支援体制が拡充され、現在はT-ACT推進室として活動しております。それに伴って全学的にT-ACTの周知率と関心は高まりつつありますが、その高まりに対して2015年度はある程度の落ち着き、いわば高原現象のようなものがデータ上では見られる年度であったようです。この4月より新任の身で実体験を伴ったことを述べるのは難しいのですが、どうやら企画一つ一つの質の向上が認められるものの、企画申請自体は減少してしまったことには、学生のT-ACTを利用するスタンスの変化が影響しているのかもしれませんが。2015年度実施状況報告で概括したように、学生企画運営者の実数が延べ数ほどは減少していないことや、継続的に行われている企画があること、一つ一つの企画の質が向上していることは、ある程度一定の学生が腰を据えてT-ACTシステムを活用しているという表れである可能性もあります。一方で、T-ACTが本来想定していたものは、短期的単発型の企画を通じて学生の人間力の成長を促すというものでした。すなわち、T-ACT本来の想定を超えた形で、学生の自主性が発揮されつつあるのかもしれませんが。とはいえ私は、T-ACT本来のコンセプトが、学生の「やってみたい！」という気持ちを実現させるための一歩を踏み出しやすくしてくれると考えていますし、そもそもの「やってみたい！」に対して貴賤を問わないところに魅力を感じています。T-ACTと学生の関係を見直す過渡期にある今こそ、学生のT-ACTを活用する姿勢の変化を読み取り、T-ACTというシステムの見直しを検討する一方で、本来の想定である短期的単発型の企画、（言葉を選ばずに言えば）雑多で混沌とした自主性の発露も決して忘れずに、学生の成長を支援していきたいと考えています。

T-ACT 専任教員

黒田卓哉

地域の方々の協力により、昨年度T-ACTボランティアで活動をした学生数は述べ100名程度まで増え、活動分野も多様になってきました。学生サークルの中にも、主に、または一部ボランティア活動をするを目的としたものが数多くあり、日々、学生たちがさまざまなボランティア活動を行っているという現状があります。

しかしながら、学生たちが“特定の”地域活動を行う中で、地域目から見た学生の活動は必ずしも地域の課題の中にあるニーズに満足に対応できているとは限りません。未だ大きな爪あとを残す東日本大震災や身近なところで起きた洪水災害、喫緊の対応が求められる熊本地震。これらの非常事態に学生に求められる役割とは何なのでしょう。

学生たちから声があがり、普段様々な分野でボランティア活動を行う学生たちを有事の際にひとつにまとめるボランティアネットワークの構築が進められています。このような学生たちの自発的な動きはとても大きな力になり、また、このような柔軟性のある動きこそが地域には求められているのだと思います。T-ACTボランティアの次のステップとして、学生たちの可能性を存分に発揮してもらい地域のニーズに的確に応えられるようサポートしていきたいと思っています。

T-ACT ボランティアアドバイザー

鈴木 庸

平成 27 年度 T-ACT 推進室員一覧

所 属	職 名
室 長 田 中 博 生命環境系	教授 学生生活支援室長
副室長 加 賀 信 広 人文社会系	教授
室 員 五十嵐 沙千子 人文社会系	准教授
鈴 木 大 三 システム情報系	助教
杉 江 征 人間系	教授
丹 羽 隆 介 生命環境系	准教授
中 内 靖 システム情報系	教授
後 藤 嘉 宏 図書館情報系	教授
三 輪 佳 宏 医学医療系	講師
澤 江 幸 則 体育系	准教授
山 田 博 之 芸術系	助教
田 中 真 理 人間系	助教
上 田 孝 典 人間系	准教授
大久保 智 紗 学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
金 井 浩 紫 学生部学生生活課	課長

平成 28 年度 T-ACT 推進室員一覧

所 属	職 名
室 長 田 中 博 計算科学研究センター	教授 学生生活支援室長
副室長 加 賀 信 広 人文社会系	教授
室 員 朴 宣 美 人文社会系	准教授
仲 重 人 人文社会系	教授
杉 江 征 人間系	教授
丹 羽 隆 介 生命環境系	准教授
中 内 靖 システム情報系	教授
後 藤 嘉 宏 図書館情報系	教授
三 輪 佳 宏 医学医療系	講師
澤 江 幸 則 体育系	准教授
齋 藤 敏 寿 芸術系	准教授
田 附 あえか 人間系	助教
唐 木 清 志 人間系	准教授
黒 田 卓 哉 学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
金 井 浩 紫 学生部学生生活課	課長

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 28 年 6 月発行

筑波大学 T-ACT 推進室

〒 305-8577 つくば市天王台 1-1-1

TEL 029 (853) 2222



T-ACT

つくばアクションプロジェクト
TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

